

# Monthly Report

SENDAI UNIV.  
PUBLIC RELATIONS  
Vol.168 / 2020 .APR  
Vol.169 / 2020 .MAY  
(合併号)

## 本学初／オンライン入学式を挙行



### 祝辞を述べる遠藤保雄学長

本学初となる、オンラインでの入学式を4月20日（月）に挙行しました。

今年度の「令和2年度仙台大学 第54回体育学部 第23回大学院 入学式」は、新型コロナウイルス感染のリスクを考慮し、当初、4月3日に規模を縮小して行うことを予定していました。しかし、その後の感染拡大の動きをも踏まえ、4月20日に新入生の健康と安全の確保の観点から、本学史上初のオンラインでの開催となりました。入学式では、遠藤保雄学長より、「皆さん入学おめでとう。これから体育・スポーツ健康科学を専門的に学ぶ皆さんにとって、この危機の事態に直面し、自分としてできることは何なのか、本学の学びの中で考えていく発想の展開が大切なのではないかと思います。今日から学ぶ4年間の大学生活を通じ、恐怖と不安を乗り越えて、未知の課題に取り組むこと、そして逞しく成長していくことを確信しています」と激励しました。

また朴澤泰治理事長・学事顧問は「皆さんは高校卒業まで用意されるのが当たり前と考えていた環境で、日々スポーツや体育に取り組んできました。それが今、屋外スポーツは使用禁止、集団トレーニングや対面での指導は禁止など、身体活動を行う場面が大きく様変わりしています。その結果、運動能力を向上させる為、あるいは競技実績を上げる為など、身体活動の方法自体を変更させなければならないという事態に遭遇しています。しかし、逆にそこがまさに勉学を専とする、体育スポーツ・健康科学の本質でもあります。新型コロナウイルスによるパンデミック来襲というこの自然界の挨拶に対して、答礼のバイオニアとして育っていただくべく、充実した学生生活を送ってもらいたいと思います」と祝辞を送りました。

新入生694人（体育学科345人・健康福祉学科110人・運動栄養学科81人・スポーツ情報マスマディア学科50人・現代武道学科51人・子ども運動教育学科35人・編入学生7人・大学院スポーツ科学研究所15人）が、入学を許可されました。

## く 目 次 く

・本学初／オンライン入学式を挙行	1
・仙台大学柔道部誌／「萩と桜」が創刊されました ・自宅で出来るトレーニング動画を公開／トレーニングセンターより ・メンタルトレーニングのススメ／学生相談室より	2
・5月11日（月）遠隔授業が開始しました ・全学生へのiPadの貸与について ・「高齢者向け健康づくり運動」の動画を公開しました／スポーツ健康科学研究実践機構より	3
・伊達宗弘客員教授が仙台藩志会会長に就任しました	4
・たかがあそび。されどあそび。	5
・芝草通信 NO. 13	6 ～
・「高校スポーツの安全を守る」Vol. 25 ・自宅でできるエクササイズを紹介しました／セベツ・アリーナ ・仙台大学附属明成高等学校の令和2年度ボスターが完成	8
・令和2年度 新任者紹介	9 ～ 12

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室

直通 0224-55-1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

## 仙台大学柔道部誌/「萩と桜」が創刊されました

このたび、令和2年3月仙台大学柔道部誌「萩と桜」が創刊されました。

4月をもって本学着任20年を迎えた南條充寿部長（現代武道学科長）が、これまでの20年の歩みやこれからを「回想」。また歴代部長の先生方や卒業生の方々による、当時のエピソードなどが紹介されています。



## 自宅で出来るトレーニング動画を公開/トレーニングセンターより

4月21日（火）仙台大学公式チャンネル（YouTube）にトレーニングセンターが作成した「自宅で出来るトレーニング」を公開しました。

仙台大学トレーニングセンターでは、新型コロナウィルス感染拡大防止のため、活動を休止している生徒や学生の皆さんに役立てていただこうと、自宅で出来るトレーニング動画を作成しました。

30種類以上の種目を以下の5つのジャンル（ダイナミックストレッチ、下半身トレーニング、上半身トレーニング、体幹トレーニング、持久力トレーニング）に分け、項目ごとに解説ムービーを添えてわかり易く説明しています。

また、メニューをどう組み立てたら良いか参考にしていただけたために、『お試しプログラム』も準備しました。この機会に、種目のやり方だけでなく、ウォームアップや筋力トレーニングに関する知識とノウハウを身につけ、今後の皆さんの活動に活かしていただければ幸いです。

＜報告：トレーニングセンター S&Cスタッフ一同＞



## メンタルトレーニングのススメ/学生相談室より

4月24日（金）仙台大学公式チャンネル（YouTube）に学生に向けた「メンタルトレーニングのススメ」を公開しました。

学生相談室では、今回の新型コロナウィルス感染拡大による不安やストレスに対する心の持ち方や向き合い方について、参考となる動画を紹介しています。

この動画は、スポーツ心理学やメンタルトレーニングを担当している教員が作成したもので、「メンタルトレーニングのススメ」となっていますが、アスリートだけではなく、どの学生にも当てはまる内容です。ぜひご覧ください。

＜報告：学生相談室＞



## 5月11日（月）遠隔授業が開始しました

新型コロナウイルス感染症の影響で延期となっていた本学の授業について、5月11日（月）からオンライン授業が開始しました。

遠隔授業は、文部科学省が授業方法その他、大学の運営方法について定めている「大学設置基準」、および具体的方法を示す告示（平成13年告示51号）に基づき、実施が認められた講義方式です。

その方式としては、「同時双方向型」（教員と学生とのやりとりを授業内で同時に見える）および「オンデマンド型」（教員から動画等で一方通行の授業を行う）の2つの方式が認められています。いずれも決められた時間帯に実施することを基本としますが、今回の新型コロナウイルス発生に伴い、更に、さまざまな弾力的運用が認められています。

本学では、両方の方式を併用することとし、「同時双方向型」では、Googleの[Classroom]や[Meet]等のソフトの利用をしています。

なお、学生の皆さんへの新型コロナウイルスへの感染を第一に考え、当面、6月末まで遠隔授業を行う予定です。



授業の撮影を行う川戸湧也助教

## 全学生へのiPadの貸与について

本学では、6月末まで予定している遠隔授業の実施にあたり、学生のみなさんが統一した好環境で遠隔授業を受講して頂ける為に、5月19日（火）～5月25日（月）にかけて大学院生も含め全学生2579人にiPadを貸与しました。

### ●遠藤 保雄学長より

今回のiPadの全学生への貸与は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として遠隔授業を受講する学生の皆さんへの受信環境の充実と支援という、今直面する課題の解決につなげることを大きな目的としています。同時に、現在の情報社会の中で活躍するための基礎力、すなわちICTリテラシーのノウハウを、このiPadを利用して学生の皆さんに身につけてもらいたいという、もう一つの目的があります。このことを踏まえ、新型コロナウイルスの問題が収束しても、学生の皆さんが卒業するまでiPadを貸与することとしました。

今後、授業や部活動などで十分に活用されることを期待しています。



## 「高齢者向け健康づくり運動」の動画を公開しました/スポーツ健康科学研究実践機構より

5月15日（金）仙台大学公式チャンネル（YouTube）に「高齢者向け健康づくり運動」を公開しました。



後藤佳恩新助手

### ●仙台大学 スポーツ健康科学研究実践機構 健康づくり支援班より

現在、新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため外出を控え、運動不足や友人との会話なども少なくなっているのではないでしょうか。緊急事態宣言が解除されても、油断できない状況が予想されます。

高齢者の方が運動不足になると筋力が低下し（とくに脚の筋力）、転倒・骨折する可能性が高くなります。また、コミュニケーション不足から認知症になる危険性もあります。

今回高齢者向けの運動動画を紹介します。内容は、頭の体操、ストレッチ、脚の筋力トレーニングで約15分となっております。インターネットや動画サイトに馴染みのない方も多いと思いますので、ご家族の方などに紹介していただければ幸いです。

ぜひ、ご自宅で実践してみてください。



＜報告：スポーツ健康科学研究実践機構 健康づくり支援班 田中亨・後藤佳恩＞

田中亨新助手

# 伊達宗弘客員教授が仙台藩志会会长に就任しました

## ●仙台藩志会会长就任にあたって

私はこの4月、はからずも仙台藩志会会长を拝命した。

この会は、仙台藩祖政宗をはじめ歴代藩主の遺徳を顕彰し、歴史・精神・文化などについて研鑽し広く社会に貢献することを目的とし、戦前からの会も引き継ぎ昭和50年結成された会である。青葉祭り、仙台七夕など県内のイベントはもちろん、北海道、愛媛県、岩手県、福島県など旧仙台藩ゆかりの地や、慶長遣欧使節ゆかりのローマやメキシコなど様々な場所で、宮城のPRに大きな役割を果たしている。

また月一回のペースで一流の先生を講師に招き受講者を公募し、仙台や宮城の歴史や文化を多角的な面で捉えるとともに歴史探訪会なども行っている伊達学塾を開設している。そのほか学術的な色彩の強い「藩報 きずな」という会報を毎年2回発行し、広く配布している。とかく藩志会というと旧仙台藩士の子孫の集まりと思われがちであるが、趣旨に賛同している人を幅広く受け入れながら、大切な役割を担ってきた会である。「士を志」に変え、多くの人々に参加を呼びかけてきた会であり、いまだにその精神を引き継いで活動している全国唯一の会である。

知事や仙台市長や国會議員、県会議員、ゆかりのある都道府県の方々にもご参加いただいている。会員も各界で活躍されている方々が多い。ご縁があって私も総会や伊達学塾で何度も講演をさせてもらってきた。

前任者は多数の著書があり数々の賞を受賞、日本物理学会会長を務められ、現在は財団法人新世代研究所理事長の日本の物理学会を代表する伊達宗行氏である。従兄とはいえ格が全く違うし、歴代会長もみなそうそうたる方々が務められてきた。

熟慮したすえ理事長に「メール」でご相談した。「引き受け頑張るように」との激励のメールをいただいた。もうやるしかない。

私は宮城県図書館長時代「二十二世紀を牽引する叡智の杜づくり」をテーマに事業を進めた。この趣旨は「次代を担う人たちに自信と誇りを持って語れる日本やふるさとの歴史や文化をしっかりと伝える。これがあって初めて堂々と生きることが出来ました世界に伍して行くことができるのではないか」という思いからである。図書館に赴任した当時国指定重要文化財『坤輿萬國全圖』が一件指定されていただけであったが、図書館の職員の叡智を結集し、長い間に培ってきた全国の著名な学者の協力を得て、国・県指定文化財八千点を有する全国屈指の文化財を所有する図書館にした。文化庁の特段の配慮を受け京都国立博物館の修復施設を使わせていただき、国の文化財指定を前提にした修復事業を行う国宝修理装潢師連盟の高度な技術で修復作業を行い、あわせその修復過程を高精度のデジタル画像に収録、それを活用し多数のレプリカを作成した。

この事業は国のモデル事業にも指定され、これらのレプリカは学校や図書館、公民館などへ無償で積極的に貸し出し、直に目で見また手で触れていただき特に若い人たちの豊かな感性の涵養に大きな役割を果たしてきたと自負している。

今後は、前会長はじめ皆様の嘗々と積み重ねられた努力に恥じることのないように、今まで培ってきた経験、ノウハウと人脈をフルに活用し、仙台藩志会に若い人たちがさらに多く参加し、社会的に大きな役割を果たしていくだけの環境を整えていくことが、これから私のに課せられた責務と考えている。

＜報告：伊達宗弘客員教授＞



伊達宗弘客員教授



年2回発刊している  
「藩報 きずな」

## たかがあそび。されどあそび。

今の世の中、新型コロナウイルスの影響から、社会全体が制限のかかった生活を余儀なくされています。

特に保育現場では、「三密」を避けるため、園内は換気をよくし、園での過ごしかたも、子ども同士が近距離で集まったり接触しすぎたりしないよう保育をすすめています。しかし、子どもたちはどうしてもくっついていきがちなため、いつも以上に目を離せない上、その度に注意しなければならないと聞いています。保育の現場は保育者も子どもも、普段なら注意されないようなことで叱られてしまうこと、また叱らないといけないことがストレスになっているようです。

ここ近年の幼児教育は、「自分に自信を持つこと」や「私はがんばれる」といった目標に向かって頑張る力、「もうちょっと頑張ろう」や「ちょっと我慢しよう」といった感情をコントロール力、「○○したら喜んでくれるかなあ」といった人とうまくかかわる力という気持ちや感覚を育み、身に付けることが、大人になってからの生活に大きな違いを生じさせるという研究成果が出てきているといわれています。これらの力は「非認知的能力（社会情動スキル）」といわれ、その心を育てるには乳幼児期に、大人との基本的信頼・愛着関係を築くことが基盤となり、「自分は愛されている」そして、「何かあれば助けてもらえる」といった自己肯定感を高める環境があるから育つのであって、今、避けられている「三密」が根底になっているといっても過言ではありません。

乳幼児期の運動あそびは、からだの育ちはもちろん、こころの育ちにも大きな影響を与えます。その中でも、人とかかわりを持ちながらあそぶ「仲間づくりあそび」は、運動を通して人間関係を築いていく社会性を育む要素が多く含まれています。

仲間づくりあそびには、人とふれあいながら「力をあわせる（協力する）」や「力を比べる（競い合う）」といった動きをおこなうあそびがあります。例えば、力をあわせる「なべなべそこぬけ」では、相手とリズムや力を合わせたり、力を比べる「背中ずもう」ではどっちの力が強いかを競い合います。これらのあそびを行うと、最初の頃は、相手と上手く力合わせが出来ずに力の加減が分からず腕を無理やり引っ張ってしまったり、力比べでは強く押しすぎて相手に痛い思いをさせて喧嘩になったりといったトラブルがよく起こります。「勝ちたい」という気持ちが強すぎると相手の気持ちを思いやる前に自分の力を100%出してしまい、その結果、相手に嫌な思いをさせる。しかし、その失敗がいろいろなことに気づき、今度は加減をしようとか、自分の力を相手に合わせて調節することが出来るのです。人を思いやるこころは大人がすべてを教えるのではなく、日々の友達や保育者とのかかわりの中で、子ども自身が、他者の存在や思い、ルールの必要性などに気付いていくプロセスを経験し、そのプロセスを援助していくことが大人の役割であると考えます。



今、この経験する環境が子どもには不足しています。今だから経験できること、今しか経験できないこと。大人も含め、子どもたちに早く当たり前に「群れてあそぶ」ことが出来る平穏な日常に戻って欲しいと願います。

＜報告：原田健次 教授＞

## 5月、6月の芝生管理 (暖地型芝生と寒地型芝生) について

この時期の維持管理は新葉が伸び始め、生育に合わせて刈り込みを行います。

\*自宅などの芝生の参考にもしてください。

### 1. 噴水まわりの天然芝生の維持管理 (暖地型日本芝生)

連休明け頃から高麗芝の新葉も出てきますので、一面が休眠中の白っぽい色から少しづつ緑色に変化してきます。匍匐茎が周辺に伸び始め、節ごとに根を下ろすと共に、上に向かって直立系が伸びます。この繰り返しを行い、長い物は50cm以上にもなり匍匐系が裸地を埋め尽くします。雑草との区別が色の違いで分かり易い今のうちに除草しておくと楽です。

- ①刈り込み：月1回または2週間に1回行います。
- ②水やり：普通は必要ありません。しかし芝張を行った後や補修の後で、降雨が期待できない時には、乾燥を防ぐために水やりを行います。
- ③肥料：化成肥料 (N-P-K=10-10-10) を1m<sup>2</sup>当たり20g程度施します。
- ④病害虫防除：葉に淡黄色の斑点ができるさび病が発生することがあります。一時的なもので、芝が枯れてしまうことはありませんが、定期的な刈り込みを行って、芝が蒸れないようにして防除しましょう。
- ⑤草取り：裸地や密度の薄い部分には雑草が生えやすいので、早めに除草します。

### 1B. 噴水まわりの天然芝生の出穂 (しゅっすい) 状況

高麗芝が出穂すると緑の芝草は、こげ茶色の穂が一面に現れてくるので、成長する前に刈り込みを行う。常温では発芽しにくいので一般的には高麗芝は栄養繁殖で造成している。芝生生産地では栄養繁殖で密度が濃くなつた芝生を厚さ5cm位に切り込んだ芝生をソッド状態にして出荷している。切り取った芝生の表面に目土(目砂)を施して施肥などの維持管理をして再度芝草を生育させて次の出荷に合わせている。珍しい例として京都府立桂高校(農業系)は小型な特殊温室で高麗芝生の種子繁殖を実現させている。



写真 1. 噴水周り芝生 4体前【接写】出穂状況 (こげ茶色の穂)



写真 2. 噴水周り芝生 4体前【遠景】出穂が多くなり焦げ茶色に変化している

### 2. 第二グラウンド天然芝生ラグビー・アメリカンフットボール場の維持管理 (寒地型洋芝 + 暖地型洋芝)

- ①刈り込み：寒地型芝生が生育し始めたら3日～5日に一度くらい行います。
- ②水やり：施肥の後に十分に行います。寒地型洋芝には乾燥が続くときは散水が必要になります。
- ③肥料：気温の上昇を観察しながら化成肥料 (N-P-K=10-10-10) を1m<sup>2</sup>当たり20g施します。単価の安い粒状の肥料を施すので降雨の前に施肥します。粒肥が溶ける前に芝刈りを行うと草刈り機に巻き込むので、施肥と草刈りのタイミングを計って実施します。
- ④病害虫防除：シバツトガの飛来を注意して観察し、幼虫を見つけたら殺虫剤の散布タイミングを図る。孵化を繰り返して幼虫が大きくなるので、幼虫の太さがマッチ棒より細い1令の時は食害も大きくないので様子を見て、マッチ棒の太さの2倍くらいに成長した4～5令になったころ合いを図って殺虫剤を散布する。

4月号に予告した通り寒地型芝草の播種作業を4月6日～9日までに実施した。その作業を写真で説明する。全面を4分割してトールフェスク2種類、ペレニアルライグラス2種類を播種した。養生期間は3週間必要。

- ① サッチ除去A：バーチカルカット機械により深さ2～5cm位に切り込みを入れてサッチを浮き上がらせる。
- ② サッチ除去B：スイーパー機械により浮き上がったサッチを除去する。
- ③ 播種作業：専用シーダー機械により均一に播種する。
- ④ 目砂散布：専用砂散布機械により均一に散布する。
- ⑤ 転圧：軽いローラーにより目砂の不陸整正と刷り込みを行う。
- ⑥ 水やり：種の発芽促進のためにほぼ毎日行う。
- ⑦ 施肥：生育促進のために化成肥料を20g/m<sup>2</sup>程度散布する。



写真3. 第2グラウンド天然芝生【全景】  
4月上旬の気温がまだ低く発芽が少ない



写真4. バーチカルカット機械（外注）【近景】  
トラックターの後部にバーチカルカットアタッチメントを取り付けた専用機械による芝草の根切りやサッチの掘り起こし状況



写真5. スイーパー機械（保有）【近景】  
左側奥のバーチカル機械で起こした刈りカスなどを吸い込んで掃除する



写真6. 3連乗用リールモア（保有）【近景】  
2台の機械操作で葉先の不揃いを調整するために草刈りを実施



写真7. バイプロシーダー（外注）【近景】  
多数の突起の付いた30cmくらいのドラムを振動させながら牽引し、地表面に穴を明けその上に種子を散布していく。



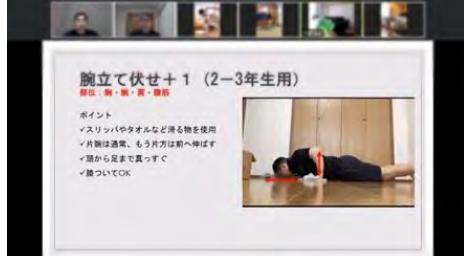
写真8. 目砂散布機械（保有）【近景】  
タイヤシャベルで積み込んだ目砂をホッパーの底部にあるベルトコンベアで後部吐き出し口に送り込み均一に散布する。

(5月26日記)

## 川平キャンパスAT・S&Cレポート

### 「高校スポーツの安全を守る」Vol. 25

担当：今野 桜 助手



新型コロナウィルスの影響で新学期の予定がずれ込み、部活動もなかなか例年のようにはできない状況が続いています。通常であれば、部活動登録が終わり正式に新一年生が入部し、6月の高校総体に向けて各部活が日々の練習に励んでいる時期です。いつもとは違った新学期のスタートに少し戸惑いつつも、川平ATルームでは活動休止期間中に筋力を落とさないようにオンラインでのトレーニング指導を行ったり、安全かつ適切に部活動再開するためのガイドライン作成をしたりしています。不活動期間が長ければ長いほど、活動再開後の外傷・障害リスクは高まります。最近は気温も上がり、梅雨の時期になれば湿度も上がるので熱中症には要注意です。特にこの不活動期間中は思うように運動できずに体力や筋力が落ちてしまった人が多くいると思います。そのように体力・筋力が落ちてしまった選手たちが安全に安心して活動再開できるよう、感染症予防はもちろんですが怪我や熱中症の注意点もふまえて、川平ATルーム利用者に向けてのガイドラインを作成していきたいと思います。

現在は誰も経験したことがないこの状況で、人それぞれ沢山のストレスを抱えています。高校生アスリート達も、いつものように学校へ行き友達との会話を楽しむ機会が減ったり、思うように体を動かせなかったりと、かなりのストレスが溜まっていると思います。今後徐々に学校を再開していくにあたり、生徒たちには普段健康に過ごし、スポーツを楽しむことができる環境がどれだけ幸せなことかを感じて欲しいと思います。これからは生徒たちの心と体が健康な状態であることが今まで以上に大切になってきます。私たち川平ATルームでは生徒たちが今何を必要としているのか、状況に合わせてどのようにして彼らをサポートしていくべきなのかを常に考えながら活動していきます。

### 自宅でできるエクササイズを紹介しました／セベツ・アリーナ

本学が招聘し、ベラルーシ新体操チームを応援することを目的として、白石市・柴田町の東京オリンピック・パラリンピックホストタウン親善大使であるセベツ・アリーナさんが、自宅できるエクササイズを5月20日（水）仙台大学公式チャンネル（YouTube）に公開しました。

アリーナさんは、ベラルーシ国立体育・スポーツ学院のフィットネスの指導者です。是非みなさんもチャレンジしてみてください。



### 仙台大学附属明成高等学校の令和2年度ポスターが完成

令和2年4月1日より「明成高等学校」から

「仙台大学附属明成高等学校」

になりました。



# 令和2年度 新任者紹介

教員14名 事務職員4名 新助手8名 臨時職員6名 計32名の皆さんが着任いたしました。

## 教員

<p>ちだ たかひこ <b>千田 孝彦 教授</b> (英語)</p>  <p>スポーツに取り組む活気溢れる学生達と共に学びあえる機会を再び得ことができて、感謝と責任の重さを実感しています。これまでの高等学校等での教育経験を活かして、学びの大切さと成長への手助けをしたいと思います。</p>	<p>たぐち なおき <b>田口 直樹 講師</b> (体育原理・トレーナー)</p>  <p>スポーツ現場や教育現場で経験したことを活かし、学生のみなさんとともに様々な活動にアグレッシブにそしてポジティブに取り組んでいきたいと思います。どうぞよろしくお願ひ致します。</p>
<p>さとう おさむ <b>佐藤 修 教授</b> (スポーツ報道)</p>  <p>37年間東北放送でスポーツの現場おりました。日々、実況中継・取材・インタビュー・言葉・表現・番組制作のことを考えていました。学生の将来の選択肢に放送が加わるよう、その魅力を伝えたいと思います。</p>	<p>いのうえ のぞむ <b>井上 望 講師</b> (野外活動)</p>  <p>大自然に囲まれた仙台大学で野外教育・研究ができる事を嬉しく思っております。年齢問わず体験を共にできる野外活動を通して、学生・教職員の方々と交流できればと思っています。どうぞよろしくお願ひします。</p>
<p>さくらい まさひろ <b>櫻井 雅浩 教授</b> (心臓血管外科医)</p>  <p>24年心臓血管外科の臨床に携わった後、7年の保健行政に関わってきました。さらに臨床研修指導医として研修医の学術支援を行ってきました。これらの少し変わった経験を学生の皆さんに伝えられたらと思っています。</p>	<p>ライ イイティ <b>賴 翼廷 講師</b> (大学院)</p>  <p>2006年の夏に交換留学生としてお世話になりました。本年度から、この思い出深い仙台大学に講師として着任いたします。本学の教育の質の向上に尽力してまいりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
<p>うじいえ やすひろ <b>氏家 靖浩 教授</b> (人の心と行動)</p>  <p>障害や病気の方の心の支えについて心理・教育・医療の多次元から究明を進めてきました。スポーツの役割の大きさも痛感します。私的にはプロ野球・千葉ロッテと高校野球のファンです。よろしくお願ひします。</p>	<p>かたおか はるひ <b>片岡 悠紀 講師</b> (バレーボール)</p>  <p>スポーツ実践で直面する困難に立ち向かい、課題解決した成功体験を一緒に味わいましょう。スポーツの価値や楽しさを正しく伝えていけるリーダーを育成できるよう、学生と真正面から向き合い、成長していきます。</p>
<p>しらはた まき <b>白幡 真紀 教授</b> (教職担当)</p>  <p>教職科目を担当します。「学ぶこと」と「働くこと」の接続に関わる支援を中心、イギリスの教育政策を研究しています。皆さんと一緒に学ぶのを楽しみにしています。どうぞよろしくお願ひいたします。</p>	<p>かはた みどり <b>加畠 碧 助教</b> (新体操)</p>  <p>仙台大学の新体操競技部は大学部活動としては東北で唯一の存在です。そのコーチとして携わることを大変うれしく思います。競技活動をはじめ、仙台大学の教育に広く貢献していけるよう、努めてまいります。</p>

## 助手

<p>こんの さくら <b>今野 桜 助手</b> (AT)</p> 	<p>昨年12月より新助手として川平ATルームで勤務をさせていただいておりましたが、今年度より助手としてお世話になることになりました。学生アスリートがより良い部活動生活を送れるよう全力でサポートしていきます。</p>
<p>ながやま ひなこ <b>永山 陽奈子 助手</b> (AT)</p> 	<p>4月1日より仙台大学のATルームで勤務しております永山陽奈子です。大学で働くのは初めてですが、少しでも学生が安心して部活動に参加出来るよう、また大学の発展に貢献できるよう努めて参りますので何卒よろしくお願い致します。</p>
<p>やまだ ひろみち <b>山田 大進 助手</b> (運動栄養)</p> 	<p>昨年度まで新助手として4年間勤務し、現在はベガルタ仙台へ管理栄養士として出向しております。現場での経験を積むと共に、「支えるスポーツ」における知見の発展へ、貢献できればと思います。よろしくお願いします。</p>
<p>すがわら まり <b>菅原 麻莉 助手</b> (運動栄養)</p> 	<p>昨年度まで新助手として勤務しておりましたが、今年度より助手として任用となりました。在仙プロ球団での栄養支援経験を大学に還元できるよう日々精進してまいりますので今後ともご指導の程よろしくお願い致します。</p>

## 職員

<p>かめだ しの <b>亀田 志努 職員</b> ( 総務室 )</p> 	<p>30年振りに古巣に戻ってきました。学生から職員へと立場は変わりましたが。昨年まで明成高校で体育教員をしておりましたが、病気の関係で継続が難しくなり、こちらでお世話になることになりました。よろしくお願ひいたします。</p>
<p>みうら るみ <b>三浦 瑞美 職員</b> ( 機構 )</p> 	<p>昨年度の8月から臨時職員として勤務し、改めて今年度より職員としてスポーツ健康科学研究実践機構に勤務させていただきます。仙台大学と地域の架け橋となるよう努めて参ります。どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
<p>いのべ つよし <b>伊野部 剛史 職員</b> ( 営繕管理室 )</p> 	<p>営繕管理室勤務。専門:音楽。大学に吹奏楽・マーチングバンド部を作ることで関西より来ました。大学はもちろん地域にも愛されるバンドを作りたいと思います。20年間幼保の現場で勤務した経験を活かし、学生に関わっていきたいと思います。</p>
<p>さとう かずひろ <b>佐藤 一拡 職員</b> ( 同窓会事務室 )</p> 	<p>本大学の第12回生です。この3月、仙台市立中学校を定年退職し着任しました。講師・現役時代の大学・同窓会の支援に感謝し、僅かでも恩返しができればと考えております。</p>

## 新助手

<p>くろさわ りょう <b>黒澤 怜</b> 新助手 (大学GT・サッカー)</p> 	<p>臨時職員時から実践機構で勤務し女子サッカー部のコーチも兼務させて頂きましたが、今年度からは明成高校の授業も兼務させて頂くこととなりました。 仙台大学と明成高校の発展に尽力していきたいと思います。</p>	<p>たかはし りんたろう <b>高橋 麟太郎</b> 新助手 (大学GT・バスケ)</p> 	<p>明成高校と仙台大学は私の母校であり、そこで働くかけていただることをとても光栄に思います。 新社会人として、様々なことに挑戦し、多くのことを吸収したいと思いますのでご指導の程よろしくお願ひ致します。</p>
<p>いがらし りゅう <b>五十嵐 龍</b> 新助手 (大学LR・剣道)</p> 	<p>今年度より新助手として勤務させていただくことになりました。明成高校での勤務、大学剣道部の指導をします。明成高校と仙台大学の発展に貢献できるよう努力していきたいと思っています。よろしくお願ひ致します。</p>	<p>ほしな かいと <b>保科 魁斗</b> 新助手 (大学GT・ウェイトリフティング)</p> 	<p>今年度から仙台大学新助手として勤務させて頂きます保科魁斗です。ウエイトリフティング部の競技力向上。仙台大学の発展に大きく貢献していけるよう精一杯務めさせていただきます。よろしくお願ひいたします。</p>
<p>おざわ ゆう <b>小澤 悠</b> 新助手 (大学LR・卓球)</p> 	<p>今年度から新助手(大学LR)として勤務させていただきます。 今まで高校講師として働いてきた経験を活かし高校業務、大学卓球部指導を精一杯頑張りたいと思います。 よろしくお願ひします。</p>	<p>うつみ ゆりか <b>内海 友里夏</b> 新助手 (大学GT・運動栄養)</p> 	<p>今年度より運動栄養学科の新助手として勤務させて頂きます。学生生活での経験を活かしながらも、日々の業務から多くのことを学び、仙台大学に貢献できるよう精進してまいります。 よろしくお願ひ致します。</p>
<p>みうら はやと <b>三浦 駿都</b> 新助手 (大学GT・食文化創志科)</p> 	<p>本年度より新助手として勤務させていただくことになりました三浦駿都です。 母校である、仙台大学と明成高校の高大接続教育を円滑に実施できるよう精進して参ります。よろしくお願ひいたします。</p>	<p>さとう まなみ <b>佐藤 愛美</b> 新助手 (大学GT・運動栄養)</p> 	<p>今年度より運動栄養学科の新助手として勤務させて頂きます。大学職員として学生と真剣に関わり、また、仙台大学の発展に貢献できるよう誠心誠意努めて参ります。ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ致します。</p>

## 臨時職員

<p>さこい ゆうと <b>迫井 優人</b> 臨時職員 (学生支援室)</p> 	<p>今年度より、学生支援室で勤務させていただきます。迫井優人です。本学の学生、留学生の学生生活がより良いものになるよう全力でサポートしていきたいと思います。精一杯頑張りますので宜しくお願ひ致します。</p>	<p>かの <b>鹿野 あかり</b> 臨時職員 (機構)</p> 	<p>今年度より、スポーツ科学研究実践機構に勤務させていただきます。一つ一つの業務をこなし、一日でも早く仕事を覚えていきたいです。至らない点も多々あるかと存じますが、ご指導の程宜しくお願ひ致します。</p>
<p>さかい じゅんのすけ <b>酒井 純之介</b> 臨時職員 (学生支援室)</p> 	<p>学生がよりよく学校生活を送れるように、全力でサポートしていきます。至らない点が多々あると思いますが自分らしく頑張りますので、ご指導のほどよろしくお願ひいたします。</p>	<p>ふなき りな <b>船木 里奈</b> 臨時職員 (明仙フィールド川平)</p> 	<p>今年度より仙台大学川平キャンパスで勤務させていただきました。船木里奈です。初めてなことがたくさんあり、覚えることもありますが皆さんになるべく迷惑をかけないように頑張っていきます</p>
<p>みしな りえ <b>三品 理恵</b> 臨時職員 (学生支援室)</p> 	<p>今年度から学生支援室で働かせていただくことになりました。三品理恵と申します。学生が楽しい大学生活を送れるように精一杯サポートしていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。</p>		
<p>たんの しほ <b>丹野 詩穂</b> 臨時職員 (学生支援室)</p> 	<p>学生支援室で勤務させていただくことになりました。学生に寄り添い、充実した大学生活が送れるよう支援していき、職員として大学に貢献できるよう努めてまいりますので、ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願ひ致します。</p>		

# Monthly Report

SENDAI UNIV.  
PUBLIC RELATIONS  
Vol.170 / 2020.JUN  
(月1回発行)

## 大学再開に向けて～施設一部開放～



6月10日（水）屋内運動場が一部開放され、  
自主トレーニングを行う南選手（体育3年）

6月2日（火）本学において大学本来の機能回復に向け、段階的な施設等の利用に関する方針を発表しました。

これは5月25日（月）全都道府県で「緊急事態宣言」が解除され、6月1日から県内の小中高校の再開などの状況を踏まえて再開となります。

施設利用については、

- ①新型コロナウイルス感染対策の徹底
- ②体育大学としてスポーツ科学的視点を踏まえたキャンパス利用
- ③地域住民の方々の十二分なご理解を得ての対応

を基本原則として取り組んでいく必要があり、キャンパス施設利用方式・施設・利用手続き、利用条件やルール等について十二分の安全対策実施した上で利用となります。（条件等については本学HPをご覧ください）

6月10日（水）段階的にキャンパス内の緩和から屋内運動場が一部開放となり、本学体操競技部の「床運動のスペシャリスト」南一輝選手（体育3年）が本学内での自主トレーニングを再開しました。

南選手は約2か月ぶりの体操競技場でのトレーニングに「まずは戻ってくることが出来て良かったです。今は体力面が落ちているので本番のような通じで練習をせず、1本1本単発で技を確認しながら丁寧におこなっています。」と語り、五輪に向けて「これから、さらに技を磨ける時間が増えたので、優勝を狙えるように頑張ります。」と決意を新たにスタートしました。

## ＜目次＞

・大学再開に向けて～施設一部開放～	1
・特別仕様の人工芝＆ナイター照明設置／第2グランド野球場 ・第2弾配信／「高齢者を元気にする健康づくり運動」及び「全身筋力トレーニング」	2
・新型コロナウイルス感染症による制約条件下における「競技種目別トレーニング活動ガイドブック」の配布について ・「あの年、ここに入学して良かった」と思ってもらうために	3 4
・熱中症予防の動画を作りました／ATルームより ・感染予防と熱中症予防／運動中のマスクは要注意！	5
・仙台大学からATCへの道のり	6 ・ 7
・瀋陽師範大学・王強講師との共同研究論文の海外学術誌搭載が決定 ・試合映像を分析して、競技力向上のための手立てを考えます／柔道部 ・新たなスタートへ頑張ろう／東北楽天の熊原投手（本学OB）がメッセージ	8
・芝草通信 NO. 14	9
・「高校スポーツの安全を守る」Vol. 26	10

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室

直通 0224-55-1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

## 特別仕様の人工芝&ナイター照明設置／第2グランド野球場



2019年11月に施工を開始していた第2グランド野球場の人工芝化とナイター照明設置が今年5月に完成しました。

どちらも地元アイリスオーヤマ製を導入しました。特に人工芝は仙台大学特別仕様として開発されたもので野球特有の競技性に特化し2種類の異なる形状を組み合わせております。プレー時の衝撃に強く、特殊構成された充填材により飛び散りにくく、ボールの跳ね具合が最適に調整されたものになっております。この他にフィールドの品質は長く保たれ、ストレスなく快適にプレー出来るようになりました。

今回の改良により雨天直後の練習再開や、夜間の練習がスムーズになります。今後の野球部の活躍にご期待ください。



## 第2弾配信／「高齢者を元氣にする健康づくり運動」及び「全身筋力トレーニング」

仙台大学 スポーツ健康科学研究実践機構 健康づくり支援班  
健康づくり運動 第2弾配信

現在、新型コロナウィルス感染拡大を防ぐため外出を控え、運動不足や友人との会話なども少なくなってきたいのではないでしょうか。今後も長期間、油断できない状況が予想されます。

今回、健康づくり運動動画の第2弾を配信します。動画は「高齢者を元氣にする健康づくり運動」と、働き世代から体力に自信のある高齢者まで行える「全身筋力トレーニング」です。筋力トレーニング中、痛みが出る場合は無理をしないようにしましょう。

ぜひ、ご自宅で実践してみてください。

「健康づくり運動」についての動画は本学公式YouTubeチャンネルよりご覧ください。



## 新型コロナウイルス感染症による制約条件下における —「競技種目別トレーニング活動ガイドブック」— の配布について

体育系学生のアクティブラーニング教材として、体育学科長責任編集による各競技指導者作成の「競技種目別トレーニング活動ガイドブック」を本学HPで発信しました。

体育学部体育学科学科長 森本 吉謙

新型コロナウイルス感染症の影響で、学生にとって、この数か月はこれまでに経験したことのない日々となっています。史上初となる緊急事態宣言が国から出され、不要不急の外出自粛などが要請されてきました。5月25日に緊急事態宣言が解除されたとはいえ、第二波、第三波に備え、未だ気を緩めることができない状態です。

そのような現状において、当然スポーツ活動にも様々な制約が生じている訳ですが、今回、本学の19種目のスポーツ指導者たちが知見を持ち寄り、制約条件下における種目別トレーニングガイドブックを作成しました。制約条件に応じて4段階にフェーズを分けた各種目のトレーニング内容が書かれています。

<https://sendaidaiigaku.jp/news.html?post=1492>

これは、主に体育系大学において競技を専門的に実施している学生に向けた内容となっていますが、走る、跳ぶ、投げるなどの基本的運動能力に関わるトレーニング方法も含まれていますので、量や強度を下げることで、競技を本格的に実施していない一般学生でも利用できるものになり得ると考えられます。

これを学生に配布した目的は、書かれてある内容を単にトレーニング方法の例示に留めることなく、学生の能動的な学びとなるアクティブラーニングの教材として活用して欲しいためです。自らトレーニングを実践してみたり、あるいは理論的に考えてみたり、さらには、その結果を検討して新たなトレーニング方法の開発を試みてみたりすることで、学びの糧となることは多いはずです。

我が国の体育・健康・スポーツ界の将来を担う本学の学生には、さまざまな制約のなかであっても「できない」と諦めて欲しくはありません。このようなときこそ、本学の建学の精神である「実学と創意工夫」をもって、この期間を意味のある日々に変えていくことを期待して、このガイドブックを作成しました。



## 「あの年、ここに入学して良かった」と思ってもらうために

報告：氏家靖浩 教授

大変な時代になってしまいました。「昨年と同じ予定で」といったフレーズが通用しません。常に「これでいいのか?」が問われています。このような新型コロナウイルスが感染拡大を見せ始めた今年の春に、ひっそりと健康福祉学科に勤務を開始した新人の氏家靖浩と申します。ここでは、私から見れば諸先輩方にあたる本学のすべての関係者の皆様に、いよいよ対面授業が始まりつつある時期に、新入生が「あの年、ここに入学して良かった」と思ってもらうための声掛けのヒントを、生意気ではありますが、ひとつふたつ述べたいと思います。

ところでお前は誰だ?というご質問もあるでしょう。私は研究や競技で生きてきたという者ではありません。「病気や障害の方の心の支えは何であろうか?」といったことや「学校や病院は教育や治療以外に何ができるのか?」といったことについて聞き書きばかりして参りました。授業は「人の心と行動」をはじめとした福祉系、障害系科目を受け持っていますが、ここでは私がオンライン授業で学生に話していることの一部を記させて頂くことになります。



まず、今回のコロナ禍は、誰もが想像しなかった事態であり、我々は常に決断を迫られ、本当に疲れ切っています。我々はまず「私たち自身も迷い、疲れている」ことを自覚すべきです。元来は少し悠長でルーズな人でさえも、手指消毒とマスク着用、体温チェックについて敏感になっています。私です。新規感染者数のニュース報道に接するたびに、半分は気の毒と思いつつも半分は「へマしやがって」と思ったりする嫌な自分に気づかされたりします。実はこうした心の動きで、自分自身が相当消耗していることに気づくべきです。

心が消耗していない時は、それなりにその人の人柄が出ると思いますが、消耗していると何気ない時に、つい荒んだ言葉や態度が出がちであるということを自覚しておきましょう。

ではこの自覚を踏まえて、特に新入生にどう声がけをするか?です。オンライン授業であれ対面授業であれ部活であれ、すべてに通じる基本を述べます。それは「可能であれば『名前で呼ぶ』」、「話ができる機会に『待機中は大変だったな』と声をかける」、「自分にも言い聞かせるように『この経験はプラスになる』と語る」、「どうにも言葉に迷ったら『君たちを教職員みんなでサポートするから大丈夫だ』と語る」といった言葉を、疲れ切っていても我々は新入生に対してすぐに口に出せるように準備しておくのがよいのではないかと考えます。

新入生は不安だと思います。そんな時、授業であれ部活であれ「名前で呼ばれる」ことで、自分が認められているという安心が生まれると思います。待機していた期間について労ってもらえば、「自分たちの不安がわかつてもらえている」という安心につながります。少し強引にでもプラス思考を持ち出して、新入生にこの時代を生きることへの希望に導きます。そして、万が一、なかなか呼吸が合わない学生が相手でも、本学はみんなで君たちを支えるということを伝えて欲しいと考えます。

我々に、もう少し余裕があるのであれば、ここで示した言葉に加えて新入生に「『(教職員が)この経験はプラスになる、全員で支えると言われた』ということを家族にも伝えておいてくれ」と付け加えて頂けると、より良いと思います。欲を言えば、本学に導いてくれた高校の先生へも伝えて欲しいものです。

これは、教職員全員の新入生への誓いであります。新入生が我々の思いを家族(や出身高校)に語ってくれることで学生に自覚を促し、それを聞くことで家族も(出身高校も)安心します。家族(と送り出した高校)が安心すれば、学生も安心するという好循環が生みだされます。同居なり近郊ならば直接、遠方ならばSNSで伝えてもらうのです。

教職員の皆さんにとって「そんなことは、今までやってきた」というのであれば、そのままでよいと思います。また、「そうか、そういう声がけもあったか」ということにお気づきであれば、ご無理のない範囲でお試し頂ければと思います。繰り返しますが、今は我々も疲弊しているので、無理は禁物です。「あの新人が言っていたから」といって、大人数の授業で全員の名前を読み上げたりしないで下さい。すべてはTP0に依ります。タイミングであり、場所であり、それぞれの場面で、新入生の様子と教職員の方のコンディションによって、ひとつくらい、お試し頂ければと思います。

もちろん、「新人の貴様にそんなことを言われる筋合いはない」という選択でも大丈夫です。ただ、これからのが「with/after コロナ時代」は、冒頭で申し上げましたように「昨年と同じ予定で」といったフレーズが通用しません。だからこそ、我々の学生への向き合い方も、オプションが多いほど我々の「仕事寿命」が延びると思うのです(健康寿命になぞらえて)。

少し話は変わりますが、新入生に限らず学生によっては「新しい生活様式」を過度に遵守し衛生観念が過敏になり過ぎていたり、反対にルーズなままの学生がいたりする場合もあるかもしれません。そんな時こそ「対話」のキッカケが生まれたととらえて「○○(名前)、どうしてなんだ?」と声をかけてみてはいかがでしょうか。そういう時、教職員もひとりで向き合わないほうがよいと思います。繰り返しますが今は我々も必ずしも冷静ではありません。教職員の価値観が正しくて、学生に適切な指導をしたつもりでも、我々の発言や態度が感情的になっていたりすれば、学生は自分が否定されたと思うだけです。今はガツンとやるよりも、オンライン授業で我々も鍛えられたコミュニケーションの難しさを思い出し、まずは学生に気づきを与えて、少しづつ行動を変容してもらえるように緩急をつけるべきです。だから、教職員も意地になってひとりで抱え込まないことです。

勢いで好き放題、書き連ねました。あくまでもご参考まで、です。でも、基本にあるものは、不登校やいじめを受けた子どもの新しい居場所作りから得られた実践知です。今年の新入生のような、いつもの年よりも大きな不安を抱えた新しい仲間には、教職員をはじめとした先輩にあたる人々が「おせっかい焼き」になって、ほんの少し親しく接するだけでも、新人は迎え入れられたと思い、確実に仙台大学のメンバーになっていくのではないか、と思うのです。新入生に「あの年、ここに入学して良かった」と思わせたいですね。

なお、本稿を執筆した氏家も新人であることをお忘れなく。



## 熱中症予防の動画を作りました／ATルームより

緊急事態宣言が解除され、学校現場は徐々に施設を開放しております。

部活動や実技系の授業などを再開するにあたり、今年は特に熱中症に注意していく必要があります。

新型コロナウイルスが流行し、世界中で運動不足が懸念されています。この場合、急に運動負荷を増加すると、熱中症の危険性が高まります。さらにここ最近暑さが厳しくなってまいりましたので、いま一度熱中症の予防、対策について確認していただき、安全に運動をしていただければと思います。

「熱中症対策について」の動画については本学公式YouTubeチャンネルよりご覧ください。

＜報告：アスレティックトレーニングルーム＞



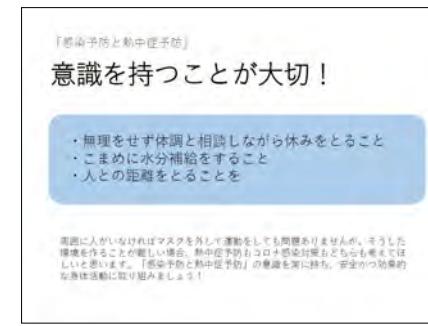
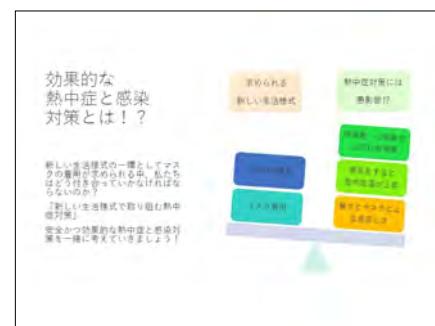
## 感染予防と熱中症予防／運動中のマスクは要注意！

暑い日が続いてきました。

新型コロナウイルス感染の対策をしながら迎える熱中症シーズン。

マスク着用が求められている中、私たちはどう付き合っていかなければならぬのか？

安全かつ効果的な熱中症対策を考えていきましょう。



＜報告：健康管理センター＞

## 仙台大学からATCへの道のり（前編）

みなさん、こんにちは。 ハワイ大学院を2020年に修了した村上泰司です。わたしは 北海道は旭川出身でスポーツに関わる仕事に就職することを目指し2013年に仙台大学運動栄養学科に入学しました。在学中の4年間、アメリカにはアスレティックトレーナーというアスリートを支える素晴らしい仕事があることを知り、ATC（アスレティックトレーナー資格）を目指してハワイ大学院に進学し、おかげさまで5月18日に無事マスターコースを修了。6月3日にオンラインによるATCの試験を受け、いまは結果を待っているところです。

6月～7月のMonthly Reportで、なぜわたしがATCを目指すようになったのか？を紹介させていただきます。お世話になった仙台大学のみなさんへの感謝の思いを伝えつつ、仙台大学在学生や卒業生になにか私の経験がお役にたてれば幸いです。



### ・仙台大学入学

「スポーツにかかわる仕事がしたい！」と考え仙台大学の運動栄養学科に入学しました。最初は”栄養”と”スポーツ”という2つのキーワードが頭にあり、それが同時にできる運動栄養サポートで活動することにしました。対象部活はサッカーチーム。自分がこれまでやってきたスポーツでした。活動も楽しく、学ぶこともたくさんありました。同時に、他に選手と関わる方法は無いかと考えていました。ある日、活動している時にサイドラインで負傷離脱していた選手のケアをしている人を見かけました。話を伺うと、アスレティックトレーナーという職業があるという事を知りました。これにより、これまで二つのキーワードと”アスレティックトレーナー”（AT）が繋がり、これだ！と思った事を覚えております。それが入学して初めて経験する秋の時期のことでした。そして、当時お話を伺ったのが、今でもお世話になっている白幡さんです。

ちょうど学期が終了し、ATに必要な科目を取得するようになり、テーピングの授業を取りました。そこでも、担当していた小田先生からもATについて話を伺ったところ、ハワイ研修があることを知り参加することにしました。これがアメリカのATCを知るきっかけとなります。

### ・ハワイ研修

まだATについてあまり知らないまま参加したハワイ研修、初めて見る日本の外の世界とATCという職業の衝撃が交互に来て1週間があつたという間だったのが今でも覚えています。スポーツ大国アメリカにおいてATCは縁の下の力持ち。アスリートが活躍するために不可欠な存在でした。日本と違うのはスポーツの圧倒的規模。多くの観衆の中で、選手と同じフィールド上で様々な瞬間を共有できる感動や興奮はATCならではだな、と野球観戦をしていて思った事を覚えています。

初めて見学したATCの授業は英語で当時は全く理解できなかったものの、日本とは異なるインター・アクティブな授業スタイルで自分もこの会話に入ってみたいなと思っていました。これが英語を勉強するきっかけとなりました。

そして、約1年後のハワイ研修アドバンスコースに参加したことで留学への思いが大きくなりました。AT部に所属することで得た知識に加え、英語の能力も上がりとても充実した1週間でした。特に、プログラムに所属している学生との交流は、彼らのATCへの思いを聞くことが出来て、ATCへの思いが膨らんでいきましたが、当時の彼らとの交流が現在につながるとは思いもしませんでした。



## ・仙台大学での学生生活

ハワイ研修の終了後、AT部に入部。これから頑張るぞ！という気持ちでいっぱいでした。そして、自分は1年遅れでの入部、同級生との遅れを取り戻すために必死で勉強することを決意しました。しかし、何から勉強していいのかわからず、友達のアドバイスで解剖学を勉強することに専念しました。授業の合間に縫って図書館で勧めてもらった解剖書を読み、ひたすら筋肉と骨の名前を覚えました。そして、部活の活動中に、選手のリハビリを見ながら収縮している筋肉をイメージしていました。

入部して1年がたつ頃、ようやく頑張りが認められ、ストレッチやテーピングなどを任せてもらえるようになりました。3年生になったことで帶同する部活では責任のある役割が与えられ、活動でより一層やりがいを感じていました。そんな中、一つ越えなければならないハードルがありました。それが、運動栄養学科の授業との両立です。

運動栄養学科は実習も多く、勉強も大変でした。しかし、ATも栄養も自分がやりたかったこと。食らいつく思いで、空いた時間を勉強や活動のために有効活用していました。つらいことばかりではなく、楽しい瞬間も多くありました。帶同していたサッカーチームがトーナメントで優勝したこと、ロービジョンフットサル日本代表のフィジカルコーチとして帶同したことなど素晴らしい時間を過ごすことが出来ました。

4年生になり将来を迷っていたところ、アドバイスで頂いたのがATCとなり研究をするというものでした。好きな英語に加えアメリカでATの勉強ができる。自分にとってはこれ以上にない最高のアドバイスでした。それからは目標が定まり、目の前のことには専念することができました。目標としていた、日本スポーツ協会のATの現役合格も運動栄養学科初で果たすことが出来ました。そして、卒業と同時に栄養士も取得。当初、目標としていた栄養の知識も持ち合わせるATになる事が出来ました。

## ・ハワイ大学入学

留学を決意したのは大学4年生の5月頃でした。TOEFLや入学のための必須科目の履修など、超える壁はたくさんありました。自分の心を支えてくれたのがハワイ研修での経験でした。「これを乗り越えられればATCになるスタートラインに立てる！」と自分を奮い立たせ、多くの方のサポートもありATプログラムに無事入学を果たせました。

そして、ATプログラムの2年間は多くの仲間と出会いとても充実した日々でした。プログラムディレクターである田村薰里さん、そして大庭有希也さんの指導の下、多くの事を学ぶことが出来ました。多少の不安はあったものの、沢山の学びや発見を得られる喜びの方が大きく、気が付けば不安も忘れ、日々の活動や勉強に没頭していました。

ATR（アスレティックトレーニングルーム）での活動も忘れない思い出や経験となって現在の自分を後押ししてくれています。元ヘッドATのエリック・オカサキさん、現ヘッドATのリン・ナカガワさんの指導を受けながらATCになるための技術、そして資質を学ぶことが出来ました。彼らの後ろ姿を見ながら自分もこうなりたいと思い、日々の活動に取り組んでいました。活動は簡単ではなかったものの、支えてくれたのは一緒に頑張った仲間たちでした。つらい時期もありましたが、くだらないジョークを飛ばしあいながら乗り越えた日々は忘れられない思い出です。

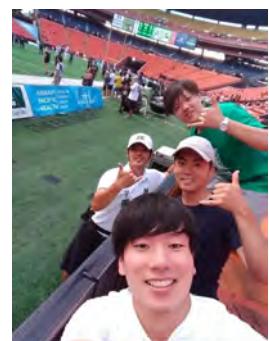
この3年間の留学生活は、人生の転機。自分がこれまで積み重ねてきた経験や思いが形となった日々です。自分の思いに素直に行動し、こつこつと積み重ねてきたものが、留学そしてATCという形で報われたのはとても幸運であったと思います。

数多くの方に支えられここまで来ることが出来ました。自分がこれまで思いっきり挑戦できたのは、仙台大学やUHのサポートがあつてこそものでした。これまで頑張ってきたという自信を持つつも、皆さんへの感謝と謙虚な気持ちを忘れずに、次のステップでも頑張っていきたいです。本当にありがとうございました。

来月の後編では、ATCを無事取得出来たのちに仙台大学への貢献の展望についてお話をさせていただきます。

～ なお、その後、村上泰司さんより、初受験でATC試験に合格したという吉報が届きました。

誠におめでとうございます。Monthly 7月号では初志貫徹し、見事ATCになられた村上さんへ  
後輩たちへのメッセージをはじめ、母校とどのように関わりながらATCとしての経験を積んで  
いくのか？など、これから目標・抱負について語っていただきます。～



国際研究交流状況

## 瀋陽師範大学・王強講師との共同研究論文の海外学術誌搭載が決定

国際交流締結先である中国・瀋陽師範大学の王強講師と仙台大学の金賢植・馬佳濤両准教授との間の共同研究テーマである「中国幼児の運動と健康」に関する調査結果が、このほど国際学術雑誌である「International Journal of Environmental Research and Public Health」への搭載が認められ、来月、掲載されることになりました。

王講師には、現代武道学科の海外武道実践授業である「中国武術Ⅰ・Ⅱ」の指導者として、長年、仙台大学に訪れて頂いております。



Author Contribution: Q. Wang conceptualized, drafted the initial manuscript and coordinated data collection. J.M. Ma conceptualized, drafted the initial manuscript, and carried out the statistical analysis. H.S. Kim and A. Machashi conceptualized and drafted the initial manuscript, carried out the statistical analyses, and supervised data collection. All authors have read and approved the final version of the manuscript and agree with the order of presentation of the authors.

Funding: This research received no external funding.

Acknowledgments: This work was supported by the international joint research project in Sendai University (grant numbers 2014-027).

Conflicts of Interest: The authors declare no conflict of interest.

瀋陽師範大学との共同研究

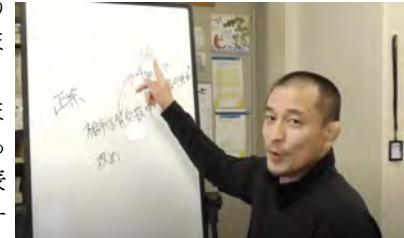
## 試合映像を分析して、競技力向上のための手立てを考えます／柔道部

新型コロナウィルス感染症による活動自粛を受けて、柔道部では、「どのように試合を振り返るか」という点について、その方法論と実際の行い方を動画にまとめて部員に提示しました。

部員に対して、「自分の試合を分析して欲しい人はいますか?」と募集をかけました。要望のあった5名の部員について、自らの過去の試合映像を提出してもらい、南條充寿監督（前柔道女子日本代表監督）と川戸湧也コーチ（柔道日本代表情報・戦略スタッフ）とで分析をしました。分析をとおして部員の敗因やウイークポイントについて解説をしました。さらに「試合をみる際、どこに注目すべきなのか」という点について、2名の先生がそれぞれのノウハウと経験を活かして解説しました。

スポーツそのものの実施が難しく、特に柔道は身体接触が多いことから活動再開には時間がかかります。その間に、柔道に関する知識を身につけ、学生が自身の競技力向上のための“考える時間”として充ててもらえば幸いです。

〈報告：川戸湧也助教〉



分析を通して部員に解説する南條監督

## 新たなスタートへ頑張ろう／東北楽天の熊原投手（本学OB）がメッセージ

プロ野球公式戦（19日開幕）がいよいよ始動。パ・リーグ東北楽天ゴールデンイーグルスの投手で本学OBの熊原健人さん（H27年度体育学科卒）よりメッセージが寄せられました。

「仙台大生のみなさん、今、新型コロナウィルスの感染拡大の影響でオンライン授業になったり、部活動が制限されたりと大変な思いをしているかと思います。しかし、できることをしっかりとやって、新たなスタートに向けて一緒に頑張りましょう」

力強い意志に裏付けされた心温まる励ましが伝わってきます。熊原投手の今季の活躍を祈っております。



## 7月の芝生管理 (暖地型芝生と寒地型芝生) について

梅雨明けの芝生の成長は旺盛で、生育に合わせて刈り込みを行います。  
 \*自宅などの芝生の参考にもしてください。

### 1. 噴水まわりの天然芝生の維持管理 (暖地型日本芝生)

例年の梅雨明けは7月下旬です。その頃になると気温も高くなり暖地型の高麗芝は生育が旺盛になります。小まめに維持管理をすると綺麗な緑色をした絨毯の様な擦り切れや踏圧にも強い芝生になります。養生としてローピングで実施していた「進入禁止」を開放しますので、気軽に楽しんで下さい。ショートカットの為に同じ場所の通行はご遠慮下さい。

- ①刈り込み：10日から2週間に1回行います。刈込により節間が短くなり、密度の高い芝生になります。
- ②水やり：梅雨の間は水やりの必要はありません。梅雨の中休みの乾燥時や梅雨明けの晴天が続き乾燥が激しいときは家庭用のスプリンクラーを用いて十分に水やりを行います。乾燥が激しいと芝生は身を守る為に葉を丸めて葉面からの水分蒸発を防ぎます。その時はたっぷり水を与えます。
- ③肥料：この時期は成長が旺盛ですので、化成肥料 (N-P-K=10-10-10) を1m<sup>2</sup>当たり20g～30g 施します。
- ④病害虫の防除：葉腐れ病 (ラージパッチ)などの病気は高温になると自然と回復します。発生するスジキリヨトウやシバツトガなどの幼虫がマッチ棒1本以下の太さ程度であれば食害も少ないです。芝生の生育が旺盛で回復も早いので放っておいても大丈夫です。
- ⑤草取り：密生していると雑草の生える余地が少なく、自然と減少します。密度を高めるように草刈りを小まめに行います。

### 1B. 噴水まわりの高麗芝生の雑草との闘い状況

5月中旬に繁茂したスズメノカタビラに下旬に除草剤を散布しました。気温が低かったり、除草剤の散布量が少なかったりして半分以下の駆逐でした。除草剤としてアージランを用いました。暖地型の高麗芝は保護されて寒地型のスズメノカタビラに効果のある除草剤ですが、散布量が多過ぎると暖地型にも効き目が生じる危険性もあり、自然と散布量は減少したと考えられます。効果の有った雑草は2週間くらいで枯れて消滅したが、その時に生き延びたスズメノカタビラはその後も成長します。しかし1か月経過したころ雑草の根元も枯れて全体的に枯死したようであった。除草剤が効いているのか温度が高くなつたために衰退したのかが良く判りませんでした。(スズメノカタビラは夏季の高温には自然と衰退する性質がある)



写真 1. 噴水周り芝生 3体前【遠景】  
 スズメノカタビラ繁茂状態



写真 2. 噴水周り芝生 3体前【近景】  
 枯れているスズメノカタビラ



写真 3. 噴水周り芝生 3体前 【接写】  
芝草の成長と根茎の成長が比例している



写真 4. 噬水周り芝生 4体前 【近景】  
小まめに抜根をしたC区域

## 2. 第二グラウンド天然芝生ラグビー・アメリカンフットボール場の維持管理 (寒地型洋芝+ 暖地型洋芝)

- ①刈り込み：バミューダグラスの成長が旺盛なので、18mmと低く刈り込むことで、節目間を短くして密度を高めます。1週間で3から4回刈り込みを行います。
- ②水やり：梅雨明け後は十分に行います。乾燥が続くときは2日～3日おきに散水が必要になります。
- ③肥料：化成肥料 (N-P-K=10-10-10) を1m<sup>2</sup>当たり20g施します。
- ④病害虫防除：降雨の後の高温状態の時にはピシウム病が発生しやすいので、早朝の観察が必要となります。太陽が高くなり温度が上がるとピシウム菌が消えてしまう。早朝の観察が部分的な時はスポット散布を行い広範囲にわたっているときは全面散布を行います。チャンスを失わないために、ワーカマンには常にタンク車を搭載(砂散布の時はスプレッダーを搭載する)して待機します。また、シバツトガなどの害虫の幼虫が発生する。常に観察して5令～6令の太い幼虫を見つけたらすぐに殺虫剤の散布を行います。

(6月30日記)



## 「高校スポーツの安全を守る」Vol. 26

担当：浅野 勝成助手

「手段を目的化しないこと」

高校S&Cコーチとして、高校生へのトレーニング指導において心掛けていることです。

高校生アスリートは「試合に勝つこと」や「競技力の向上」を目標としていることが多いです。その目標を達成するには競技練習に取り組むことです。ただし、競技練習では補えない筋力や柔軟性などの体力要素を補強することが求められ、その部分をトレーニングで補う必要があります。従って、トレーニングは競技力向上を促す一つの手段であります。しかしながら、トレーニング自体が目的化してしまう選手も少なからず出てきます。

### 【なぜ手段が目的化してしまうか】

経験上、要因として以下2つを主に考えます：

#### ①達成感が得られやすくモチベーションが上がりやすい

スクワット拳上重量などは客観的数値が出るため、達成感が得られやすくモチベーションも上がりやすいです。結果、トレーニングが楽しくなり、それのみに集中してしまうかと思います。

#### ②トレーニングを行う目的を深く理解できていない

トレーニングを行って最大筋力や筋パワーが向上することで満足してしまうことがあります（もしくは、満足させてしまう？）。本来は、向上した体力要素を競技力に繋げていって初めて、手段としてのトレーニングが達成されるはずです。選手自身が「何のためにトレーニングを行うか」を深く考える必要があります。S&Cコーチも目的を理解しておく必要があり、手段と目的を混同させない思考を選手に伝えていくのも役割の一つと捉えます。

他にも考えられる要因はありますが、ここでは上記2つに留めます。

目的と手段を混同しないことを常に意識しつつ、トレーニング指導に励んでいきたいと思います。

# Monthly Report

## 大学再開に向けて～コロナ対策実施・対面授業一部再開～



剣道の基本動作を学ぶ学生の様子

7月1日（水）から対面授業の一部を再開し、構内に少しづつ活気が戻ってきました。

今回の再開に関して、コロナウイルス感染防止を最優先に考え、講義科目のについては原則、遠隔授業を継続していますが、実技や実習系の授業で「3密」を回避できるものに限定しています。

また、大学構内への入稿時には以下の条件を満たした学生の入構が認められます。

- ①対面授業開始14日前からの検温・体調管理のデータ（スマホ等で提示）
- ②大学構内への入退構管理に必要な学生証の提示
- ③サーモグラフィによる体温チェック

※ 入構できる学生は、①～③を経た学生に限られ、少しでも風邪の症状や倦怠感など体調不良を感じる場合は入構できません。

その他、マスクの着用、座席数を減らすなどの対策等を徹底することで対面授業の一部再開となりました。

なお、7月17日（金）～7月26日（日）まで一時学内での対面授業を停止していましたが、現在は入構時のチェックを更に強化した上で再開しています。



入構時に検温及び入構管理システムに学生証を提示する学生の様子

## ＜目次＞

・大学再開に向けて～コロナ対策実施・対面授業一部再開～	1
・CM楽しみ！／仙台大学と明成高校がタッグ／メイキング裏話聞きました	2
・仙台大学同窓会による大学及び学生支援、贈呈式が開催されました ・令和2年度 学術会主催「新任教員発表会」（第102回 学術集会）開催	3
・「令和元年度（後期） 健康づくり運動サポート認定証書授与式」を開催 ・東京2020ホストタウン親善大使／ロシア語入門講座を開講しました ・馬准教授／令和2年度宮城県公衆衛生研究基金の助成金が決定しました	4
・仙台大学からATCへの道のり（後編）	5
・～ 医療の最前線から仙台大学へ・世界で活躍する人材育成を目指して～	6
・ベガルタ仙台役員が講義／高大接続、ハイブリッド型授業／私立大学研究プランディング事業一環 ・白幡恭子助教がハワイ州立大学院の運動機能学科博士課程を修了	7
・芝草通信 NO. 15	8
・「高校スポーツの安全を守る」Vol. 27	9

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室

直通 0224-55-1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

## CM楽しみ！／仙台大学と明成高校がタッグ／メイキング裏話聞きました

仙台大学と附属明成高校をPRするCMができました。カッコいいんです。毎週土曜日、東日本放送（KHB）の番組『めざせ！ 頂点』（毎週土曜日午前9時30分～、30分間）をぜひ見てください。

7月18日にCMが初回放送となり、明成高校の今年4月からの「スポーツ創志科」新設と体育系大学の仙台大学が高大7年間の学びで専門的な知識を得られることをアピールしています。

CMの理念は、スポーツ科学をけん引する教育機関の意志と進化を表す「ノンストップ」です。今回制作してくれた広告代理店「第一エージェンシー」営業局長の阿久津守さんに撮影秘話などをうかがいました。

### 一高校での撮影はどうでしたか。

「明成高校の撮影では雨が降る場面もありましたが、無事にいつも通りの雰囲気で撮影を行うことができました。バスケットボール部の撮影では高校生とは思えないシーンを撮ることができました」

### 一女性同士が川べりですれ違うシーンはとってもカッコいい。

「明成高校、仙台大学から1名ずつ参加してもらいました。共に運動部に所属していましたが、初対面でした。撮影は朝6時前からでした。プロのマークさんに来てもらい、バッヂリ化粧をして撮影を始めました。息もピッタリ。お2人とも運動部ということもあり、走り方は素晴らしく、何本走っても息が切れることはありませんでした。逆に撮影スタッフの方が息切れしていました」

一ースポーツの絵柄ばかりなのかと思いきや、かわいらしい子どもたちの笑顔も見られました。プレイルームですね。

「託児所内にいる子どもたちと学生（子ども運動教育学科）が絡む撮影でしたが、子どもたちはいつもと違うおじさんたち（？）に囲まれて、緊張した様子でした。撮影がスタートしても本調子までは遠く、慣れるのに時間が掛かりました。でも終わる頃には、いつもの笑顔が見られました」

一そうそう、かわいしさの後は力強さを示すシーンがあります。男子学生が第3体育館1階のトレーニングセンターでバーベルを挙げています。

「通常のトレーニング風景を撮影しました。通常のメニューではなく高負荷のトレーニングにチェンジして撮影を行いました。担当した学生は顔色変えずに対応していて、とにかくびっくりしました」



一仙台大学といえば漕艇部です。2019年全日本インカレでは男子が総合優勝。CMでは女子が白石川を力強く漕いでますね。

「早朝5時30分からスタンバイし、朝練に参加しました。撮影に協力していただいた学生たちは監督、コーチ指示の下、何度もいいシーンが撮れるように協力していただきました。ありがとうございます」

一もう一つお聞きします。体操競技部の南一輝選手が床運動をやってます。

「世界大会でも活躍している学生ですからね。参加してもらって光栄です。いつもと違う条件の中でも一流の技を披露してくれました。うれしかったです」

一最後に全体の撮影を通じた感想をお聞かせください。

「撮影は梅雨の時期でした。天候次第という中なのに、撮影した3日間は晴天でした。登場する高校生、学生の競技力の高さにはホントに驚かされました。今までにない躍動感あるCM映像を制作することができました。ありがとうございます」

### 【登場した学生にも聞いてみました！】

一LC棟のシーンに登場する主役の女子学生（体育学科2年）がプレゼンをします。彼女にも聞いてみましょう。

「久しぶりに着るスーツでしたし、プレゼンすることもあまりないので、うまくできたか心配でした」※実はこの女子学生、陸上競技の高跳びで背面跳びもやってます



## 仙台大学同窓会による大学及び学生支援、贈呈式が開催されました

7月30日（木）本学内で同窓会・同窓生有志の会より、大学運営及び学生生活支援として標記贈呈式が開催されました。

今回の贈呈式は、コロナ禍の大学経営に何らかの支援をしたいという「同窓会理事会」の思いと学生生活支援に向けた、全国の同窓生の輪が広がり結成された「同窓生有志の会」が、5月から6月中旬まで賛助金を集める取り組みを実施した結果を6月の同窓会社員総会に諮り、予算承認され本日に式に繋がったものです。

贈呈式では、開会に当たり、同窓会会長八巻芳信氏より、「コロナ禍の大学・学生支援に全国の同窓生の熱い思いが結集されて、今回の贈呈に繋がりました」とご挨拶をいただき、同窓会より大学のオンライン環境整備事業支援として、10,000,000円の目録並びに、同窓会と同窓生有志の会共催による学生生活支援として、クオカード（全学生分：同窓生有志の会より2,126,000円・同窓会より3,194,000円：総額5,320,000円）現物と目録（内訳）が贈呈されました。

贈呈を受けた大学側、朴澤泰理事長より「大学と同窓会の強固な関係性、これから的新しい時代の学習に向けた大学の体制整備について、同窓生の思いを伝えたい」とご挨拶をいただき、遠藤保雄学長からは「同窓会への理解、全国の同窓生の温かな思い、柴田町・船岡地区の皆さんへの思いも感じてもらいたい」とコロナ禍に負けない学生たちの育成に力強いお言葉をいただきました。

<同窓会事務局 佐藤一拡>



右から佐藤一拡 同窓会事務局長、八巻芳信 同窓会会長、朴澤理事長・学事顧問、遠藤保雄 学長、渡邊一郎 事務局長



オンライン環境整備事業支援として10,000,000円の  
目録を受け取る朴澤理事長



学生生活支援として全学生分のクオカードを受け取  
る遠藤学長

## 令和2年度 学術会主催「新任教員発表会」（第102回 学術集会）開催

令和2年度 学術会主催「新任教員発表会」（第102回学術集会）を開催しました。今年度は新型コロナ感染拡大防止のため、対面の発表会ではなくオンライン（Google Class Room（以下GCR））開催とし、7月15日に公開しました。GCRでのオンデマンド開催となった今回は時間の制約なく例年以上に多くの先生方に発表資料をご覧いただくことができ、質疑応答についても対応期間を設けたうえでオンライン対応するなど、新しい生活様式に対応した発表会となりました。お忙しいところ貴重な発表資料を作成いただきました新任教員の方に感謝申し上げますとともに、今年度はより柔軟な対応で学術会関連行事を開催してまいりますので学術会会員のみなさまのご理解とご協力をお願い致します。

<報告：学術会>

## 「令和元年度(後期) 健康づくり運動サポーター認定証書授与式」を開催

7月7日(火)に健康づくり運動サポーターの認定証書授与式を開催しました。

当初、3月に授与式を開催予定でしたが、新型コロナウイルスの影響を受け、延期となっていました。対面での授与が困難なため、今回初の試みで、オンライン形式での開催となりました。

遠藤学長は「コロナ禍における、自宅でできる運動を発信することが大切。身に付けた知識を活かして取り組んでほしい」橋本教授(事業推進責任者)は「コロナウイルスが落ち着いたら多くの現場で活躍してほしい。さらに上の資格を目指し頑張ってください」と学生にエールを送りました。学生は「健康づくり運動サポーターで習得した知識を、将来活かしたい」「中級の資格を目指し頑張りたい」など豊富を述べました。

この資格取得には、全10回の講義受講と地域の運動教室での現場実習や指導実習が必要となります。実際に地域の方々と関わりながら学生はコミュニケーション能力や指導力、ホスピタリティを身に付けます。

多くの学生がこの活動を経験し、「安全に」「元気よく」「楽しい」運動指導のできる実践力を身に付け活躍できるよう今後もサポートして参ります。

＜報告：健康づくり運動サポーター養成担当 田中・後藤＞



## 東京2020ホストタウン親善大使／ロシア語入門講座を開講しました

7月10日(金) 本学が招聘している「柴田町・白石市2020東京オリンピック・パラリンピックホストタウン親善大使」のセベツ・アリーナさんがロシア語入門講座を開講しました。

第1回は、本学の学生を対象に、キリル文字(ひらがな)や簡単なあいさつについての講義があり、受講した新体操競技部の杉木詩穂さん(運動栄養学科4年)は「私は在学時に2度ベラルーシに行った際に、簡単なあいさつは大体で覚えていましたが、正しい発音を学ぶことができ、とても良かった」、また同競技部の阿部紘子さん(健康福祉学科2年)は「初めてロシア語を学びました。発音が日本語と全く違い、とても難しかったのですが、身近な会話ができるように今後も学びたいです」と、積極的な感想が聞かれました。



## 馬 准教授/令和2年度宮城県公衆衛生研究基金の助成金が決定しました

このたび、馬 佳濛 准教授が研究している「職場の環境改善が労働者の健康および仕事効率にもたらす効果の検証」について令和2年度宮城県公衆衛生研究基金の助成金が決定しました。

この研究は近年、座りすぎが健康リスクを高めるだけではなく、働く意欲を低下させることが注目されており、本研究プロジェクトは労働者が就労時の座位時間を減少させるためにスタンディングデスクの導入や健康教育プログラムなどの介入により、縦断的に身体面および健康面の変化に加えて、仕事のパフォーマンス向上の効果を検証します。

本研究の成果を活かし、労働者の活力向上や職場の活性化、生産性の向上に寄与します。

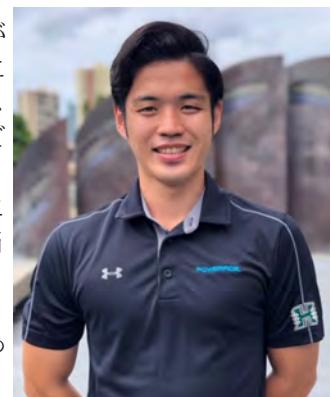


## 仙台大学からATCへの道のり（後編）

みなさん、こんにちは。村上泰司です。マンスリーレポート6月号では、わたしが仙台大学に入学したことで米国アスレティックトレーナーという仕事を目指すようになり、ハワイ大学院で学ぶ日々についてご紹介しました。この度、おかげさまでアスレティックトレーナー資格試験に無事合格したことをこの場をお借りしてお礼方々ご報告させていただきます。

初めての受験で長い間の目標を達成出来たのは、朴澤泰治理事長をはじめ、ひとえにたくさんの仙台大学の方々のお力添えによるものと、心から感謝しております。本当にありがとうございました。

マンスリー7月号では、これからどのように仙台大学へ恩返ししていきたいか？について述べさせていただきます。



今後はオクラホマ州にあるノースイースタン州立大学院で健康教育を学びつつ、アスレティックトレーナーとして活動していく予定です。

### 1) ノースイースタン州立大学院での主な活動

大学院での勉強はもちろん、この大学に入学した大きな目的はアスレティックトレーナー（以下:ATC）としてさらに経験を積むことです。ハワイ大学大学院でATCとして身に着けた基礎知識を今回の経験で生かし、男子サッカーチームと春のフットボールを主にサポートする予定です。男子サッカーチームは私が主体となって部活をサポートするので、選手の日々のトリートメント等はすべて私が担当する形となり、ATCとしての責任に多少緊張もありますが、自分に自信を持ちながら頑張ろうと思います。

### 2) ATCとしてこの2年間で達成したいこと

この2年間で達成したいのは主に、ATCとして主体性を身に着けることです。私がイニシアチブをとり、監督や選手、そしてストレンジス・コンディショニングコーチと積極的にかかわりながら、選手のパフォーマンスの維持を図りたいと考えております。しかし、1年目だけにまだわからないことも沢山あり、今年はATCとして現場活動に慣れることを目標に、それが出来たうえで徐々にできる分野を増やしていこうと思います。

サッカーチームは部員が約30名とアメフトに比べ、比較的管理しやすい人数なので、それを生かした活動を考えています、特に、体重測定は通年を通して行なっていきたい活動の一つです。

オクラホマの気候はハワイと比べ湿度と気温も高く、加えて、コロナウィルスの影響で例年通りのコンディショニング活動が出来ていないため、熱中症の危険性も高まります。

そこで、体重を管理することにより、選手の体調の変化を客観的にチェックしようと考えています。仙台大学で得た栄養士としてのバックグラウンドも活かしながら、選手に望ましい栄養摂取の啓もう活動も同時に進めていきたいです。

### 3) 今後の活動に向けた抱負

ハワイ州からアメリカ本土のオクラホマ州に移り、さまざまな人々と触れ合うことにより新たな挑戦が始まり、これから活動がとても楽しみです。ここまでサポートして頂いた仙台大学への感謝を胸に、成長した自分の姿をみなさんに見せられるよう頑張りたいと思います。



ノースイースタン州立大学のATルーム

## ～ 医療の最前線から仙台大学へ・世界で活躍する人材育成を目指して ～



4月から仙台大学に教授として奉職しました櫻井雅浩です。東京出身のわたくしですが東北大学を卒業後、24年間心臓血管外科医として臨床に関わったのち、7年ほど保健行政に携わり、さらに臨床研修指導医として研修医の学術支援を行ってまいりました。今ではれっきとした東北人・仙台っ子です。

これらの少し変わった経験を仙台大学の学生たちに伝えることで、世界に羽ばたく若者を育てたい思っています。麻布中学校時代からはじめたラグビー歴は45年、まだまだ後進に道を譲る気はありません。新型コロナウイルスが終息した時にはぜひ、仙台大学ラグビー部員とも良い汗をかきたいものです。

以下の資料と写真で簡単な自己紹介をさせていただきます。

<p>櫻井雅浩</p> <p>1962 東京生まれ</p> <p>1981 麻布高校卒</p> <p>1989 東北大学医学部卒</p> <p>1999 博士(医学)</p>	<p>1989～2012 心臓血管外科(東北大学・仙台医療センター) 心臓血管外科指導医・外科指導医 日本胸外科学会指導医</p> <p>開心術後のβプロッカーの有用性 ラート移植心筋細胞過程のNO毒性 ウサギを用いた脊髄虚血モデルの開発 全ての患者は症例報告のキタと思え</p> <p>1999 東北大学医学部奨学賞銀賞 2001 東北大学医学部奨学賞銀賞 2009 東北大学医学部奨学賞銀賞</p>	<p>2012～2020 宮城県保健所長(栗原, 石巻, 塩釜)</p> <p>女川地城での安定ヨウ素剤事前配布 ノロウイルスと環境DNA解析 東日本大震災と結核</p> <p>2017 社会医学系指導医</p> <p>2019 東北大学長陵回観会高橋記念賞</p>
	<p>2006 洋上救急に対する功績(海上保安庁)</p>  <p>PB03 M01</p> 	
<p>1975～現在 ラグビー</p> <p>麻布中学校ラグビー部 麻布高校ラグビー部 東北大学医学部ラグビー部 中高大OBチーム、クラブチーム</p> <p>宮城県ラグビーフットボール協会医務委員会副委員長</p>	<p>【第一企画】ラグビーを愛する医師研究会 猛烈使いの「伝える力」で医師育成</p> <p>ラグビーW杯2019記念・ドリームチーム(宮城)</p> 	<p>「恩会会長 成30年 生 教授 院修了」</p> <p>倫明(平6才) 八重 宮城県保健福祉部技術 大規模災害の疫学研究 ク質問の病理検査へ</p> 



## ベガルタ仙台役員が講義／高大接続、ハイブリッド型授業／私立大学研究プランディング事業一環

仙台大学はなぜ地元のプロスポーツを応援するのか？ そんな疑問を発端に地域とプロスポーツの関わりを考える前期講義『企業スポーツ論』の9回目授業（オンライン形式）が7月10日、高大接続の一環として対面形式でも仙台大学附属明成高校で行われました。講師を務めたベガルタ仙台取締役の渡辺雅昭氏は「大学、高校を運営する朴沢学園とベガルタは強い結びつきがある。今後も一緒に地域を盛り立てていきたい」と強調しました。

この科目は大学の体育学科とスポーツ情報マスマディア学科の3、4年生を対象に開講（履修登録96人、担当教員日下三男）しています。明成高からはサッカーチームの生徒約60人が、換気の行き届いた教室で聴講しました。授業にはベガルタ仙台が運営するマイナビベガルタ仙台レディースに所属し朴沢学園職員の奥川千沙、船木里奈（仙台大出）の両選手がリモートで出演し、地域とスポーツの観点から貴重な話を披露してくれました。

オンラインと対面の要素を組み合わせた「ハイブリッド型」授業は学生、生徒ともに新鮮だったようです。授業中にクラブの収入アップ策を問われると、高校生側の「海外の有名選手を獲得すればいい」との返答に対し、大学生側は授業後のレポートで「高校生の意見はシンプル・イズ・ベスト。チームが強くなることが最善の道と言っている。観客も増えるしスポンサー収入も上がる。ただし先行投資するカネがあるかどうか」と感想を寄せました。スポーツを通じて高大の響き合う授業となつたようです。

本学は現在、在仙の東北楽天、ベガルタ仙台、仙台89ERSの3球団とアカデミックパートナーシップ協定を結んでいます。この協定に基づく「地域創生型スポーツ社会モデル形成事業」を推進すべく、文部科学省の平成30年度「私立大学研究プランディング事業」の選定校（全国20校）の一つに選ばれています。

＜スポーツ情報マスマディア学科＞



明成高校の教室から発信された、仙台大学の講義「企業スポーツ論」。生徒たちもモニターの映像を見ながら講師の話に耳を傾けた



渡辺氏（手前）はベガルタ仙台の経営状況を分かりやすく説明し、「スタジアムに足を運んでください」と呼び掛けた

## 白幡恭子助教がハワイ州立大学院の運動機能学科博士課程を修了

本学の白幡恭子助教が、ハワイ州立大学院の運動機能学科博士課程を修了し、博士号を取得いたしました。白幡助教は米国モンタナ州立大学卒業後に米国公認アスレティックトレーナー（B O C—A T C）の資格を取得し、2005年からA T Cとして、ポートランド州立大学やハワイパシフィック大学で勤務。2010年4月から仙台大学へ奉職し、A T ルームの管理運営を通して本学学生に対するスポーツ傷害外傷のケアをしてきました。2016年よりハワイ州立大学院で教育と研究を深め、このたび博士課程を修了したものです。

白幡助教は無事4年間の勉学を終えたことについて

「今までの人生の中で最も大変な4年間でした。A T教育、研究、そして脳震盪啓蒙活動プログラムと、ハワイ大学の教授陣から学んだ内容は多岐にわたり、A T教育研究の方向性を明確に出来た4年間であったと思います。今後、取得した知識や技術を、仙台大学の学生に還元していきたいと思います。また、このような貴重な機会を与えていただいた朴澤泰治理事長はじめ、支えて下さった多くの方々に感謝申し上げます。」と語っています。

なお、白幡助教がZOOMで論文発表した様子を学内のL C棟スクリーンや第三体育館前大型スクリーン、学食などで繰り替えし放映しております。ぜひご覧ください。

ポスター発表の質疑応答時の写真



白幡恭子先生 プロフィール

**経歴**

- H22.4.1 新助手採用（ATルーム）
- H27.4.1 助教就任
- H28.7.～R2.7. ハワイ大学 海外研修

**主な活動**

- 所属学会 : National Athletic Trainers' Association (NATA)
- H30.4 Far West Athletic Training Association (FWATA) ポスター発表

**資格**

- 全米公認アスレティックトレーナー (NATA-ATC)
- 日本体育協会認定アスレティックトレーナー



## 芝草通信 NO. 15

担当：体育施設管理コンサルタント 小島文雄

## 8月の芝生管理（暖地型芝生と寒地型芝生）について

夏日の暑い中で高麗芝生は生育最盛期を迎えます。\*自宅などの芝生の参考にもしてください。

## 1. 噴水まわりの天然芝生の維持管理（暖地型日本芝生）

8月になると気温も高くなり暖地型の高麗芝は生育が旺盛になります。引き続き刈り込みを頻繁に行います。乾燥に強い高麗芝生でも水不足になる事がありますので、適時水やりを行います。6月～7月にかけてキノコが約20個発生しました。キノコも菌からの発生ですから芝生床土の中に担子菌が有る事が予測され、キノコの発生を標徴として認識し、フェアリーリング病の発生前に殺菌剤を灌注しました。

①刈り込み：10日から2週間に1回行います。刈込により節間が短くなり、密度の高い芝生になります。

②水やり：好天が続き乾燥が激しいとき、葉が針のようになまり、全体に黒ずんできたら、水やりをします。

水を与えればすぐに元の緑色を取り戻します。猛暑日の午後まで水やりを行うと葉の上の水がお湯になり葉を痛めますので、11時頃までには終わらせます。但し水量が少ない時は午後にも継続します。気温と乾燥状態を調整しながら実施します。

③肥料：この時期は成長が旺盛ですので、化成肥料（N-P-K=10-10-10）を1m<sup>2</sup>当たり20g～30g施します。

④病害虫の防除：病気の心配はほとんど必要ありません。芝生の生育が旺盛で回復も早いので、春先から初夏に病気にかかっていたところも、8月には完全に回復します。スジキリヨトウやシバツトガが発生することがありますが、芝生の生育が旺盛なので、目に見えた被害になる事はほとんどありません。

⑤草取り：良く管理された芝生は密生していると雑草の生える余地が少なく、自然と減少します。密度を高めるように草刈りを小まめに行います。5月に散布した除草剤アージランの効果が少なかったところにスズメノカタビラが生き延びていましたが、多くは暑さで衰退しました。それでも生き延びているスズメノカタビラがあるところには再度アージランを散布します。

## 2A. 第二グラウンド天然芝生ラグビー・アメリカンフットボール場の維持管理（寒地型洋芝＋暖地型洋芝）

①刈り込み：バミューダグラスの成長が旺盛なので、刈り込みの翌日または3日目に刈り込みを行います。

②水やり：異常高温乾燥に注意を払います。

乾燥が続くときは毎日～2日おきに、午前中に散水が必要になります。

③肥料：化成肥料（N-P-K=10-10-10）を1m<sup>2</sup>当たり10g施します。

④病害虫防除：引き続きピシウム病に警戒をします。太陽が高くなり温度が上がるとピシウム菌が消えてしまうので、早朝の観察が必要となります。また、シバツトガなどの幼虫の発生にも気を付けます。

⑤草取り：病気や害虫の食害により裸地になった所や異常高温気象で乾燥が激しく散水が不足して裸地になったところに雑草が入りやすくなります。雑草を見つけたら除根します。

## 2B. 第二グラウンド天然芝生の利用による芝生の損傷について（寒地型洋芝＋暖地型洋芝）

先日の入校禁止が解除され、部活動も再開された際に、同じ場所で繰り返し練習をした形跡があり部分的に枯死した様子が見受けられました。

写真1は観察区域N02の利用翌日の芝生です。写真2は2週間の養生期間後の回復状態です。繰り返し荷重がかかる練習はグラウンド外で行うか、または中心から外れたグラウンドの隅を使って行うこと、或いは頻繁に練習場所をずらしながら同じ芝草に負荷が掛からない様にする事が求められます。他に観察区として施肥と追加播種を実施した区域N01と追加播種を実施した区域N03と対象区として維持管理を何もしない区域N04と4区域に分けて観察をしました。今回は2週間利用が無くどの区域も回復が早く、養生が十分に行われ、踏圧負荷が少ないと回復が早いことが理解できました。



写真1. 第二グラウンド天然芝生 N02  
【遠景】狭い箇所に繰り返しの荷重が掛かって黄変して枯死した芝草



写真2. 第二グラウンド天然芝生N02  
【近景】施肥をして養生により回復した芝草

## 「高校スポーツの安全を守る」Vol. 27

担当：助手 小野勇太

川平アスレティックトレーニングルーム(川平ATR)における、仙台大学附属明成高校生への「教育活動」について紹介したいと思います。

タイトルにもあるように、「高校スポーツの安全を守る」を掲げている我々にとって、安全教育がとても重要です。何か困ってからの対応というよりも、困らないように事前に行える対策は何であるかと一人一人が考え、そして行動できることが傷害予防に繋がり、結果として競技力向上に繋がります。いかにして、高校生たちの『予防意識の向上』を促進できるかが重要です。

現在も続く新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のような感染症予防をはじめ、熱中症予防、スポーツ傷害予防、傷害悪化予防(応急処置など)、再発予防(テーピングやストレッチングなど)、スポーツ選手にとって『予防』すべき内容は非常に多く、それら一つ一つへの対策や準備、実践していくことがコンディショニングです。私たちは、これらを高校生へ伝える役割を担っているので、「高校スポーツの安全を守る」という目的達成のためにあらゆる手段を用いて「予防教育」を実践しています。

今年度5月はオンラインにより高校体育授業を実施(写真①)。休校措置解除後には、高校部活動再開に向けたガイドライン資料を作成し高校へ提案(写真②)。川平ATR利用に関するオリエンテーション(写真③)と、部活動毎に開催していた傷害予防講習会「熱中症」について動画作成(写真④)、例年にはない新しい取り組みを実施しています。今回の動画作成をきっかけに、対面授業においても、「ひとりでできるテーピング法」の動画を作成し、コロナ対策を踏まえた授業実施への創意工夫をしております(写真⑤)。また十分なスペースが確保出来る際には、間隔をあけて実技授業も実施しています(写真⑥)。

このような様々な取り組みを通して、仙台大明成校への安全教育サポートを展開しており、これらの活動内容やその他情報発信を川平ATRのホームページより随時情報発信しております(写真⑦)。こちらホームページがリニューアルされているので、こちらも是非ご覧頂ければと思います。

<https://www.sendaidaiigakukawadairaatr.com/>



①オンライン対応(オンデマンド型)



②高校部活動再開に向けたガイドライン(川平用)



③川平オリエンテーション動画にて実施



④熱中症の傷害予防講習会を動画にて実施



⑤スクリーンを見ながらテーピングを実践する高校生



⑥S&Cによる「レジスタンス」実技指導を実践する高校生



⑦リニューアルされた川平ホームページ

# Monthly Report

SENDAI UNIV.  
PUBLIC RELATIONS  
Vol.172 / 2020.AUG  
(月1回発行)

## 硬式野球部：気持ちを新たに活躍誓う/竣工式



全面人工芝にリニューアルとなった第2グラウンド野球場で記念写真

## く 目 次 く

・硬式野球部：気持ちを新たに活躍誓う／竣工式	1
・「しっかりとした振り返り」（PDC A）を大切に！仙台大学の専門教養演習の講話より	2
・太陽の村キッズバイクパークオープニングイベント	3
・漕艇部にエール OBOG会が看板寄贈／部員たち活躍誓う ・大学スポーツ協会（UNIVAS）が本学を訪問 ・「総合英語A」、「総合英語C」の成績優秀者に対する表彰式を実施しました	4
・「ありがとう！」ペラルーシ新体操チームより応援動画メッセージ ・櫻井雅浩教授が山形大学で特別講演を実	5
・芝草通信 NO. 16	6
・「高校スポーツの安全を守る」Vol. 28	7

8月28日（金）第2グラウンド野球場改修竣工式を開催しました。昨年11月より着工し、今年5月には完成していましたが、コロナ禍の為、延期となっていました。

仕様は地元アイリスオーヤマ製の全面人工芝とLED照明となっており、特に人工芝は2種類の異なる形状を組み合わせた特別仕様となっています。

当日は晴天の中、竣工式が行われ、朴澤泰治理事長は「このグラウンドになるまでの経過や野球部のこれまでの歴史を踏まえて、更なる活躍、努力を期待しています」と激励しました。

選手を代表して佐野如一（体育4年）主将は「この素晴らしいグラウンドで毎日充実した日々を過ごせています。このような環境で野球ができるのも多くの方々の支えやサポートがあってこそだと思います。私たちは結果でみなさんへ恩返しができるよう、これからも感謝の気持ちを忘れずに練習していきたいと思います」と気持ちを新たにしました。

式後は、記念紅白戦を実施し、本学が招聘している、白石市・柴田町東京2020オリンピック・パラオリンピック親善大使のセベツ・アリーナさんが始球式を務め、見事な投球を披露しました。

硬式野球部が所属する仙台六大学野球連盟の秋季リーグ戦は9月19日（土）から開幕予定です。今後の活躍が期待されます。



見事な投球を披露したセベツ・アリーナ親善大使

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室

直通 0224-55-1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

# 「しっかりととした振り返り」（P D C A）を大切に！

## 仙台大学の専門教養演習の講話より

仙台大学 教授 千田 孝彦

今年着任した千田孝彦と申します。主として英語を担当しております。そんな私から見ると、これまで、仙台大学の学生諸君は様々な場面で活躍していると思います。

具体的には、地域の交流会への参加、各学科主催イベント等のボランティア活動、部活動での各種大会、そして、大学祭等の各種行事への積極的参加です。

仙台大学の大きな特徴である部活動の活躍は、地域社会に対して若い力の活気と明るさを与えています。これは、大学としての使命であり、これからも地域の人達と大切に育てていかなければなりません。学生諸君が教育活動に対して前向きに取り組む姿勢はそれを指導した才能豊かな先生方がいるからこそ実現できているのは言うまでもありません。私もその一員に早くなれるように日々努力していきたいと思っています。

さて、今年は、授業は、オンデマンド授業となり、しかも、私にとっても長い教員生活の中でも初めての経験をしているところです。もちろん、英語の授業以外に仙台大学の大きな特徴である教養展開科目の仙台大学の専門教養演習も担当しています。これは、2年生から4年生までの学生が希望する種目に登録して受講する科目です。私の今年のテーマは「就職について」約70名の学生を5, 6人にグループ分けして、演習を行います。

ここでは、第二回のミートによる授業、テーマが「For Seeking Employment」の中で私が講話した内容を紹介したいと思います。

以下が、講話内容です



本日は、スポーツを取り巻く環境の中で、学生諸君が就職活動を考える時に心がけて欲しいことについて、話をしたいと思います。

今年は新型コロナウイルス対応があり学生諸君は今までに経験したことのない状況での大学生活を送っているのではないかと思います。

しかし、個人的に振り返ってみると、君たちの中にはいろいろと反省していることもあるのではないかでしょう。勉強を計画どおりすることができずに悩んでいたり、部活動への関わりにも問題を感じている人もいると思います。まだ、そういう学生は何かに打ち込むが故に悩むのでいいと思います。大いに悩み、解決に努力しましょう。

また、ふと振り返ってみると、学生諸君の中には、自分以外の人の短所や欠点ばかりが浮かび、その人の長所や良いところを見えなくなっている人はいませんか。我々大人にも人のことをよく評論家のごとくあれこれ批評する人がいますが、もう一度謙虚に自分の行動を振り返ってみて、他人のちょっとした良いところに目を向けるようにしましょう。それによって、今まで気がつかなかった自分が見えてきます。そして、ただ大学に漠然と目標もなく来ている学生は早く自分なりの目標をどんなに些細なものでも良いので持つように努力しましょう。人間は、努力することが大切です。

以下のようにスポーツに関する資料からポイントを解説し、学生諸君には、「PDCA」について話をしようと思います。

- 1, 柔道の山下泰裕：スポーツとは
- 2, 就職戦線状況について
- 3, スポーツ庁長官 鈴木 大地
- 4, ラグビーの山田章仁
- 5, 仙台89ers 志村 雄彦
- 6, 教員志望の学生に対して

勉強でも部活動でも、また、この演習のテーマでもある就職活動でも、必ずこの「PDCA」ということを心がけてください。

つまり、何をする時にも、まず、目標に向かって「PLAN」すなわち、「計画を立てます」。 次に、その計画に沿って「DO」すなわち、「実行します」。そして、計画通りに実行しているか実行し終わったら必ず「CHECK」すなわち、「反省・検証する」のです。そして、計画に無理はなかったか。適正な計画であったか。また、実行はどうだったか。計画通りに実行することができたか。実行できなかったのはどこで、それは、どうして実行できなかったのかをしっかりと反省するのです。そして、この反省は、次に計画を立て、実行に移す時の材料として、必ず生かされるために「ACTION」すなわち、「改善されなければなりません」。

これから、大学では、進路実現に向けての就職活動がたくさんあります。ぜひ、「PDCA」を忘れずに、そして、意識して行動するよう心掛けてほしい。

「目標は高く、努力は地道に」、努力することは裏切りません。



学生諸君一人一人の頑張りと、活き活きと充実した生活となるように期待しています。

さて、目標に向かって挑戦するということは自分自身に対する挑戦でもあります。大学ばかりでなく日常生活においても、色々な体験をし、数々の試練を乗り越えてこそ充実した学生生活が可能になります。そこに真の友情が生まれることもあります。

- ・暖かくぬるま湯ではない、汗を流し泥にまみれる試練の体験をしてください。
- ・成功だけでなく、自分の不甲斐なさを知る失敗の体験も大切です。
- ・受け身ではなく、挑戦の心が生まれる体験をしてください。
- ・豊かさだけではなく、貧しさの体験も必要です。

この演習を通して、自分自身を見つめ直して、就職について自分の問題としてしっかりと捉え、目標実現のために時を大切にして努力してください。そして、この一年で、学生諸君一人一人が大きく成長してほしいと思います。

これから、生徒諸君は様々なことにチャレンジする機会がたくさんあります。ぜひ、この「PDCA」を忘れずに積極的にたくましく何事にも取り組むことが、必ず自分自身の次への成長に繋がると思います。



これが、この講義で私が学生諸君に話した講話内容の一部です。

私の専門教科である英語では、習熟度別クラス編成をしており、オンデマンド授業での学生諸君の態度は、質問するにしても実に礼儀正しく、これまでの先生方の指導に感謝したい気持ちで、私も頑張らねばと改めて気合を入れ直しているところです。

また、仙台大学は、東北で唯一の体育系大学のスペシャリストとしての学士力を身につけさせるために、体育系大学としての「専門教育」と「教養教育」を実施し、更なるカリキュラムの改善を図っています。

学生諸君にとって、柴田町の自然に囲まれた素晴らしい環境の中でスポーツができるることは、とても恵まれており、日々忘れないことが大切です。

私も学生諸君が、授業を通して学ぶ楽しさと少しでも人間的に成長することを手助けできるように、これから指導していきたいと思っています。

## 太陽の村キッズバイクパークオープニングイベント



子どもたちの安全をサポートする本学学生の様子

8月2日（日）梅雨明け初日の夏空の下、柴田町太陽の村キッズバイクパークオープニングイベントが開催されました。当日は、子ども運動教育学科、幼少年スポーツ教育論受講生がイベントのサポートと来場の児童への乗り方指導を担いました。

セレモニーには柴田町の熊野幼稚園、浄心幼稚園、第1第2たんぽぽ幼稚園から約40名の園児が招待参加。子どもたち一人一人に対し、本学の学生はヘルメットやプロテクターの装着から乗り方指導まで懇切に行いました。パーク内には楽しげな子どもたちの歓声と両親の温かい声援が飛び交いました。子どもたちの中にはキッズバイクの初心者からレースに参加している子まで、技能面には幅広い差が見られましたが、本学学生の上手な声掛けと励ましにより、スタート地点からゴール地点までどの子も終始笑顔で駆け抜けました。

午後はキッズバイクの無料体験会。多くの子どもたちが列をなし今か今かと自分の順番を待っています。キッズバイクにまたがった子どもたちの目の輝きがとても印象的でした。

太陽の村は昭和51年に開村しました。蔵王や太平洋までの雄大な眺望が自慢の施設で、広大な芝生で自由に遊ぶ事ができ、四季を通じての憩いの場として利用されてきました。ここにキッズバイクパークオープンにより、さらに家族連れが楽しめる施設へと発展が期待されています。太陽の村の活動に仙台大学の学生が関わっていくことにより、人々の交流促進と町の活性化に併せて、子どもたちの運動遊びを通じたたくましい育ちに結びついていくことを願っております。

2020年のコロナ禍の中でしたが、子どもたちの笑顔と学生の献身的なお世話に感動した一日となりました。

＜報告：子ども運動教育学科 教授 郡山孝幸＞

## 漕艇部にエール OBOG会が看板寄贈／部員たち活躍誓う

仙台大学漕艇部の漕門館（漕艇部寮）に、漕艇部OB・OG会の漕門会より看板が寄贈されました。

柴田町を流れる白石川のほとりにある寮の前で、部員たちも気持ち新たにしていました。

寮の玄関先に掲げられた「漕門館」の力強い文字が杉材にしっかりと刻まれています。

多くの先輩たちがこの漕門館で競技者として、また人として、かけがえのない仲間と共に励ましあい成長していきました。

漕門館は今後も、学生たちの第二の故郷として競技生活はもとより学生生活を支える場になっていくことでしょう。

OB・OG会の皆さん、大変ありがとうございました。（8月24日）



## 大学スポーツ協会（UNIVAS）が本学を訪問

8月21日（金）一般社団法人大学スポーツ協会（UNIVAS）様と株式会社マイナビ様が来学され、UNIVAS様の初年度の取組みや成果、現在のコロナ禍における大学部活動の在り方等のお話を頂きました。また、今後展開されるマイナビ様と連携したデュアルキャリアプログラムに関する説明、オンラインを介したキャリア適正診断プログラムの構想や、大学入学前から始まり入学後も学年ごとにテーマ設定を設けたデュアルキャリアプログラムの導入計画等、大変貴重な情報を共有させて頂きました。

部活動マネージャーや主務等を対象としたGMGミーティング（UNIVAS様主催）を全国各地で開催されており、来学翌日に開催された仙台会場では本学学生もミーティングに参加し、マネージャーとはなにか、組織における目的の重要さ、社会人になった際に活きてくる事例について学びました。

引き続きUNIVAS様との連携強化を図り、大学部活動の問題解決や発展に尽力して参ります。

＜報告：スポーツ局＞



（左から）大友職員、遠藤学長、木村さま、伴さま、金田さま、林SA  
 株式会社マイナビ アスリートキャリア事業室  
 事業室長 木村 雅人 様  
 一般社団法人 大学スポーツ協会  
 デュアルキャリア部 部長 伴 泰子 様  
 一般社団法人 大学スポーツ協会  
 総合推進部 金田 竜成 様

## 「総合英語A」、「総合英語C」の成績優秀者に対する表彰式を実施しました

8月4日（水）コロナウイルスの影響で開催が遅れています、昨年度後期の英語必修科目「総合英語A」と「総合英語C」の成績優秀者199名に対して、英語力向上のための日頃の努力への賛辞とその努力の今後の継続を願って、表彰式が実施されました。成績優秀者には、本学を会場として実施するTOEIC試験の受験費無料の特典（1年間）と、成績に応じてクオカードが贈呈されました。



表彰の様子

## 「ありがとう！」ベラルーシ新体操チームより応援動画メッセージ

仙台大学では、白石市、柴田町とともに招致したベラルーシ新体操ナショナルチームの東京2020オリ・パラに向けた事前合宿を2017年より実施して参りました。2020年は新型コロナウイルスの関係から東京2020オリ・パラも延期となり、併せて事前合宿も実施されず、残念ながら選手たちが来訪する機会が無くなってしまいました。



この事前合宿に限らず、コロナ感染予防のためイベント開催などが難しく、人と人とのつながりを維持していくことが難しくなっている状況を開拓する一手とするべく、内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部によりホストタウン専用サイト「世界はもっとひとつになれる Light up HOST TOWN Project」が計画され、そこでは海外アスリートからの応援メッセージ動画を掲載されております。

そこで本学では、白石市・柴田町東京2020オリ・パラホストタウン親善大使であるセベツ・アリーナ氏、マカロワ・マリア氏の協力のもと、ベラルーシ新体操ナショナルチームにメッセージ動画を依頼し、同サイトへ掲載させていただきました。

メッセージを頂戴したのは、これまでの事前合宿に参加するアリーナ・ガルノシコ選手、カチェリーナ・ガルキナ選手、アナスター・サロス選手の3名です。応援メッセージとともに、これまでの事前合宿の様子も紹介されておりますので、どうぞご覧ください。

### 「世界はもっとひとつになれる Light up HOST TOWN Project」

- ・ホームページ <https://host-town.jp>
- ・応援メッセージ公開ページ [https://host-town.jp/athlete\\_message/ja/#overseas-player](https://host-town.jp/athlete_message/ja/#overseas-player)

---

## 櫻井雅浩教授が山形大学で特別講演を実施

櫻井雅浩教授は、8月7日（金）山形大学第二外科・貞弘光章教授のお招きにより「震災と結核」「ネクロプロトーシス」などの話題について～と題するテーマで、山形大学医局員14名に対し特別講演を行いました。

内容は、東日本大震災と結核およびウサギを用いた骨髄虚血モデルと現在九州大学と共同研究しているネクロプロトーシスの解説で、講演後に骨髄虚血モデル作成方法を供覧しました。



櫻井教授は震災と結核の関係について長年取り組んでおり、2011年3月に発生した東日本大震災でも災害基幹病院である仙台医療センターで、災害医療に力を尽くしました。

参加した医局員からは「心臓血管外科医でいらっしゃる櫻井教授から直接ご講義いただいたことで大変勉強になりました」との感想が寄せられ、これを機に山形大学との共同研究が始まることとなり、スポーツを科学する仙台大学として医学分野における学術研究がますます盛んになりそうです。

担当：体育施設管理コンサルタント 小島文雄

## 9月の芝生管理 (暖地型芝生と寒地型芝生) について

夏日の猛暑日が続き高麗芝生は生育最盛期を迎えます。

\*自宅などの芝生の参考にもしてください。

### 1. 噴水まわりの天然芝生の維持管理 (暖地型日本芝生)

- ①刈り込み：10日から2週間に1回行います。まだ暑さが続きますので8月同様で結構です。
- ②水やり：猛暑日が続いている間は水やりを行います。気温と乾燥状態を調整しながら実施します。
- ③肥料：まだ生育期ですので1回与えます。その後は施しません。肥料を与え続けると、雑草が多くなります。
- ④病害虫の防除：9月下旬の秋の長雨のころはさび病やカーブラリア葉枯れ病が発生することが有ります。  
刈込を規則正しく行うことで病気は軽減できます。  
ダメージは少なく回復困難になることは有りません
- ⑤草取り：雑草の発生は少ないので、取り残した雑草が株化して種をつける時期です。  
翌年に種を残さないように注意しましょう。

### 2A. 第二グラウンド天然芝生ラグビー・アメリカンフットボール場の維持管理 (寒地型洋芝 + 暖地型洋芝)

梅雨の影響もあまり見られずに、8月の猛暑日が続いたことにより暖地型洋芝バミューダグラスは順調に育ちました。

7月の下旬頃から8月の上旬頃は寒地型洋芝と暖地型洋芝がお互いに競い合うように密集していました。しかし猛暑日が続くと本学の環境下では寒地型洋芝は衰退します。寒地型洋芝が密集している部分が裸地化してこげ茶色に変色し、直近まで一面緑色だったけれども、まだら模様になりました。8月下旬は猛暑日が続きバミューダグラスが盛んに成長して、裸地の間に食い込みつつあります。

- ①刈り込み：バミューダグラスの成長が旺盛なので、8月同様に刈り込みの翌日または3日目に刈り込みを行います。
- ②水やり：異常高温乾燥に注意を払います。  
乾燥が続くときは毎日～2日おきに、午前中に散水が必要になります。
- ③肥料：化成肥料 (N-P-K=10-10-10) を1m<sup>2</sup>当たり20g施します。
- ④病害虫防除：長雨の後の高温気象の時にピシウム病が発生しやすいので警戒をします。  
早朝の観察が必要となります。シバツトガなどの幼虫の発生は8月実施の防除で十分です。
- ⑤草取り：9月下旬の涼しくなるころに、休止していたスズメのカタビラが復活してきますので常に除根をします。

### 2B. 芝生にムクドリが多数集まると、大変だ！

8月18日約30羽のムクドリの飛来が認められ、翌日19日にも約50羽の飛来が有りました。芝生に潜んでいるシバツトガの幼虫を空の高いところからでも見えるらしいです。1回位なら、ムクドリが幼虫を食べ尽くしたと考えられますが、2日続きでしかもさらに大勢のムクドリが飛来して芝生の上を突き回っていることは大変な状況です。

シバツトガの成虫は指の爪位の白色又は灰褐色をした蛾の一種です。年間に何回もふ化しながら、芝草の根に近い柔らかい部分を食い荒らします。最初の幼虫は数mm程度ですが老熟幼虫は体長が20mmに達し食害も大変な量になります。4月頃の小さいときは無視しても大丈夫ですが、成虫での防除は困難ですので、8月下旬ころの大きな幼虫を発見して、素早く薬剤を散布して防除しなければなりません。8,000m<sup>2</sup>に10,000匹くらい発生すると一晩でグラウンドが食い荒らされます。大きな被害をもたらす害虫ですので、春先から成虫の観測や幼虫の発生の発見に最大の努力を継続しています。

19日朝の判断により、仕事の内容を変更して、常日頃保管している薬剤の散布を最優先にして、ワークマン(砂散布のスプレッダーからスプレーヤに載せ替えて待機中)で殺虫剤散布作業を実施しました。



写真 1. 第二グラウンド天然芝生【遠景】北西  
角近くに群がるムクドリの集団



写真 2. シバツトガの成虫

『ノシバ・コウライシバ』ソフトサイエンス社出典



写真 3. シバツトガの幼虫

第二グラウンド天然芝生(過去の例)



写真 4. 殺虫剤散布 (スプレーヤ) 状況  
仙台大学紀要Vo 1. 51、No2. 出典

(8月25日記)

川平キャンパスAT・S&Cレポート

## 「高校スポーツの安全を守る」Vol. 28

担当：浅野 勝成 助手

先日、プライオメトリクスと題した授業で垂直跳びの測定を行いました。測定機器としてジャンプマットを使い、空中滞空時間法にて算出しました。「どうせ測定するならば！」ということで、今回はちょっとした“遊び”を交えてみました。ウォームアップの違いがもたらす急性の垂直跳びへの効果を調べてみました。約30名を動的ストレッチ群 (DS) 、静的ストレッチ群 (SS) 、③何もしないコントロール群 (CON) の3つのグループに分類し、10分程度のストレッチ介入を行った直後に垂直跳びの測定を行いました。結果は・・・



垂直跳び跳躍高のグループ平均は、CON>SS>DSという結果になりました。多くの研究ではDSが跳躍高に良い影響を与えるという示唆が出されていますが、今回は全く逆の結果となりました。

考えられる要因としては以下が挙げられます：

- ①動的ストレッチの量と強度が大きすぎた。
- ②暑さも関係して疲労が蓄積していた。
- ③グループ間での跳躍力の偏りがあった。
- ④そもそも垂直跳びの実施や測定に慣れていなかった。

一方で、環境や身体のコンディションに応じてウォームアップの量と強度を調整する必要があるということになります。今回の“遊び”で生徒個々人のウォームアップについて考えるきっかけになれば良いなと思います。

今回のような授業は、生徒だけでなく、体育教師そして私自身も楽しく取り組めるものでした。ただ知識を詰め込む授業ではなく、探究心をくすぐるような授業を今後も展開していきたいと思います。

# Monthly Report

## 「仙台大学 あすと長町サテライト・オフィス」を開設しました



記者会見後に記念写真

本学はゼビオアリーナ仙台と連携し、仙台市あすと長町地区の「ゼビオアリーナ仙台」の一角に「Sports Labo@XEBIO ARENA 仙台大学あすと長町サテライト・オフィス」を開設しました。

9月2日（水）開設にあたりメディア向けに記者会見を実施し、朴澤泰治理事長は「ウイズコロナ、ポストコロナといわれる中、身体活動に関する新たな考え方、取り組み方が求められます。そうした観点からも新しい試みを地域のみなさんと一緒にに行っていきたい」と展望を話し、ゼビオアリーナ仙台の小池勵起館長は「スポーツの発信活動拠点を目指し、今回『スポーツ』という切り口でシェアオフィスに現在5団体入居して頂いていますが、体育大学である仙台大学に入居して頂いたことで产学間でも非常に楽しみです。」と期待を寄せました。

会見後は、本学が招聘している白石市・柴田町東京2020オリ・パラホストタウン親善大使のセベツ・アリーナさんと子ども運動教育学科の学生によるリズムダンス、サーキットプログラムのパフォーマンスを披露しました。

今後は地域の方々、更には仙台市民、宮城県民の皆さんに、本学のスポーツ健康科学の知見を活用して、①乳幼児と保護者の運動遊び教室、②各種スポーツに関するイベントやセミナー等、③近隣の小中高生のスポーツ少年少女及び指導者へのワンポイント・アドバイスの実施、など楽しく各種のスポーツに触れていただく、社会貢献活動拠点の一つとして活用していきます。



リズムダンスのパフォーマンスを披露する子ども運動教育学科の学生とセベツ・アリーナさん

## ＜目次＞

・「仙台大学 あすと長町サテライト・オフィス」を開設しました	1
・教員初体験の私ですが・・・	2
・海外で活躍する卒業生・イスラエル女子柔道コーチの田中美衣さん～ 恩師：南條和恵監督の言葉を胸に～	3
・硬式テニス部：東北学生夏季テニストーナメント大会の結果 ・男女バレー部：樅の木杯開催 ・男子バスケットボール部員が、ボランティア清掃活動をアシスト／感謝の電話	4
・同窓会・同窓会有志の会より寄贈／クオカードを配布しました ・気持ちよく笑顔で運動／本学と柴田町の生活習慣病予防教室／月1回ペース ・スポーツ情報マスマディア学科生、釜石シーウェイブスでインターナンシップ	5
・芝草通信 NO. 17	6
・硬式野球部／仙台六大学野球 秋季リーグ開幕／2連勝 ・「高校スポーツの安全を守る」Vol. 29	7

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室

直通 0224-55-1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

毎月、新任の先生方をご紹介するコーナー、今回はスポーツ情報マスマディア学科の佐藤修教授にご寄稿いただきました。佐藤修教授は本年3月まで東北放送（株） \*TBS系列\* で、スポーツ部長として番組制作のプロデューサーを務めた傍らスポーツアナウンサーとしても活躍されました。

## 教員初体験の私ですが・・・

仙台大学 教授 佐藤 修

ジャイアンツの原辰徳監督が9月11日、監督通算1067勝目を挙げ巨人軍の歴代最多となった。栄光の巨人軍というほどだから原監督が史上最多かと思いきや上にはまだ10人もいて、元南海監督の鶴岡一人氏が1773勝でトップ、ノムさんや星野監督もその名を刻んでいた。星野仙一氏は1182勝で歴代10位。正直そんな上位にランクしているとは想像していなかった。それは殆どの監督の退任のタイミングが成績不振とリンクしているかもしれない。打つ手打つ手が外れて負けを重ねて下位に低迷し、就任会見時とは別人のような表情で去ってゆく。

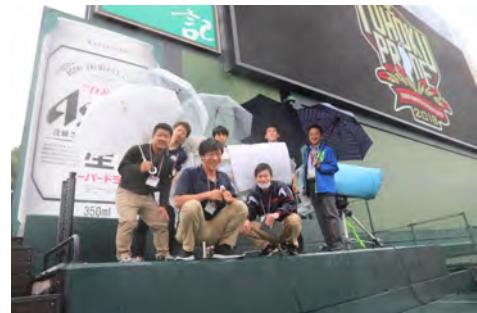
2014年8月23日、楽天は首位と24ゲームも差をつけられ優勝は絶望、前年日本一の面影すら消えてしまっていた。その頃、腰の手術で7月下旬まで2か月間休養していた星野監督の去就が取りざたされていた。試合前、中継のための取材で私は他社の記者とともにベンチの中で星野監督の雑談に耳を傾けていた。一瞬記者との会話が途切れ私は星野監督と目が合った。監督は「ベンチの裏へ来い」というように顎で合図を送ってきた。監督が楽天に来てから4年間で初めての事だった。他社は誰も来ない。一対一。裏の衝立の影に身を隠しながら「どうなんですか?」と去就について質問をぶつけた。「いろいろ、足をひっぱるやつがいてなあ」と苦渋の表情を見せた。それからいくつかヒントになる言葉をもらい話は終わった。監督は再び記者の囲みの中へ。私はこの日はもう、監督のそばへは行かなかった。心臓がドキドキしていた。闘将星野監督が私に向かって心情を吐露した。ついに監督の中に入り込めた。

スポーツの取材現場では日々新しい情報に触れる。取材対象はプロのアスリート。自分に不利益な情報は決して漏らさない。そこを敵に攻められるから。弱音も決して吐かない。生活にかかわるから。しかし好調を支える裏には多くの苦悩が潜んでいる。取材行為はその陰に潜む本当の姿をいかにつかむか、他社との競争であり取材対象との信頼関係構築の努力でもある。

この半年間、スポーツ報道や中継の歴史、ネットの台頭によるこれからテレビの立ち位置を調べ学生に伝えてきた。放送局で働いていながら実はその歴史や課題についてぼんやりとは感じていたが、文字として意識したことにはなかった。学生とともに自分自身も学びの日々である。できれば心臓の動悸が伝わってくるような緊張のエピソードを伝えたい。しかし準備したことを伝えるに精一杯で、経験談をうまく組み込めない。というより披露する勇気が湧いてこない。自分の話がどこまで伝わっていたのだろうか。講義を終えGoogle Meetのスイッチを切るたびに安堵と不安が交錯する。試行錯誤が当分続きそうだ。



「ベガルタ仙台戦を取材中の佐藤修」  
～2005年 ユアテックスタジアム仙台にて～



楽天生命パークで仙台大生に野球中継の制作体制を説明する筆者（2017年）

## 海外で活躍する卒業生・イスラエル女子柔道コーチの田中美衣さん ～ 恩師：南條和恵監督の言葉を胸に ～



2019年グランプリ・マラケシュで選手が銅メダルを獲得  
(田中美衣は左から2番目)



2019年、田中美衣の誕生日に選手たちがケーキを作り祝いしてくれた時の様子

本学OGである田中美衣（たなかみき：平成21年度体育学科卒業）さんは滋賀県出身、8歳から柔道をはじめ、本学へ進学。2010年には東京世界選手権で女子63キロ級銀メダルを獲得するなど、トップ選手として名をはせてきました。本学卒業後、了徳寺学園の職員になりましたが、柔道の普及のため2017年にイスラエルへ渡り、柔道女子コーチに就任。世界的なコロナ禍で1年延期となった東京五輪に向けて、イスラエルの選手たちを励ます様子が過日、中日新聞に掲載されました。

それを見にされた朴澤泰治理事長より「田中美衣さんがイスラエルの女子柔道コーチとして、新型コロナウイルスの世界での感染のなかでも来年に延期されたオリンピック開催を信じ、選手たちを励まし指導に励む様子を拝見し、かつて嘉納治五郎先生が世界に柔道を広められた崇高な精神を思い起こしました。仙台大学で学んだスポーツを科学するアカデミックな知識と平和に貢献する柔道の魂を胸に、今後ともご尽力ください。来年、東京オリンピックの晴れ舞台である武道館にて田中美衣さんにお目にかかるのを楽しみにしております。」と、励ましの言葉を送ったところ「理事長先生、このたびは、激励メッセージありがとうございます。現在イスラエルの柔道は、ほぼ通常練習に戻り、来月は国内大会を開催する予定です。しかし、国内の感染者数は多く、常にコロナウイルスの予防を選手に徹底し、なんとか感染者を出さず通常練習をおこなえている状態です。国際大会の再開また、オリンピックが開催されるのかといった不安から、チームのモチベーション維持は正直難しいですが、大学時代、南條和恵先生に言われた『サプライズに強くなれ』と言葉を思い出し、突然の出来事にも目標を見失わず、不懈の精神で精進しております。誰もが未経験のことで、練習も遠征再開も手探りですが、仙台大学で学んだ知識と精神で、来年の東京オリンピックに向け選手のサポートをやり切りたいと思います。日本へ帰国時、仙台大学に原点回帰に伺います。ご多忙の中、わざわざ激励のメッセージをいただき誠にありがとうございました。」と返信がありました。

田中美衣さんがイスラエルに行くきっかけは4年前、柔道選手を引退後、教員志望で次の進路を考えている際、海外での指導方法を学んでから教員採用試験を受けても遅くないのでは？と考えたことだそうです。海外で指導できるチームがないか？と思っていた矢先、ちょうどリオデジャネイロ・オリンピックが終り、日本人指導者を探していたイスラエルチームと巡りあったとのことでした。

現在、田中美衣さんは基本的にシニアチーム20人ほどの選手を指導しており、日本人選手とイスラエル選手の違いについて「イスラエル選手は日本人以上にウエイトにかける時間が長くパワーがあります。ただ、技術面での細やかな動作はやはり日本人の方が上手で隙がなく、安定しています。技に飛び込む勢いやパワーはイスラエル選手がまさっているため、ハマれば強いというのが大きな違いだと思います」と語りました。また、指導で気を付けている点は「反復練習と細かなポイントを飛ばさずに順序通りやることで、いろいろな場面で応用が効くため、パワーと勢いだけでは通用しないことを意識し、選手に伝えるようにしています。」と述べました。

イスラエルの母国語はヘブライ語ですが、田中美衣さんは英語で指導していて、今では日常生活に不自由しない程度、英語が身に付いたそうです。現在の目標は「打倒日本人！」、今後は若い選手を指導し、イスラエルのオリンピック代表選手を育てたいと笑顔で話されました。

そのような愛弟子の努力に対し、恩師である南條和恵監督は「田中美衣は学生時代も、強いものに向かうときほど力を発揮する選手でした。『打倒日本人！』と語るところは、負けず嫌いの美衣をよく表していますし、日本への恩返しの意味もあるのではないでしょうか。また、日本人として初めてイスラエル柔道に飛び込んでいき、そこでもしっかりと地に足をつけている姿を見て、まだ実績のなかった仙台大学に自ら飛び込み日本一を達成した彼女らしいなと誇らしく思います。今後は、海外での実績を生かして、仙台大学で一緒に後進の指導ができれば、という夢も持っています。」と、語っています。

仙台大学で培った柔道家としての魂を胸に、田中美衣さんが海を越えチャレンジし続ける姿がこれからも後輩たちに受け継がれていくことでしょう。

## 硬式テニス部：東北学生夏季テニストーナメント大会の結果

開催場所：仙台市泉総合運動場・川内庭球場

### 【男子シングルス】

第3位 大久一真（体育学科 4年）※

第5位 田中翔馬（体育学科 3年）※



### 【男子ダブルス】

第3位 田中翔馬（体育学科 3年）・村上智哉（体育学科 3年）※

### 【女子シングルス】

第6位 本田楓果（こども運動教育学科 3年）※

### 【女子ダブルス】

第3位 菊部 優姫（運動栄養学科 3年）・菊部 舞姫（体育学科 3年）

※印の選手は、11月に開催予定の全日本学生テニス選手権（四日市）の出場権を獲得しました。

今大会はコロナの影響により、無観客試合で行われましたが、OB・OGを初め、様々な方からメッセージ等、沢山の声援をいただきました。心よりお礼申し上げます。

＜報告：硬式テニス部＞

## 男女バレー部：樅の木杯開催

8月29日（土）、30日（日）に第39回仙台大学樅の木会長杯争奪高等学校女子バレー部大会および第2回仙台大学樅の木会長杯争奪高等学校男子バレー部大会を開催し、県内外から女子10校、男子4校の計14校が熱戦を繰り広げました。

今大会は、本学の「仙台大学の専門教養演習（バレー部）」の授業の一環として大会を運営し、今年は新型コロナウイルス感染予防対策（大会開催ガイドラインの作成、来学者全員の2週間の健康チェックや当日の検温、試合前後の使用備品等の消毒、等々）を十分に行い、OB・OGの先生方からなる樅の木会にご協力いただきながら開催することができました。

樅の木会の先生方からのご指導や、高校生のプレーから新たに得るものも多く、本学生にとって学びの深い2日間となりました。特に、感染予防対策を行いながらの大会開催・運営は、体育大学生としてこのような状況下でも身体活動を行うことができる自信と経験を積むことができました。

今後も、大学生と高校生が交流し、困難な中でも協力を得ながら大会を開催、参加する機会が増えていければ良いと考えています。

＜報告：男女バレー部＞



## 男子バスケットボール部員が、ボランティア清掃活動をアシスト／感謝の電話

8月29日（土）、深沼海水浴場でボランティア清掃活動をしていた方々が100kg以上もあるゴミの取扱いに難儀していたところ、トレーニング中の男子バスケットボール部員5名（相澤 正輝さん（体育2年）、高橋 琉唯さん（体育2年）、高野 英治さん（体育2年）、中島 尚廉さん（体育1年）、鈴木 雄音さん（体育1年））が爽やかに一致団結し、清掃活動をお手伝いしました。その行為に対し、清掃活動をしていた方から、後日、お礼の電話をいただきました。

本件については、学内でも話題となり、9月10日（木）に、遠藤保雄学長からお詫びの言葉が掛けられました。

＜報告：学生生活室＞



## 同窓会・同窓会有志の会より寄贈／クオカードを配布しました

本学の同窓会・同窓会有志の会より学生生活支援として寄贈いただいた全学生分のクオカードを、本学は9月11（金）、12（土）の両日、学生たちに配りました。

両日は健康診断のため全学生が来校。本学職員が一人一人にクオカード（2000円相当）を渡しました。「先輩たちからだよ」と告げられると、学生たちは「助かります」「ありがとうございます」などと喜んでいました。

硬式野球部主将の佐野如一さん（体育4年）は笑顔で感謝。「とてもうれしい。9月19日には仙台六大学野球秋季リーグ戦が始まるので、試合前の補食用のゼリー飲料を購入します」と話していました。そのほか「食費に使います」「参考書を買う」といった声も届きました。

今回の学生生活支援事業については、同窓会からも改めて応援メッセージが寄せられました。「本日は同窓生有志の会・同窓生の皆さんと学生の皆さんがつながった記念すべき日です。諸先輩方の熱い思いをしっかりと受け止めて、学生の皆さんには有効に活用いただくよう頼っています。同窓会はいつでも皆さんを応援しています」（12回生・同窓会事務局職員、佐藤一拡さん）

本学は7月、同窓会などよりクオカードのほかにオンライン環境整備事業支援として1000万円などを受け取っています。



## 気持ちよく笑顔で運動／本学と柴田町の 生活習慣病予防教室／月1回ペース

健康な体づくりの支援を目的に本学と柴田町は月1回ペースで「生活習慣病予防教室」を開催し、食生活の改善や運動の習慣化などを呼び掛けています。

教室は7月に始まりました。本学教員が「生活習慣病予防のコツ」「正しいウォーキングの方法」「栄養、食事の方法」について専門的見地から指導しております。運動面では大腿四頭筋、下腿三頭筋などの下肢の筋力トレーニングを中心に一緒に楽しみながら行っています。



新型コロナウイルス感染症予防対策のため、体を近づけて指導できないところがつらいものの、工夫を凝らしながら、参加者の皆さんのが少しでも気持ちよく、笑顔で運動できるようにサポートしています。

＜スポーツ健康科学研究実践機構 健康づくり支援班＞

## スポーツ情報マスマディア学科生、釜石シーウェイブスでインターンシップ

スポーツ情報マスマディア学科2年生の吉田陵馬さんが、ラグビーの釜石シーウェイブスで映像分析スタッフとしてインターンシップ（8月17～29日）を体験してきました。

分析ソフト「スポーツコード」を用いたプレー分析、勝敗を分けたポイントの考察、そして練習、試合風景の撮影など多岐にわたる内容です。吉田さんは「分析活動も生のラグビーを見るのも初めてでしたが、三浦アドバイザーをはじめ、コーチングスタッフや選手の皆さんに一つ一つ親切丁寧に教えてもらい、とても有意義な時間を過ごせました。また、震災のお話や復興に向けた取り組みなど、釜石でしか体験できないインターンシップになりました」と充実感いっぱいに話してくれました。

スポーツ情報マスマディア学科はさまざまな競技のトップチームでのインターンシップを実施しています。現場でしか味わえない体験を通じ学びの場を提供していく計画です。

※スポーツコードとは

ビデオ映像を最大限に活用して勝利へ導くためのツール。NBAやサッカープレミアリーグのほとんどのチームで活用されている世界標準のゲーム分析ツール。

＜報告：スポーツ情報マスマディア学科＞



スポーツコード分析画面



分析方法の指導を受ける



実習中の様子

## 芝草通信 NO. 17

担当 : 労務職員 八卷 良宏

### 10月の芝生管理 (暖地型芝生と寒地型芝生) について

芝生の生育スピードは急に鈍くなります。

\*自宅などの芝生の参考にもしてください。

#### 1. 噴水まわりの天然芝生の維持管理 (暖地型日本芝生)

- ① 剪り込み : シーズン最後の刈込を、刈り留めといいます。10月中旬に1回刈り込めば、今年はもう刈込む必要はありません。刈り留め後も少し伸びますが葉や茎を長めにしておいたほうが、冬の間の擦り切れなどによる傷みが少なくなります。
- ② 水やり : 与えません。
- ③ 肥料 : 施しません。
- ④ 病害虫の防除 : 直径30cmほどの白いパッチが現れることがあります。疑似葉腐れ病という病気で像の足跡病とも呼ばれています。栄養不足の芝生に発生することが多い病気ですが、茎まで枯れてしまうことはありません。発生初期であれば、ダコニール (TPN剤) が有効です。
- ⑤ 草取り : 冬雑草あるいは春雑草と呼ばれるものは、10~11月に発芽します。スズメノカタビラ、アレチノギク、タンポポ、ミミナグサ、ハコベなどです。こまめに抜き取りましょう。除草剤を用いる場合は土壤処理剤が適しています。除草剤には茎葉処理剤と土壤処理剤と呼ばれるものがあります、土壤処理剤と呼ばれるものは生えた雑草を枯らすものではなく、発芽そのものを抑える作用をもっているものです。芝生の場合、9月下旬~10月上旬に処理すると高い効果を現します。使用にあたっては説明書をよく読んで間違いのないように注意しましょう。

#### 2 A. 第二グランド天然芝生ラグー場・アメリカンフットボール場の維持管理 (寒地型洋芝 + 暖地型洋芝)

8月~9月にかけて晴天 (夏日) が続いたことにより暖地型洋芝バミューダグラスは順調に育ちました。

寒地型洋芝は衰退しほばバミューダグラスが覆いつくしました。成長して、寒地型西洋芝が密集して裸地化した部分にも入り込み裸地がほとんどなくなりました。

- ① 剪り込み : バミューダグラスの成長が旺盛なので、9月同様に刈り込みの翌日または3日目に刈り込みを行います。
- ② 水やり : 寒地型洋芝の生育を観察しながら乾燥に注意を払います。乾燥が続くときは毎日~2日おきに、午前中に散水が必要になります。
- ③ 肥料 : 化成肥料 (N-P-K=10-10-10) を1m<sup>2</sup>当たり30g施します。
- ④ 病害虫の防除 : 発芽後の西洋芝が密集状態で、寒地型西洋芝は秋の長雨の後の高温気象の時にビシウム病が発生しやすいので警戒をします。早朝の観察が必要となります。葉先の朝露のもち方が多い時には、早朝に竿などで露を払ってやると、病害の発生が少なく丈夫な芝になります。

参考文献 : NHK趣味の園芸

#### 2 B. 第二グランド、噴水周り散水要領について紹介!

5月から10月にかけて晴天の日がつづき、乾燥状態が続くと寒地型洋芝、暖地型洋芝及び暖地型日本芝は生育に影響を及ぼします。そこで散水設備が必要になってきますが、仙台大学には、スプリンクラー設備がないため、第2グランドラグビー・アメリカンフットボール場はスミレインのホース (長さ約90mにわたり、左右両側に30度、45度、60度方向に散水できる様に50cm間隔を空けて小さい穴が開いている) を使い散水しています。大学噴水周りも水道からホースを使い先端に小型スプリンクラーを取り付けて散水しています。 (以下写真参照)



写真 1. 第二グラウンド天然芝生  
スミレインによる散水状況



写真 2. 大学噴水周り  
ホース散水状況

(9月25日記)

## 硬式野球部／仙台六大学野球 秋季リーグ開幕／2連勝

9月19日（土）、仙台六大学野球 秋季リーグ戦が仙台市・東北福祉大学野球場で開幕しました。

今季はコロナウイルス感染症の影響から例年より遅れての開催となり、各大学2戦総当たりの勝率制で優勝を争います。

本学硬式野球部は19、20日（日）の両日、東北大と対戦し1回戦13-1、2回戦11-0でいずれも大勝、連勝スタートとしました。



1戦目：初回に先制となる佐野如一  
主将の3点本塁打で「肘タッチ」

◇1回戦 対 東北大 (13-1) ○ 5回コールド

仙台大 5 1 3 3 1 = 1 3

東北大 0 1 0 0 0 = 1

プロ注目右腕の宇田川（体育4年）が7奪三振、1失点で完投。打線は初回に3番佐野（体育4年）、4番川村（体育3年）の2者連続本塁打などを含む13安打13得点で5回コールド勝ちとしました。

◇2回戦 対 東北大 (11-0) ○ 5回コールド

東北大 0 0 0 0 0 = 0

仙台大 5 0 0 0 6 = 1 1

先発した長久保（体育2年）が被安打2、6奪三振とリズムの良い投球で5回零封。打線はリードオフマンの1番稻山（体育3年）が3打数3安打と打線に火を点け、12安打、11得点でコールド勝ちとしました。

応援誠にありがとうございました。

＜報告：硬式野球部＞



宇田川優希投手（体育4年）



長久保滉成投手（体育2年）



稻山裕一外野手（体育3年）



### 「高校スポーツの安全を守る」 Vol. 29

担当：今野 桜 助手

先日、仙台大学附属明成高校女子サッカー部が出場した高校サッカー選手権大会に試合帯同してきました。今年度は高校総体が中止となつたため、女子サッカー部にとっては今年初の大会でした。3年生にとっては今年最初で勝ち残らなければ最後の公式戦。1年生にとっては高校生になり初めての大会という事もあり、いつもとは少し違った緊張感で試合に臨んでいました。私も着任1年目で試合帯同は今回が初めてでした。普段の練習や練習試合とは違った、少しピリッとした雰囲気で私も緊張しながらベンチで試合を見守りました。結果は第3位で、大きな怪我や事故なく無事に大会を終えることができました。最後まで諦めずに多くの困難を乗り越えてきた3年生には、これからも進学先でサッカーを続ける人、競技を引退してサッカーとは別の道に進む人、と進路はバラバラですが一人一人が高校の部活動で学んだ事を活かし、将来それぞれのフィールドで活躍できる人になってほしいと思います。ATとしての反省点は、怪我によって今回の大会に出場できなかつた、又は持っている力を十分に発揮できなかつた選手が多数いたことです。防げる怪我をできるだけ減らし、選手たちが公式戦にベストなコンディションで臨めるように、日頃からコンディショニングの重要性を教育していく必要があります。これからは他の部活動も公式戦の予定があります。3年生にとっては最後になるかもしれない大会や、1、2年生が中心になって初めての大会など、どれも気を抜けない大事な戦いです。選手たちがこれまでの練習の成果を十分に発揮し、より良い結果を残せるように川平ATRでサポートしていきたいと思います。

# Monthly Report

SENDAI UNIV.  
PUBLIC RELATIONS

Vol.174 / 2020.OCT  
(月1回発行)

## 子どもの歓声、2年ぶり学内にこだま／2020東北こども博を開催



各会場で大いに楽みました

10月10日（土）、2年ぶりに東北こども博を開催しました。昨年は台風19号の影響で中止。今年は新型コロナウイルスの影響から縮小して開催しました。

例年約2万人が参加するイベントですが今年は人数を制限し、事前申込制としました。

各施設ではスラックラインやチャンバラ遊び、パルクール体験、ストライダーなど様々な体験コーナーを設け、仙南地域の小学生らを中心に仙台市や富谷市などからも足を運んでいただき、来場者約380名が学生と一緒に遊んでからだを動かしました。

参加した子どもたちから「すごい楽しかった！」「バドミントンとストライダーが楽しかった」「もっと遊びたい」などの声が聞かれました。

2020東北こども博の主催者は「今般のコロナ禍の状況で、申込者がどれだけいるのか心配でしたが、あっという間に定員オーバーとなりました。また、当日は台風の影響から雨で開場20分前になんでも来場者が現れなかつたものの、大学正門前に到着したシャトルバスから来場者が次々と降り立ち、不安もあつという間に払しょくされました。

多くの皆さんにご参加いただき、地域あってのイベントであることを改めて再認識しました。誠にありがとうございました」と笑顔で話してくれました。



介護ロボットと触れ合おう



ベラルーシ共和国紹介コーナー

## く 目 次 く

・子どもの歓声、2年ぶり学内にこだま／2020東北こども博を開催	1
・漕艇部、男子エイト悲願の初優勝／仙台大学、UNIVAS CUP 7位に躍進	2
・新聞活用の冊子を作成／河北新報社と共に編集	
・地域の安全を守る／本学学生が一日警察署長	
・2020年の「Never let a good crisis go to waste」	3
・ヨガって気持ちいい！今年も体験授業実施／健康福祉学科	4
・ノルディックウォーキングを初体験／健康福祉学科	
・ロボットアシストウォーカー贈呈式が行われました	5
・魅力発信／介護ロボット体験セミナーを開催しました	
・連勝発進／男子バレー部活動報告／秋リーグ1週目	6
・開幕4連勝／男子バレー部活動報告／秋リーグ2週目	
・6連勝／男子バレー部活動報告（秋リーグ3週目）	
・芝草通信 NO. 18	7
・令和2年度仙台大学履修証明プログラム「乳幼児運動あそび指導者育成プログラム」	8
・「高校スポーツの安全を守る」Vol. 30	

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

## 漕艇部、男子エイト悲願の初優勝／仙台大学、UNIVAS CUP 7位に躍進



10月25日（日）に開催された第47回ボート全日本大学選手権大会で、準優勝5回と、あと一步で涙を飲んできたエイトで、ついに全日本学生の頂点に立ちました。

優勝チーム・キャプテンの喜びの声、競技写真をご覧いただき、コロナ禍のなか、各位の声援の成果である今回の素晴らしい快挙について、全学挙げて共に祝いましょう。

また男子シングルスカルも優勝(3度目)し、他の種目も2位1種目、3位3種目、5位1種目と、全てメダル獲得もしくは入賞を果たし、2度目の総合優勝を果たしました。女子も入賞3種目と活躍しました。

なお、各競技の模様は、連日、UNIVASでライブ中継され、今回の結果により、各競技の総合ポイントで争うUNIVAS CUP ランキングで仙台大学は7位に躍進しました。

## 新聞活用の冊子を作成／河北新報社と共に編集

本学のスポーツ情報マスマディア学科はこのほど、河北新報社発行の教育活用応援ブックの作成に編集協力し『新聞っておもしろい 改訂2版』（A4判、32ページ）を作りました。

この冊子は、新聞を読むことで「学ぶ力」「考える力」を養っていこうという目的で作られています。「第1章 読み方講座」「第2章 ワークブック」「第3章 新聞づくり」のうち、本学は放送局OBの教員が活字表現だけでなく動画撮影の仕方を分かりやすく絵入りで解説。元新聞記者の教員は「新聞を読んで成長するあなたに」と題しメディア・リテラシーの必要性を説く文章を寄せています。

本学科は今後、この冊子をメディア関係の演習や実習で教材として活用していきます。  
<スポーツ情報マスマディア学科>



## 地域の安全を守る／本学学生が一日警察署長

10月16日（金）本学学生の武者香織さん（体育4年）と千葉隆人さん（スポーツ情報マスマディア4年）が、宮城県警大河原警察署から一日警察署長として委嘱され、同日、フレスコキクチ柴田店で警察職員と一緒に特殊詐欺等被害防止を呼び掛けるチラシ等を配布し、広報啓発活動に力を注ぎました。

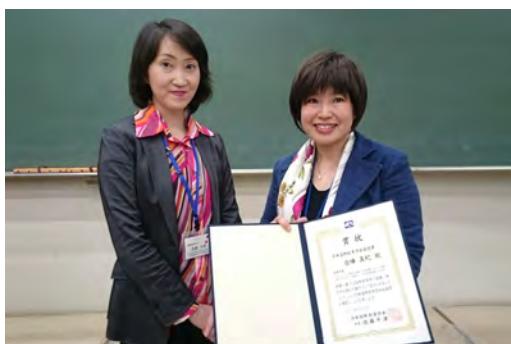
2人は前期に受講した「社会教育演習B」の一環で高齢者の特殊詐欺被害について学んでおり、大河原署と本学が連携し、今回の一日警察署長が実現しました。



武者さんは「この活動が少しでも地域住民の皆さんに注意喚起として広まり、詐欺被害防止に繋がってほしいと思います」と話してくれました。



## 2020年の「Never let a good crisis go to waste」



日本国際教育学会受賞した時の様子（写真右）



息子（5歳）と娘（10歳）と一緒に（写真中央）

仙台大学 教授 白幡 真紀

去年の今頃、世界がこのように変わると誰も想像だにしなかったでしょう。この2020年は誰にとっても忘れられない年になることは疑いがありませんが、4月に着任した我々や新入生、新たな門出を迎えた人々にとって、いや、影響を受けたすべての人々にとって、多大なインパクトを残すことになりました。

ちょうど一年前、私は某大学の講義にゲストとして呼ばれ「キャリアを模索するキャリア教育研究者」という内容の講義を行っていました。学位を取得しながらもなかなかポストが決まりず、またひとり親で二人の子供を育てている私が、キャリア教育や労働への移行支援を研究しつつも自分のキャリアについて毎日逡巡している、という若干自虐的な内容でした。しかし、これは先進国にとって重要な社会問題を孕んんでおり、職場での長時間労働を前提とした労働市場における女性（研究者）の価値、ひとり親家庭の困窮、地方・都市部の分断、常勤・非常勤の格差など、その背景についても自分自身を例にして話をさせていただきました。

その後、大変すばらしいご縁によって仙台大学に着任することができましたが、このキャリア・ギャップの何年間については、その不安や苦労以上のリターンを私にもたらすことになりました。格差や分断に対する問題意識、また当事者としての視点は新たな研究テーマへの推進力ともなりました。ありがたいことに、博士研究員の間にも、数々の助成金の獲得や学会理事への就任、また学会賞や奨励賞など栄誉ある賞を1年で3つ受賞するなどなど、研究を続けていけるだけの十分な後押しもありました。毎日家族と「ありがたいねえ」と言っていた覚えがあります。危機と機会はまさに表裏一体のものであると、自分自身の経験として学ぶ機会になりました。そしてこのことを多くの人に伝えたい、キャリア形成に不安を持つ人々に希望を持ってもらいたい、という気持ちを一層強くしました。

そして、仙台大学での半年間はコロナ禍の試行錯誤からスタートしました。自分自身の仕事を立ち上げながらも、今の教育はどうなっているのか、世界で何が起こっているのか、注視する日々。初めてのオンライン講義に試行錯誤しつつも、こうした新しい試みからの学びは大きく、課題を強く意識すると同時に、高等教育における今後の大きな可能性を感じることができました。

実は、前述の「キャリアを模索するキャリア教育研究者」の講義回は、学生からの評判がよく、今年もまた同じ内容・同じ大学で講義を行うこととなりました。大変ありがたいことですが、今年はこれに「コロナ禍による危機と分断」を付け加えなければなりません。タイトルに挙げた言葉「Never let a good crisis go to waste」は第二次世界大戦後に発したとされるウインストン・チャーチルの言葉です。「せっかくの危機を無駄にするな」と言ったところでしょうか。この混乱の中、世界は「分断」というキーワードで語られる場面が多くなってきました。世界のあり方をも変えようとするこの大きな危機に、よりよい社会へと変革するチャンスとなるのかどうかは私たちのひとりひとりの行動にかかっています。「危機」は「機会」となるのか。「分断」は「多様性」として包摂されるのか。この大きなテーマを仙台大学の皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

仙台大学に来てから話をした学生さんは多くはありませんが、皆さんとても素直で明るい印象です。これから知識や教養を身に着けることで大きく飛躍してくれることでしょう。コロナで失ったものもあるかもしれません、地域のシンボルであるキャンパスは見違えるほどきれいに清潔になりました。この美しいキャンパスを2020年のレガシーとして残していきたいものです。

## ヨガって気持ちいい！今年も体験授業実施／健康福祉学科

10月16日（金）健康福祉学科では、2年生の健康支援・介護予防演習として今年で5回目となる「ヨガ体験授業」を行いました。健康福祉学科卒業生（4期生）の中村孝子 講師（インド中央政府公認ヨガインストラクター）の指導のもと、ゆっくりと体を動かし、キャンパスに静かなゆったりとした時間が流れていきました。何かとストレスも多いこの頃で、体験授業もマスク着用でしたが、とても気持ちよくリフレッシュすることができました。

学生からは、「ヨガをやって血流がよくなりました。これからも続けます」、「日頃、動かせないところを動かせたので、とても軽く感じます」「はじめてのヨガで、部活でも使えるような動きや、リラックスの仕方を学べて良かったです」、「心を落ち着かせ無理なく出来るため、健康支援・介護予防につながることを改めて学ぶことができました」などの声が寄せられました。

＜報告：健康福祉学科＞



## ノルディックウォーキングを初体験／健康福祉学科

10月22日（木）にノルディックウォーキング（以下：NW）体験を健康福祉学科「健康支援・介護予防演習」の一環として行いました。

講師の星勝久さんは健康福祉学科卒業生（1期生、現大学院1年コース）で、国際ノルディックウォーキング連盟のナショナルトレーナーの上級資格を保持しています。

学生は初めての体験で、NWポールの使い方や基本動作を学んで学んだ後、大学周辺の上り坂・下り坂歩行を楽しみながら歩きました。

終了後は「身体が熱くなった」「思ったよりポールの使い方が難しかったが、とても楽しく活動することができた」「登りと下りの坂が大変だったが、みんなと一緒に楽しく歩くことができた」などの感想が聞かれました。

講師の星さんは「NWは全身の約9割の筋肉を動員でき、通常歩行よりもエネルギー消費が多く、より効果が得やすいウォーキング法とされています。また、必ず地面にポールが着いているため、歩行が不安定な高齢者などへの運動法としても全国各地で取り組まれています。まだまだ奥が深いスポーツで身体的効果以外にも、コミュニティの活性化や、スポーツツーリズムの視点からも注目されてきているスポーツなので、これを機会に興味を持つていただけると幸いです」と期待を寄せました。

演習では今後も、健康、福祉（しあわせ）に役立つ、さまざまな健康運動、健康度測定法などを学んでいきます。

＜報告：健康福祉学科＞



星 勝久さん（健康福祉学科1期生、現・大学院1年コース）

## ロボットアシストウォーカー贈呈式が行われました

10月16日（金）本学LC棟にて、介護事業を運営する株式会社リツワ様（本社：栗原市）より、寄付物品の贈呈式が開催されました。

株式会社リツワ様は、株式会社七十七銀行の保証する「77社会貢献私募債（寄付型）」を発行し寄付先を探していたところ、介護福祉教育を行っている弊校を贈呈先として選んでいただいたものです。

贈呈式では、株式会社リツワ 取締役 蜂谷健太郎様より大学の介護福祉研究のためロボットアシストウォーカーの目録が朴澤理事長に贈呈されました。

また当日は本学附属高校の明成高校へ介護ロボットセミナーを実施しており、介護福祉を学ぶ高校生への理解と知識の普及をもたらす一環となりました。

今回の贈呈により、株式会社リツワ様は「私募債発行により効果的な資金調達が可能となり、企業活動を通じて地域貢献と介護事業の普及を支援した」、本校は「介護福祉を学習している貢献と高校生への理解と知識の普及を目的とした教育を推進する一助となり、介護用ロボットの期待と重要性を広報した」、株式会社七十七銀行様は「地域に根差した銀行として、積極的な資金供給に加え、資金調達にかかる顧客の多様化ニーズに対応して地域貢献や地域創生を支援したこととなり、3者Win-Winの達成が実現されたものでした。

＜スポーツ健康科学研究実践機構＞



## 魅力発信／介護ロボット体験セミナーを開催しました



10月16日（金）本学LC棟で、仙台大学附属明成高等学校福祉未来創志科1年生24名を対象に介護ロボット体験セミナーを開催し、介護現場等で導入されている最新のロボットに触れました。

介護支援型ロボットではマッスルスーツを着けて重い荷物を持ち上げる体験や福祉用具のラクラックスを使用したベッド上での移動体験、自立支援型ロボットのロボットアシストウォーカーを使用した歩行体験、コミュニケーション型ロボットではPALROを用いたレクリエーションやOri Himeを通したコミュニケーションの体験をしました。

また、認知症を持つ人の困りごとについてVR体験や実践的なレクリエーションを実施し、本学学生と高校生が触れ合いながら、楽しく学びました。

参加した明成高生からは「いろんな種類のロボットがあることを知りました」「大学生のお兄さんの説明がとても分かりやすかった」と笑顔で話してくれました。

今後も健康福祉学科の介護福祉士領域では介護の魅力や介護に関する最新の情報を広く発信する大学として、取り組んでまいります。

＜報告：健康福祉学科＞

## 連勝発進／男子バレー部活動報告／秋リーグ1週目

第56回東北バレー部大学男女リーグ戦は10月11日（日）に開幕しました。新型コロナウイルス感染拡大の影響で今シーズン、主要大会が相次ぎ中止となるなかでの公式戦です。

本学はダブルヘッダーで青森大学、富士大学と対戦と連勝しました。

スコアは次の通り

仙台大学 3 (25-16、25-10、25-21) 0 青森大学

仙台大学 3 (20-25、25-21、25-12、25-20) 1 富士大学



次節は10月17日（土）、18日（日）に仙台大学第2体育館で、福島大学、東北福祉大学と対戦します。  
 <男子バレー部>

---

## 開幕4連勝／男子バレー部活動報告／秋リーグ2週目

第56回東北バレー部大学男女リーグ戦2週目は10月17日（土）、18日（日）に本学第2体育館で行われました。

本学は10月17日（土）に東北福祉大学、18日（日）は福島大学と対戦し、いずれも勝利を収めて開幕4連勝としました。

スコアは次の通り

仙台大学 3 (25-12、25-18、25-21) 0 東北福祉大学

仙台大学 3 (25-16、25-12、25-16) 0 福島大学



次節は10月24日（土）、25日（日）に福島大学第1体育館で山形大学、東北公益文科大学と対戦します。

<男子バレー部>

---

## 6連勝／男子バレー部活動報告／秋リーグ3週目

第56回東北バレー部大学男女リーグ戦3週目は10月24日（土）、25日（日）に行われました。

本学は10月24日（土）に山形大学、25日（日）は東北公益文科大学と対戦、いずれもストレートで勝利し、開幕6連勝としました。

スコアは以下の通り

仙台大学 3 (27-25、25-20、26-24) 0 山形大学

仙台大学 3 (25-19、25-16、25-16) 0 東北公益文科大学



次節が最終戦となり、11月1日（日）に仙台大学第2体育館で東北学院大学と対戦します。

今回のリーグ戦は無観客試合となります。YouTubeにて試合のライブ配信を行っています。初の試みでもあるため配信中に不都合が生じることもあるかと思いますが、選手の戦っている姿に画面を通して声援を送っていただき誠にありがとうございます。

今後も本学男子バレー部の応援を、よろしくお願ひいたします。

<男子バレー部>

## 11月の芝生管理と噴水周りの糞害について

### 1. 噴水まわりの天然芝の維持管理（暖地型日本芝生）

\*この時期は生育が止まるため刈り込み、水やり、肥料は必要ありません。

#### ①草取り：

スズメノカタビラやオオアレチノギクなどの冬雑草の発生が多くなり、芝の色が落ちるため目立つようになります。この時期は小さく抜きやすいのでこの間にこまめに抜いておきましょう。

#### ②病虫害の防除：

秋に発生した病気の跡が残ることがあり、来春の萌芽を少し遅らせることがあります。殺菌剤などは必要ないでしょう。

### 2. 第二グラウンド天然芝生ラグビー場・アメリカンフットボール場の維持管理（寒地型洋芝+暖地型芝草）

10月に入ると暖地型芝草は徐々に休眠に入っています。そこで、冬から来春に向けて寒地型洋芝への\*ウィンターオーバーシードを行うために10月中旬に寒地型洋芝の種まきを行いました。

#### \* ウィンターオーバーシードとは

冬に枯れてしまう暖地型芝草の上から寒さに強い寒地型芝草を覆うことで1年中芝生を緑にすることです。

①刈り込み：2週間に1回程度行います。

②水やり：普通は必要ありませんが、発芽を促進するため、乾燥している場合は行います。

③肥料：化成肥料 (N-P-K=10-10-10) を1m<sup>2</sup>当たり30g程度施します。

以降は、3月の芽出しまで施肥は行いません。

参考文献：NHK趣味の園芸

### 1. B. 噴水周りの糞害対策

9月末より、大学構内の噴水周りの芝生上に、獣の糞らしきものがほぼ毎日、同じ場所にあります。糞の中を確認したところ柿の種などの種実などが多く、恐らくハクビシンやタヌキのような「ため糞」の習性をもつ動物の仕業だと考えられます。そこで、対策として市販されている獣除けを使用することにしました。この獣除けの効果としては、日本に生育するタヌキなどの天敵であったオオカミの100%尿を利用しておき、その匂いを嫌う動物を寄せ付けなくするものです。今回は「ため糞」のあった場所の周りに数か所に獣除けを配置し、その効果を期待しました。（写真参照）

（注）あえて糞に触ることはないと想いますが、感染症などの危険があるため見かけても素手では決して触らないようにしてください。



写真 1 獣除け小分け容器



写真 2 粪の跡と容器の位置

## 令和2年度仙台大学履修証明プログラム 「乳幼児運動あそび指導者育成プログラム」

10月24日（土）あすと長町ゼビオアリーナにおいて令和2年度仙台大学履修証明プログラム「乳幼児運動あそび指導者育成プログラム」の開講式が行われました。

この講座は大学における社会人や企業等のニーズに応じた、主に社会人を対象とした実践的・専門的なプログラムを提供します。教育課程は、保育者・幼児体育指導者等が乳幼児の運動あそび指導に必要な知識・技術及び技能を高め、保育実践力の向上を目指すものです。期間は6ヶ月間、月1回の集中授業と24時間分のフィールドワークの授業内容で構成されています。今回の参加者は園所属の幼児体育指導者4名（宮城県、兵庫県）、派遣企業の幼児体育指導者1名（兵庫県）、子ども園主任保育者（福井県）、学生1名（宮城県）の7名の参加です。



講座開講の趣旨は、近年、子どもを取り巻く環境は変化しており、子どもの心身の発達にも大いに影響を与えており保育現場においては、子ども一人ひとりの発達段階や発達過程をその内面から理解し、子どもの思いを共感し、受け入れることが出来る保育の力を高め、子ども一人ひとりの健全なこころとからだを育む保育実践力が求められています。

特に、子どものこころとからだを育むことのできる「運動あそび」を経験することの保育的意義は、技術指導に偏った「できるようになる」ためのものではなく、運動あそびを通して、楽しく、わくわくする心が動く経験、また、「気づき」「発見」「創造」といった、子どもの興味・関心に基づいた自発的な心を育み、身体を動かすことが楽しく心地よいと感じ、自ら進んで主体的に体を動かし、運動の楽しさを味わうことにあります。

受講していただいた7名の方と、半年間という短い期間ですが、ともに研鑽し、「すべての子どもが幸せになる」ための実践力向上を図るべく、共に研鑽してまいりたいと思います。

<原田健次教授>

川平キャンパスAT・S&Cレポート

### 「高校スポーツの安全を守る」Vol. 30

担当：助手 小野勇太

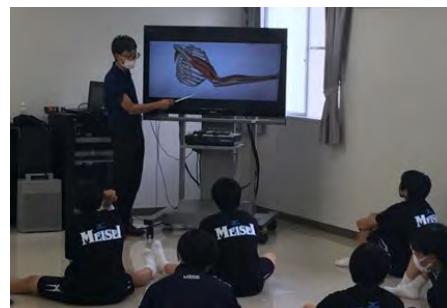
10月も仙台大学川平アスレティックトレーニングルーム（川平ATR）では、仙台大学附属明成高等学校の体育授業を担当させて頂きました。内容はスポーツ創志科1年生全員に「測定と評価（写真①）」、健康スポーツコース2年生女子に「ストレッチング（写真②）」です。1年生の測定と評価は、動画を利用して実技内容を紹介、生徒全員でセルフチェックを行い、その後川平ATRスタッフによるチェックを全体に対して実施。測定項目は①全身関節弛緩性、②柔軟性、③下肢筋力の3点を行い、自らの身体的特徴を客観的に学び、他者との違いを感じながら、自分の身体について関心を深めていました。今回の授業のフィードバックを含めた続編も予定しているので、生徒たちの関心をより深めていきたいと思います。

2年生のストレッチング授業は、動画を利用し、筋肉の仕組みを知った上で、ストレッチングの意義、目的、状況に合わせたストレッチングについて学びを深めました。スポーツは「する」だけではなく、「みる」「知る」という視点が含まれると、更に面白くなります。そして我々AT・S&Cは「支える」専門家です。このように、スポーツを「する」「みる」「知る」「支える」を学べることが、仙台大学附属明成高等学校の魅力であり、川平ATRの生み出す一つの価値と考えています。

建学の精神である、「実学と創意工夫」を日々実践継続し、我々川平ATRスタッフ一同、「高校スポーツの安全を守る」の更なる活動を展開していきます。



①動画を見ながら全員で関節をチェック



②筋肉の動きを見ながら仕組みを学ぶ

# Monthly Report

SENDAI UNIV.  
PUBLIC RELATIONS

Vol.175 / 2020.NOV  
(月1回発行)

## 「仙台大学GAMESPONSOR」仙台89ERSホーム戦を彩る



パフォーマンスを披露する漕艇部とマーチングバンド部

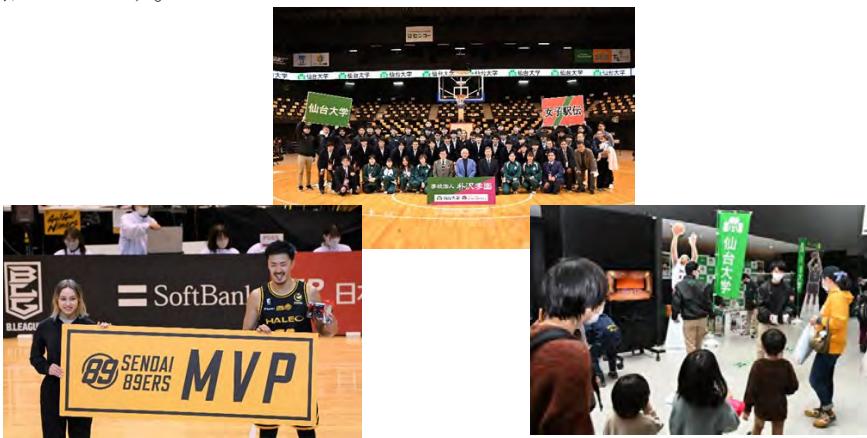
バスケットボール男子のBリーグ2部（B2）仙台89ERSの第8節ホームゲーム（vsファイティングイーグルス名古屋）が仙台市太白区のゼビオアリーナで行われ、仙台大学は「GAMESPONSOR」として協賛しました。

ハーフタイムは本学の見せ場です。今秋、ボート男子の全日本大学選手権で2年連続優勝を遂げた漕艇部と、先ごろ創部したばかりのマーチングバンド部によるパフォーマンスを披露。さらに来年度発足する女子駅伝チームについても紹介しました。

一方、会場内には学校法人朴沢学園のブースを設置。明成高校（現仙台大学附属明成高校）出身、NBAスター八村塁選手の等身大パネルに触ってもらったり、本学マスコットキャラクター「エスユーウォー」キーholderを配布したりしてブースターに喜んでもらいました。

この日の試合は仙台89ERSが勝利しましたが、MVP賞のプレゼンターを、本学が招へいしている白石市・柴田町東京2020オリ・パラホストタウン親善大使のセベツ・アリーナさんが務めました。

仙台89ERSと本学は2018年よりアカデミックパートナーシップ協定を結んでいます。



## く 目 次 く

・「仙台大学GAMESPONSOR」仙台89ERSホーム戦を彩る	1
・大学部活動から学ぶ	2
・14年連続31度目の東北地区大学サッカーリーグ優勝／男子サッカー部 ・体操女子、六大学選手権を開催／本学は2位 ・漕艇部が柴田町長にエイト初優勝と男子総合2連覇を報告	3
・圧巻の全勝優勝、インカレに弾み／男子バレーBリーグ東北秋季リーグ ・日本ハンドボール選手権東北ステージ51年ぶり2度目の優勝／男子ハンドボール部 ・女子バスケ部4年連続18回目のインカレ出場権を獲得／リーグ戦準優勝	4
・仙台89ERSを側面支援 選手の体調管理「見える化」へ：私立大学研究プランディング事業／第2弾 ・硬式野球部2名がオリックス入団へ／指名あいさつ ・高齢者向け運動指導を学ぶ／健康福祉学科	5
・日本生涯スポーツ学会第22回大会 本学よりオンライン配信で開催	6
・芝草通信 NO. 19	7
・漕艇部が宮城県副知事にエイト初優勝と男子総合2連覇を報告 ・東北地方更生保護委員会委員長感謝状授与式 ・「高校スポーツの安全を守る」Vol. 31	8

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室

直通 0224-55-1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

## 大学部活動から学ぶ

仙台大学 講師 田口直樹

私は大学の教育と部活動の現場に携わってきました。部活動の現場としては選手のトレーニングやアスレティックリハビリテーションなどのコンディショニングについて管理し指導する立場でありました。その後活動していく中で様々な疑問が生まれ、大学院にてアスリートのスポーツ医学を中心とした動作解析や身体特性の詳細について研究をしました。これらの課題に取り組み、エビデンスを積み上げていくことにより部活動の現場指導に多くのことを還元することができました。しかしながら、部活動に関わっていくとアスリートとしてコンディションを整えていくためには、部活動以外での生活環境についても目を向ける必要があると感じるようになりました。



### 組織の重要性

そうなると部員一人一人の意識の変革が必要だと考えるに至り組織の重要性について考えるようになりました。その中でもチーム理念 (philosophy) やリーダーシップに注目しました。経営理念の定義（北居・松田2004）は、理念は上位概念として変わるものであり、創設時から伝えられる組織の基軸となるもので抽象的な理想を示しており、方針は下位概念として、企業環境の変化によって柔軟性を有し、変化することができる、とあります。またこれらは内部統合機能と外部統合機能への効果が期待されており経営理念を具現化し、組織成員への浸透が重要になります。このような経営理念の浸透が部活動のチームにも応用できると感じ、部員の行動変容につながると考えました。併せて集団における目標や目的への専心を促し、集団の他のメンバーの態度や先入観に重大な変化をもたらすプロセスを重視する変革型リーダーシップも重要な要素であると感じています。チーム全体でこの2つを意識できる環境が、チームへの変革を起こしパフォーマンスはもとより社会で活躍する人材になっていけるのではないかと考えています。これらを明確なものにするためには真摯にスポーツや体育の様々な問題群に向き合い、自らの考えを鍛えることを使命とする体育原理の探求および研究、また学生教育の現場での経験を深めていく必要があると感じています。まさに体育学部を擁する仙台大学の中にはスポーツや体育におけるさまざまな課題が身近に感じられる環境であります。これらを活かしてさまざまな課題を学生とコミュニケーションをとって多角的に学んでいきたいと思います。建学の精神である「実学と創意工夫」を大学にある身近な教材の宝庫から実践していかなければと考えております。スポーツ科学の英知が集まった仙台大学で学生とともに大きく成長できるよう精進していきたいと思います。



大学でのスポーツ動作解析実験



部活動の現場にて

## 14年連続31度目の東北地区大学サッカーリーグ優勝／男子サッカーチーム

男子サッカーチームが14年連続31度目となる第45回東北地区大学サッカーリーグで優勝を果たしました。

本学は11月15日（日）に宮城県松島町・松島フットボールセンターで行われた最終節、東北学院大戦に勝ち、この結果リーグ戦成績7戦全勝として優勝しました。

結果は以下の通り

仙台大学 6 (4-0, 2-0) 0 東北学院大学

得点者

嵯峨理久（体育4年）3、薄葉迅人（体育4年）2、樋口颯太（体育3年）1



14年連続リーグ優勝を成し遂げた選手たち

今回の優勝で来年1月に開催予定となる全国大会（大会名・場所いずれも未定）の出場権を得ました。

コロナ禍で遠征や対外試合などが制限される中、2ヶ月にわたる試合と共に成長することができました。多くのサポートや応援をいただきありがとうございました。

＜男子サッカーチーム＞

## 体操女子、六大学選手権を開催／本学は2位



運営面では衛生管理に十分留意し進めた



大会終了後は大学の垣根を越えて選手全員で記念撮影

体操女子の第43回六大学選手権大会が11月22日（日）、本学で行われました。加盟する日本体育大学、国士館大学、静岡産業大学と本学が出場（中京大学、武庫川女子大学は欠場）。団体総合は日体大が制し、本学は2位でした。大会開催は次年度へ向けて飛躍を期すのが目的。選手たちは無観客のなかでの演技でしたが、他大学との競い合いということもあります。試合勘を養って大いに刺激を受けたようでした。同日は3大学から選手22人をはじめ指導スタッフら総勢40人が来校。本学は新型コロナウイルスの感染拡大防止を定めたガイドラインに沿って、健康管理カードの提出を求めるなど衛生管理に留意して運営に当たりました。なお男子の六大学選手権大会（日体大、駒澤大、国士館大、静岡産業大、九州共立大、本学）は11月8日（日）、静岡産業大を会場に行われました。

＜体操競技部＞

## 漕艇部が柴田町長にエイト初優勝と男子総合2連覇を報告

11月12日（水）柴田町役場で滝口茂柴田町長に漕艇部が10月に埼玉県戸田市で行われた第47回ボート全日本大学選手権で男子エイト初優勝と男子総合2連覇の報告をしました。

信夫涼主将は「柴田町の素晴らしい環境のもとエイトで勝つという強い気持ちをもって取り組んできました。その結果が優勝につながりました」と報告しました。滝口町長は「みんなの努力と阿部監督の指導の結果が優勝につながったのだと思います。柴田町に明るいニュースを届けてくれてありがとうございます」と選手をたたえました。

また同日、本学を応援する「川交会・柴田町ボート協会」にも優勝を報告しました。毎年、現地に行って応援する児玉裕雄 柴田町ボート協会会長は「今年はコロナの影響で残念ながら現地での応援は叶いませんでしたが、自宅からライブ配信で応援していました。柴田町ボート協会ができて10年が経ちました。念願のエイトの優勝を果たしてくれて本当に嬉しく思います」と話してくれました。



## 圧巻の全勝優勝、インカレに弾み／男子バレー部東北秋季リーグ

第56回東北バレー部大学男子リーグ戦で本学が栄冠を勝ち取り、全日本インカレ（11月30日開幕・東京都内）への出場権を得ました。

リーグ戦最終節の11月1日（日）、本学は仙台大学第2体育館で東北学院大学と対戦しスコア3-0で勝利。この結果、リーグ戦成績を7勝0敗としました。

チーム一同、全日本インカレに向け精進してまいる覚悟です。ご声援よろしくお願いします。



最終節の記録次の通り。

仙台大学 3 (25-17、25-18、25-22) 0 東北学院大学

＜男子バレー部＞



## 日本ハンドボール選手権東北ステージ51年ぶり2度目の優勝／男子ハンドボール部

本学男子ハンドボール部が10月31日（土）、11月1日（日）に岩手県花巻市で行われた、第72回日本ハンドボール選手権大会東北ステージ兼第57回東北総合ハンドボール選手権大会において、51年ぶり2度目の優勝を果たしました。

今大会の結果により、東北地区代表として、令和2年度 第72回日本ハンドボール選手権（男子の部）（12月2日開幕・岡山県岡山市内）への出場権を獲得しました。

注）日本ハンドボール選手権は、国内の高校以上の全てのチームを対象とした、国内最高位の大会です。各都道府県、各ブロックの予選を勝ち抜いた地域代表と、日本ハンドボールリーグ所属の24チームがNo.1を争う大会です。



シュートを放つ藤平（健康福祉2年・羽後高）

試合結果は次の通り

準決勝 仙台大学 25 (10-8、15-11) 19 HC岩手  
決勝 仙台大学 22 (5-12、10-10) 15 秋田大学

＜男子ハンドボール部＞

## 女子バスケ部4年連続18回目のインカレ出場権を獲得／リーグ戦準優勝

本学女子バスケットボール部が4年連続18回目となる全日本大学バスケットボール選手権大会（12月開幕予定・東京都内）の出場権を掴みました。

10月23日～25日（山形県・山辺町民総合体育館）、31日～11月1日（青森県・青森中央学院大学）に第21回東北大学生バスケットボールリーグ兼女子67回東北大学バスケットボール選手権大会が行われ、4勝1敗で準優勝となりました。

試合結果は以下の通り

仙台大学 ○20-0 弘前大学（放棄）  
×84-89 山形大学  
○89-77 福島大学  
○78-70 富士大学  
○72-60 東北学院大学

今後も女子バスケットボール部の応援をよろしくお願いします。

＜女子バスケットボール部＞



## 仙台89ERS を側面支援 選手の体調管理「見える化」へ：私立大学研究プランディング事業／第2弾

本学が男子バスケットボール、Bリーグに所属する仙台89ERSの競技力向上をサポートしている活動の報告第2弾です。

ご覧ください。写真はチームの鎌田選手（背番号18）が「アラート」（体調管理で異常な数値を知らせする機能）についての項目をアスレティック・トレーナーから説明を受けている場面です。シーズン開幕から1ヶ月。選手たちはこのように自分の体調がどのようなレベルにあるかを知り、練習や試合に臨んでいます。

本学はチームに「ONE TAP SPORTS」と呼ばれる、選手の体調管理をクラウド化するソフトを導入。チーム内で情報共有が進み、選手たちもより一層コンディショニングに注意を払うようになりました。

今回の取り組みは「私立大学研究プランディング事業」の一環です。本学はここで得た知見を地域のスポーツ振興に積極的に還元していく計画です。活動の様子はこれからもシリーズで報告していきます。

＜スポーツ情報マスマディア学科＞



## 硬式野球部2名がオリックス入団へ／指名あいさつ

オリックス・バファローズから2020プロ野球育成ドラフトで指名を受けた硬式野球部の宇田川優希投手（育成3位）、佐野如一外野手（育成5位）が11月9日（月）本学で牧田勝吾編成部副部長、佐藤真一スカウトより指名あいさつを受けました。

宇田川投手は「今日の話を聞いて、早く一流のプロ野球選手になって活躍したい気持ちが強くなりました。一番自信のあるストレートで、1年目から支配下に上がれるよう頑張りたいです」、佐野外野手は「夢を掴むチャンスを頂けたので、常に全力プレーを忘れず吉田正尚選手のようなフルスイングでファンを魅了できる選手になりたい」とそれぞれ抱負を話してくれました。



左から宇田川投手、佐野外野手、佐藤スカウト

## 高齢者向け運動指導を学ぶ／健康福祉学科

11月19日（木）に健康運動指導として「一般成人から高齢者まで～虚弱高齢者を含む教室の指導～」を健康福祉学科「健康支援・介護予防演習」の一環として行いました。

講師の渋谷祐子さん（Studioピットバレーレpresent）と坂上香里さん（健康福祉学科卒業生）は本学エアロビックダンス非常勤講師です。

坂上さんは、仙台市シルバーセンター等で高齢者運動教室等の指導をしています。

冒頭に高齢者の運動の特徴や意義について講話を受けた後、高齢者向けのストレッチや姿勢の調整、筋力トレーニングなどを学生が体験しました。特に虚弱高齢者の指導で心掛けることなどを具体的に教えていただきました。

学生からは「高齢者向けの運動でしたが、自分にもとても運動になった」「先生の言葉で、『子どもと違い、高齢者は自分で経験していないので、高齢者の気持ちはわかりづらい』というのが印象的だった」「教員だけでなく、運動指導の仕事もいいなと改めて思った」などの感想が聞かれました。

参加した学生はコロナの影響などによる筋力低下も実感し、運動の大切さと楽しさを再認識しました。健康福祉学科の「身体活動を通じて、全ての人をより健康、しあわせに」の理念にまた一歩近づけた演習でした。

＜健康福祉学科＞



渋谷祐子さん



坂上香里さん

## 日本生涯スポーツ学会第22回大会 本学よりオンライン配信で開催

10月31日（土）・11月1日（日）の二日間、配信元を本学としてオンラインによる学会大会を開催しました。本学では10年前の10月・第12回大会（対面式）を開催しましたので、2回目の開催でした。今回の大会テーマは、「東北より2020復興五輪への歩みと効果を検証する」としました。

当該学会にとって学会大会のオンライン開催は初の試みでしたし、配信させていただいた本学にとっても初の試みでした。そこで、学会とは直接関係しない情報関係に詳しいスポーツ情報マスマディア学科の藤本・溝上先生、スポーツマネジメントコースの井上先生及び大学院生にも実行委員会に入っていただき準備を進めました。また、大会事務局長は馬先生に担当頂き、二日目のワークショップは溝口先生、昼のセミナーは池田先生にお願いするなど、オール仙台大学での運営となりました。一方、他の学会大会を参考に本大会専用のHPも立ち上げ、学会参加者にとって分かりやすい運営を試みました。おかげさまで、心配していた配信上のトラブル等も一切起こらず、参加者150名程度からも高い評価を得て、二日間の学会を無事終えることができました。

本学会大会を再び本学で実施する事が決定した時、折角なので「復興五輪」を理念に掲げた2020東京オリンピック・パラリンピック開催の余韻が残る秋、本学にて対面式で開催し、その検証を試みる企画を立てました。しかしながら、世界的なコロナ禍の影響で開催自体が1年延期となってしまったので、「その歩みを検証する」という内容に変更させていただきました。また、復興を成し遂げてきた宮城県の現状を参加者の皆さんに見ていただく良い機会にもなると思っていたので、コロナ禍によるオンライン開催となった事は大変残念でした。

最後に、大会開催に際して多大な理解と協力を頂いた本学に深く感謝いたします。

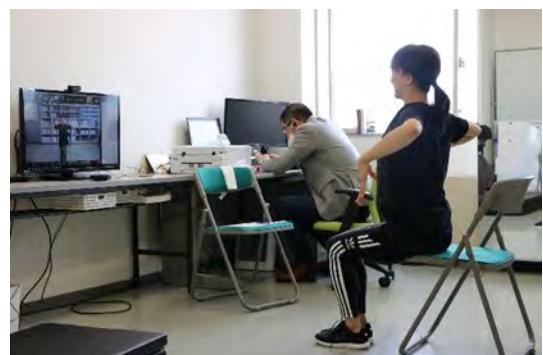
＜日本生涯スポーツ学会副会長・第22回大会実行委員長 仲野隆士＞



A501演習室を大会本部に設定し運営に関わって頂いた本学スタッフ（OB社会人含む）



基調講演・原田宗彦先生（早稲田大学）



エンジョイエクササイズ実施場面・溝口先生



シンポジウム実施場面・仲野（コーディネーター）



運営場面・馬・井上・藤本・溝上先生

## 12月の芝生管理と噴水周りの糞害について

### 1. 噴水まわりの天然芝の維持管理（暖地型日本芝生）

\*高麗芝生は休眠期に入り葉色が枯れ葉色へと変色し始めます。この時期は生育が止まるため刈り込み、水やり、肥料、病害虫の防除は必要ありません。

①草取り : スズメノカタビラやオオアレチノギクなどの冬雑草の発生が多くなり、芝の色が落ちるため目立つようになります。今月除草をしておくと、春の雑草管理が楽になります。冬を越すと根が張ってとても抜き難くなるので、今のうちに抜根しておきましょう。

### 2. 第二グラウンド天然芝生ラグビー場・アメリカンフットボール場の維持管理 (寒地型洋芝+暖地型芝草)

\*今年の夏に旺盛だった暖地型洋芝(バミューダグラス)も休眠に入っていますが、茶色部分が目立つようになってきました。10月中旬に播種した寒地型洋芝(南側はトールフェスク+北側はペレニュアルライグラス)は、芽出し時期の踏圧に対して、バミューダグラスに守られながら生育してきました。そのお蔭もあって利用頻度の少ない西側は緑色が目立ってきました。

①刈り込み : 気温の低下とともに生育が鈍ってきますが、播種が約1か月遅かったために成長過程にある芝草もあり、その成長している部分だけ僅かにカットが必要になっているので月に1回程度行います。

②水やり : 普通は必要ありませんが、木枯らしで乾燥している場合は行います。

③肥料 : ほとんど不要ですが、芝草の損傷が激しい時に僅かに施肥します。

参考文献 : NHK趣味の園芸

#### 1.B. 噴水周りの糞害対策

糞害対策として、10月上旬より、市販の獣除け液剤や粒剤を数種類試用したが、一向に効果が見られませんでした。

「ため糞」の習性をもつ動物の仕業だと考えカメラを設置して様子を見たところ、真夜中のキャンパスを自由に歩き回っている「中型の狸」が撮影出来ました。対象生物が特定されたので、寄せ付けない為の方法を考慮中です。現在はソーラーパネルの電力で稼働する、赤と青色を断続的に発光する機器を2か所に設置し、様子を観察しています。



写真1 高い位置からの撮影、タヌキ？



写真2 低い位置からの撮影、



写真3 発光機器2基設置

## 漕艇部が宮城県副知事にエイト初優勝と男子総合2連覇を報告

10月に埼玉県戸田市で行われた、第47回ボート全日本大学選手権で男子エイト初優勝と男子総合2連覇を果たした漕艇部が11月12日（金）、宮城県庁に佐野好昭副知事を表敬訪問しました。

選手を代表して、信夫涼主将は「このコロナ禍でも、全日本大学選手権で絶対に勝つと決めて、皆で励ましあいながら取り組んできました。決勝は積極的なレースができ、優勝につなげられました」と報告しました。

佐野副知事は「この度はおめでとうございます。今大会では7種目中6種目が3位以内という高い総合力で男子総合2連覇を達成された伺いました。これはたゆまぬ努力とチームワークの良さが発揮されたのだと思います」と選手をたたえました。



## 東北地方更生保護委員会委員長感謝状授与式

11月25日（水）本学LC棟で、東北地方更生保護委員会委員長感謝状授与式が開催され感謝状と記念品をいただきました。授与式では柴田地区保護司会会長の小橋実永様から長年に渡り本学におけるボランティア活動や地域見守りである子どもへの声かけ活動、船岡駅周辺の放置自転車の撤去や清掃活動等が、柴田町の治安改善に寄与されているとお褒めのお言葉を頂戴いたしました。また本学を東北地方更生保護委員会にご推薦いただきました船岡を明るくする会の加茂紀代子会長からも毎年40名以上のボランティアへ参加の学生に対し感謝のお言葉を頂戴いたしました。

来年度以降も地域の皆さまにお認めいただけますようボランティア活動見守り活動に尽力していきましょう。

＜報告：学生支援センター＞



## 「高校スポーツの安全を守る」Vol. 31

担当：浅野勝成助手

私：「昨日良い事あった？」

生徒：「ないです！」

数日後

私：「昨日良い事あった？」

生徒：「えーと、昨日食べた焼肉が美味しかったです！」

数日後

生徒：「浅野さん、昨日良い事あったので聞いてください！」

最近、生徒との間であったコミュニケーションの一つです。トレーニング開始直前、ちょっと元気がないと感じる生徒に対して声掛けの一つとして聞いたのが目的で、その時点では予想通りの「ない」という答えでした。その後、同じ質問を続けてみようと思い、数日後に聞いてみました。そして最終的には生徒から自発的に言ってくれるようになりました。この質問を続けたことで、生徒自身が「良い事」を自発的に探してくるようなり、ポジティブな気持ちでトレーニングに臨んだことがとても興味深かったです。

また、ここ最近のトレーニングでは目標を持って取り組むことをさらに強調しています。ある部活動に属する生徒全員に対し、来年の高校総体県予選までに懸垂を最低1回出来るようにするという課題を課しました。2週間前は、自力で懸垂できた生徒は2名のみでしたが、今週は5名まで増えました。課題を達成した生徒が増えると、トレーニング中の雰囲気は良くなります。ギリギリ達成出来そうな課題を設け、それを達成し、また新たな課題を設ける。このサイクルを繰り返すこと強い身体を獲得するだけでなくチャレンジすることが当たり前という空気感になり、チーム内での良い雰囲気を構築する一助になると思います。

ストレングス＆コンディショニングコーチの役割は対象者の身体能力の向上が主ですが、そこだけではないと思います。生徒が課題に対して果敢に挑戦できるマインドを構築すること、目標達成に向けて改善する計画性および実行力を養うこと。それらはデータには表れないですが、生徒の成長に必要な能力の向上はトレーニングを通じてサポートしていくことも役割の一つと捉えています。

# Monthly Report

SENDAI UNIV.  
PUBLIC RELATIONS  
Vol.176 / 2020.DEC  
(月1回発行)

## 南2連覇、納得の演技で高得点／全日本体操、種目別「床」



優勝報告会後記念写真（左から朴澤理事長、鈴木監督、南、遠藤学長）

体操の全日本選手権（群馬・高崎アリーナ）の男子決勝が12月13日（日）行われ、本学の南一輝（体育3年）が種目別・床運動で15.600（D6.600、E9.000）の高得点をマークして優勝しました。昨年に続く2連覇です。床運動に専念して東京五輪への出場を目指しているだけに、開催年へ向けて大きな弾みとなりそうです。

11日の予選で15.333を出して1位通過した南は、13日の演技でも（G難度の）リ・ジョンソン（後方抱え込み2回宙返り3回ひねり）を見事に決めて高得点を得ました。

なお大会には青木翔汰（体育4年）も出場。個人総合で合計166.431をマークし22位にくい込む健闘を見せました。

（体操競技部）

12月15日（火）本学LC棟で全日本選手権床2連覇を達成した体操競技部 南一輝（体育3年）の優勝報告会が行われました。

コロナ禍で約9か月ぶりの大会となった南は「まずは優勝することができてホッとしています。練習通りの演技をすることができました」と学生や教職員約40名が集まる中、安堵の表情を見せました。

また今後の目標について「東京五輪で金メダルを取る為にこの大学に来て床にしぶりました。まずは来年の国内選考会で東京五輪の出場権を獲得し、東京五輪で金メダルを取って多くの人を笑顔にできるように、これから調整していきたいです」と前を向きました。

同日、柴田町役場へ訪問し、滝口茂柴田町長にも優勝を報告しました。

## ＜目次＞

・南2連覇、納得の演技で高得点／全日本体操、種目別「床」	1
・今こそ野外教育の価値を	2
・教職員研修会開催 ・中国瀋陽師範大学「漢語橋」オンライン留学への参加	3
・遠藤が大会新記録を樹立／ウエイトリフティング部 ・遠藤、全日本女子選手権大会で準V／ウエイトリフティング部 ・今シーズン初大会、東北地区3位／軟式野球部	4
・2020年度の介護実習が終了しました ・「宮城県、仙台市、宮城県内9大学等、七十七銀行、仙台銀行及び仙台商工会議所の連携・協力に関する協定」を締結しました	5
・Jリーガー10年連続誕生！井岡海都、ベガルタ仙台入り ・感謝の「心」で笑顔の演技、新体操発表会	6
・芝草通信 NO. 20	7
・第7回学術講演会を開催 ・「高校スポーツの安全を守る」Vol. 32	8

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室

直通 0224-55-1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

# 今こそ野外教育の価値を

体育学部体育学科マネジメントコース 講師 井上 望

私は筑波大学の修士課程を修了した後、今まで13年間、野外教育を専門として大学教育に携わってきました。様々な大学を渡り歩いて、本年度仙台大学へ着任させていただきました。本稿は私の過去・現在・未来に触れながら、野外教育の価値について考えたいと思います。

さて、皆さんもご存知の通り、新型コロナウィルス感染症が世界中で流行しています。日本では感染予防として「3密」を避けて、ソーシャルディスタンス（フィジカルディスタンス）を保ちつつ、「新しい生活様式」へという考えが主流となりつつあります。そのような状況の中、私が専門とする野外教育（野外活動）の分野では決して小さくない打撃を受けています。民間の野外教育・活動施設ではキャンセルが相次ぎ、経営難になり、社会教育施設（自然の家等）は地域限定の募集による主催事業の縮小や受け入れ自体を取りやめる事を余儀なくされています。大学でも、野外教育に関わる実習系の授業は全国的に見てもほぼ取り止めの状態です。



このように現在の社会情勢と照らし合わせて見ると野外教育は大変厳しい状況にあると考えている方も多いとは思いますが、実は好転している状況もあります。それは野外での活動に対する価値やイメージです。民間では、都市部から離れた場所でセラピューティックな意味を込めてキャンプをする人で溢れかえっており、また社会教育施設では日帰りでも宿泊数を少なくしても野外活動をしたいと申し出る団体や学校が後を絶たない状況です。さらに、私が代表を務める仙台大学野外運動研究室が主催しているキャンプ事業でも保護者から「キャンプを今年もやってもらえますよね」、「子供がコロナで遊べなくて本当に楽しみにしています」という声が多く聞かれました。以上からわかるようにコロナ禍によって野外活動の価値やイメージを多くの人が再考し、この社会状況でも「できる活動」として野外活動を認識し始めていると考えられます。

つまり、野外教育・活動へのニーズは通常よりも高まりつつある状況であるため、今までの多くの野外教育・活動が必要となってきます。野外教育はリスクをrejectするのではなく、takeして、managementするという考え方方が主流であるため、感染症についても人が集合する以上、リスクは高くなるが、どうmanagementしていくのかが重要であり、それをしっかりと指導できる人材育成が急務であると考えています。そういう観点から私のゼミでは今年5月から現在に至るまで、現在のニーズにあった野外教育者を育てるために様々な活動を行ってきました。具体的には野外教育の理論や技術を学ぶ週1回の「勉強会」、指導現場の経験と保護者のニーズに合わせた「デイキャンプ」、部活動を対象とした「アウトドアグループワークトレーニング」、より本格的な野外教育の実践を学ぶための「縦走登山」などであり、どれも感染症のリスクを背負いながら、それでもやる価値を見出して行いました。このような活動を通して、学生たちが成長している姿や保護者の満足そうな様子を見た時はやってよかったなと心から思いました。



本年度のデイキャンプの様子



勉強会：野外救急法の様子



蔵王縦走登山中の講習会の様子

最後に、現在はいつ終息を迎えるのか、いつ予防接種によって安心できる世の中が来るのかは、目処が立っていない状況であり、世の中にウィルスや細菌がある以上、コロナウィルスを抑えたとしても同じような状況になる事も考えられます。その中で野外教育者のみならず、全員が「リスクと共に生きる」という考え方を持ち、様々なリスクをマネジメントしながら生活、活動するようになって欲しいと思います。

## 教職員研修会開催

12月1日（火）、仙台大学学生相談室・修学サポート委員会の共催で教職員研修会を開催しました。今回はコロナ禍の中、感染症拡大防止のために初めてオンライン形式をとりました。開催形式は例年と異なりましたが、参加者は例年の2倍ほど、約60名となりました。

今年の研修会には、東京大学相談支援研究開発センター学生相談所 所長の高野明准教授を講師に招き、「コロナ禍での学生の悩みと相談支援について」と題し、未曾有のコロナ禍での学生の不安・悩みや、東京大学での学生相談の実際、学生相談の際の留意点等についてご講演いただきました。このコロナ禍の状況で、学生の不安や悩みを学年別、時系列

（今春～今秋にかけての変化）で分析し、大学や社会がコロナへの対応を変化させていく中で、学生の心の内も複雑に変化していく実態も明らかにしていただきました。今後もキャンパスの再開とともに学生の悩みもまた変化していくであろうし、コロナ感染拡大の長期化とともにウィズコロナ、アフターコロナに対応した学生支援が必要なのだと先生は説いており、東京大学での学生相談実務の前線に立っている先生ならではの深い知見をご教授いただきました。今回の内容を今後の本学の学生支援対応に活かしながら、コロナに負けることなくいきいきとした学生生活を送ってもらえるよう、知恵を出すことが我々教職員に課された課題であると改めて感じました。

今回のテーマは非常に今の感染状況に合ったものであり、本学教職員にとって興味関心の高かったこともあり、質疑では担任として学生との関わり、相談室への連携方法、心理的な葛藤への対応、教職員のメンタルサポート、相談しやすい場づくりなど多岐な質問がありましたが、高野先生からは、教職員が対応方法について早期に学生相談室と相談すること、学生の心理変化を見守っていくこと、教職員は体調に留意しハッピーに過ごすこと、学習以外でのオンラインを活用した場づくりなど、気さくにご回答頂きました。遠隔での研修会でしたが、非常にライブ感のあるものとなり、最後は予定時刻を少し超過しながら後ろ髪をひかれる思いで閉会しました。

＜報告：学生相談室・修学サポート委員会＞



オンライン研修会の画面より

## 中国瀋陽師範大学「漢語橋」オンライン留学への参加

瀋陽師範大学によるオンライン留学体験「漢語橋」に本学よりベラルーシ親善大使として招へいしているセベツ・アリーナさんを含めた17名が参加しました。

オンライン留学プログラムは12月1日～12月15日に行われ、中国語、中国武術、京劇、茶道、伝統切り絵およびオンライン観光など、多彩なプログラムが組まれており、アメリカ、ロシア、インドネシアなど12ヶ国から318名が参加しました。

プログラムに参加した鶴田宇宙さん（体育3年）は「中国語の勉強だけでなく、文化についても学ぶことができました。特に中国武術と書道に感銘を受けました。もっと中国語を勉強して、本場の小籠包や餃子を食べたり、中国の広大な自然や歴史的建造物を見にいきたいです」と感想を話してくれました。

本学と協定校の瀋陽師範大学は、毎年本学から多数の学生が現地で短期留学を実施していますが、今年はコロナ禍の影響で中国を含めた海外留学の中止が余儀なくされ、多くの学生が海外の異文化に触れる機会が少なくなりました。

今回のようなオンラインによる留学体験は、異国での生活体験が実際にはできないものの、海外の文化を知る、言語学習のモチベーションアップ、また渡航費が抑えられるなど多くのメリットがあります。今後は留学を希望する学生のニーズに応じた新しい形「オンライン留学」と「リアル留学」との組み合わせが、今後の国際交流・学生教育を推進するうえで必要な取組だと感じました。



中国民族楽器鑑賞



中国茶道



中国語レッスン



鶴田宇宙さん（体育3年）

＜報告：馬佳濛准教授＞

## 遠藤が大会新記録を樹立／ウエイトリフティング部

ウエイトリフティング部の遠藤朱李（体育3年）が12月5・6日に福岡県北九州市・浅生スポーツセンターで行われた令和2年度第66回全日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会（女子）のスナッチ競技で大会新記録を樹立しました。

今年度最後となった今大会は5名が出場し、新型コロナウイルスの影響で練習時間の確保が難しい中、選手たちは精一杯戦いました。



試合結果は以下の通り

○59kg級

佐藤愛香（体育2年） スナッチ6位 クリーン＆ジャーク 8位 トータル 8位

瀬戸櫻子（体育1年） スナッチ13位 クリーン＆ジャーク 14位 トータル13位

○64kg級

高橋凜（体育2年） スナッチ5位 クリーン＆ジャーク5位 トータル5位

○ 81kg級

福塚真羽（体育4年） スナッチ6位

○87kg級

遠藤朱李（体育3年） スナッチ優勝（大会新記録） クリーン＆ジャーク2位 トータル2位

団体 8位

＜報告：ウエイトリフティング部＞

## 遠藤、全日本女子選手権大会で準V／ウエイトリフティング部

ウエイトリフティング部の遠藤朱李（体育2年）が12月11日～13日に新潟県ニューグリンピア津南で開催された第34回全日本女子ウエイトリフティング選手権大会で準優勝しました。

今大会は、各階級ごとに指定された基準記録を超える選手が出場する、日本のウエイトリフティング界において最も名誉ある大会です。

オリンピックの代表選考を兼ねた今大会、緊迫した状況の中でも実力を発揮しました。

結果は次の通り

87kg級 遠藤朱李（体育2年）

スナッチ準優勝 クリーン＆ジャーク準優勝 トータル準優勝

＜報告：ウエイトリフティング部＞



表彰台に上がった遠藤（写真左）

## 今シーズン初大会、東北地区3位／軟式野球部

軟式野球部は10月下旬に開催された「ゼット杯大学軟式野球大会東北王座決定戦」（岩手県北上市・岩崎野球場）に臨み、惜しくも優勝を逃して「同率3位」でした。

この大会は本学の学生たちが中心となって開催。軟式野球部の選手たちもその労に花を添えようと奮闘しましたが、予選大会「準優勝」の勢いを決勝トーナメントにうまく持ち込めませんでした。来季に向けて精進したいと思います。

＜報告：軟式野球部＞



## 2020年度の介護実習が終了しました



介護実習Ⅲ終了時の集合写真



22日目 施設長からの講義

今年度、健康福祉学科介護福祉士養成課程では、12月4日にすべての実習が滞りなく終了しました。

本来は、5月に3年生対象の介護実習Ⅱ（23日間）、8～9月に2年生対象の介護実習Ⅰ（12日間）、9月に3年生対象の介護実習Ⅲを予定しておりましたが、コロナウイルスの感染防止の観点から日程を繰り下げるほか、学内実習にすべて変更しました。

学内実習での学びは果たして得られるのか、学生も教員も不安が大きかったところですが、学生全員に貸与されているiPad（iPad with Wi-Fi + Cellularモデル通信費込み）を用いた施設の理解や介護過程の展開について、実習施設指導者との綿密な打ち合わせにより実現できました。また、学内でもグループワークや応用的な生活支援技術など様々なプログラムを学生に提供することができました。

11月9日から23日間にわたり実施した介護実習Ⅲでは、「あつという間だった」「終末期の介護支援について理解が深まった」「夜勤実習では多くの学びが得られた」など学生から深い学びが得られたとの意見が多く挙げられました。

コロナ禍の状況で、感染症対策をとりつつ決死の覚悟で学内実習を実施する判断を致しましたが、実習にご協力いただきました実習施設の皆様に支えて頂き、無事に実習を終了することができました。この場をお借りして深く感謝申し上げます。

今回の学内実習（遠隔実習含む）において得られた学生の体験と学びは貴重なものです。本学は社会のニーズに応えることのできる介護福祉士を養成してまいります。

＜報告：健康福祉学科＞

## 「宮城県、仙台市、宮城県内9大学等、七十七銀行、仙台銀行及び仙台商工会議所の連携・協力に関する協定」を締結しました

12月21日（月）仙台国際ホテルで本学を含む14の事業協働機関による産官学連携協定を締結しました。

本協定締結で今後、事業協働機関が手を取り合い、話し合い、創意工夫しながら地域社会が発展する取り組みを積み重ねる予定です。

この協定締結にあたり遠藤信哉宮城県副知事は「本協定では、これまで取り組んでまいりましたCOC+事業に引き続き、新卒者の県内就職率向上や雇用創出に取り組むこととしており、富県躍進を支える人づくりの推進に向けて県としても大いに期待し、皆様と連携・協力を一層図ってまいりたいと考えております」と語られ、郡和子仙台市長は「仙台市では、これまで5年間に134人の学生記者さんに地元企業160社の取材していただくWISE事業に取り組んできた他、地元就職を考えるフォーラムの開催など、地元企業の魅力発信と学生と企業が交流する機会の創出を行ってきました。今回の協定締結を契機に若者がこの地に定着する、あるいはこの地を選ぶ環境整備により一層努めてまいりたいと考えております」と、産官学連携による人材育成、地方創生の可能性へ期待のお言葉をいただきました。



コロナ禍での締結式でしたが、関係機関より対面方式の開催について多数の賛成意見を受け、代表者が一堂に会しての協定締結式を開催することとなりました。

### 協定締結式出席者：

宮城県、仙台市、仙台商工会議所、仙台大学、東北学院大学、尚絅学院大学、聖和学園短期大学、仙台白百合女子大学、東北生活文化大学・同短期大学部、宮城学院女子大学、仙台高等専門学校、株式会社七十七銀行、株式会社仙台銀行

＜報告：スポーツ健康科学研究実践機構＞

## Jリーガー10年連続誕生！井岡海都、ベガルタ仙台入り

本学サッカー部GK井岡海都がベガルタ仙台に入団が内定しました。  
これで本学サッカー部は**10年連続**でJリーガー誕生となります。

井岡海都 (KAITO IOKA/GK)

○生年月日：1998年4月27日 (22歳)

○身長／体重：186cm/79kg

○出身地：千葉県

○チーム歴

2007-2010 HAMANO JFC (千葉市立生浜西小学校)

2011-2013 千葉SC U-15 (千葉市立生浜中学校)

2014-2016 船橋市立船橋高等学校

2017-2020 仙台大学



○選抜歴

2018 東北選抜 (デンソーカップ)

2020 東北選抜 (デンソーカップ)

○特徴

1対1の局面で迫力を出しゴールを守る。相手の隙を狙い前線へのフィードで攻撃のチャンスをつくる。

○井岡海都のコメント

来季からベガルタ仙台に加入することになりました、井岡海都です。

幼い頃から夢であったプロサッカー選手のキャリアを、この歴史ある素晴らしいクラブでスタートできる事を大変嬉しく思います。

これまで自分に関わる全ての方々への感謝の気持ちを忘れずに、少しでも早くチームに貢献し、多くのファン・サポーターから愛される選手になれるように頑張ります。

ベガルタ仙台のファン・サポーターの皆様、よろしくお願いします。

## 感謝の「心」で笑顔の演技、新体操発表会

第25回仙台大学新体操演技発表会は12月20日（日）、白石市のホワイトキューブで行われました。

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で各部活動は発表の場が限られているなかでの開催です。

観客を関係者と事前申請者に限定しながらも、賛助出演していただいた他団体の選手たちを含めて精いっぱい笑顔の演技ができました。

発表会には本学をはじめ青森山田高校、宮城県内の新体操クラブの子どもたちなど51人が参加し、いずれも優雅な演技で会場を沸かせました。

今年は新型コロナの流行で発表会開催すら危ぶまれましたが、新体操競技部と男子新体操競技部の面々は何とか練習できている現状に感謝する意味から、この発表会のテーマを「心」としました。

心込めた演技で感謝の気持ちを届けることができたのではないかと思っております。

本学以外で発表会に出演いただいた方々（順不同）

キューブ新体操クラブOBの皆さん

キューブ新体操クラブの皆さん

華舞翔新体操俱楽部の皆さん

青森山田高校新体操部の皆さん

仙台ジュニア体育研究所の皆さん

ADORE RG仙台の皆さん

カワイ新体操クラブの皆さん

Tweedie RGの皆さん

＜新体操競技部＞



## 芝草通信 NO. 20

担当：体育施設管理コンサルタント 小島文雄

## 1月の芝生管理について

噴水周りの高麗芝生（暖地型日本芝生）と第二グラウンドバミューダグラス（暖地型洋芝）は葉が枯れ葉色となり生育が止まっています。第二グラウンドの寒地型洋芝（南側はトルフェスク+北側はペレニュアルライグラス）は、気温の低下とともに生育が鈍ってきます。

1月から12月までの月間維持管理については、Monthly Report Vol. 164/2019. DEC から毎月掲載したのでバックナンバーを参照してください。

## 1. 噴水周りの除草剤散布について

12月中旬に実施した雑草管理について「雑草と除草剤の定義」を解説します。

「雑草の定義」：人間の活動圏において、さまざまな人為的攪乱に適応して生活する植物群の中で、人間の活動に負の影響を与える植物群

「除草剤の定義」：化学的防除のツールであり、植物の生育を調節・抑制あるいは枯殺するか、正常な成育過程を攪乱する働きをする化学物質群

雑草管理とは：雑草の予防と防除を総合的に行いながら、長期にわたって雑草によって生じる問題を排除する事です。

すぐに除草剤散布というような直接的な手段のみを想定せずに、雑草の発生や生育を低レベルに抑える様々な手段を総合的に活用することによって最高の結果が得られます。

参考文献：芝草管理技術者研修テキスト第13回3級（発行：日本芝草研究開発機構）

春先に沢山繁茂したスズメノカタビラは夏の高温で衰退しましたが、多くの種子が既に土壤に落ちています。土壤中で発芽中の雑草種子を枯殺する土壤処理剤（ウエイアップ）と、広葉雑草や寒地型芝生の茎葉からの吸収によって生育中の雑草を枯殺する茎葉処理剤（シバゲン）の2種類の除草剤を混合して散布しました。1回の処理だけではなかなか駆除できないと思いますが、春先に状況が改善されていることを期待しています。



写真1 噴水周りBブロック（三体前）に繁茂したスズメノカタビラ。暑さで枯死したがその前に大量の種子が土壤中に落下したとみられる。

（12月22日記）

## 第7回学術講演会を開催

12月16日（水）16:00から「第7回学術講演会」をオンラインで開催しました。

今年度は日本の保育の質向上に多大な貢献をされている子ども運動教育学科 大宮勇雄先生を講師にお迎えして「複雑で予測できない学びをどのようにして捉え育てるか—人間的で個性的な育ちを守るために—」をテーマに講演いただきました。

初のオンライン開催となった今回の講演会には、本学教職員や学生のみならず、県内のほか関東や九州など全国の保育関係の先生方や保育園の園長先生、自治体の教育委員会など多くの方々に視聴いただきました。

子どもの視線にたち、会話などのやり取りする中で「子どもが何を学んでいるか」を想像し、変革するチカラの育ちを意味付け、次の見通しを語り合う「ナラティブ・アセスメント」について事例を通しながらご説明いただきました。子どもの人間的な学びとは何か？を考えさせられる講演会となりました。

＜報告：学術会事務室＞

川平キャンパスAT・S&Cレポート

## 「高校スポーツの安全を守る」Vol. 32

担当：今野 桜 助手

2020年も残すところあと数日となりました。今年は新型コロナウイルスの影響で例年とは全く違った生活様式の中で、感染症対策をしながら生徒たちが安全に部活動ができるようサポートしてきました。

12月上旬に仙台大学附属明成高校（以下、仙台大明成）主催の救急法の講習会が行われました。仙台市荒巻消防署の方を講師としてお招きし、川平ATRからもATの2人が補助として参加させていただきました。今回は感染症対策もあり仙台大明成教職員の限られた人数での講習会となりましたが、参加者は事前にオンラインでの講習を受け、講習会では実技を中心に行いました。参加者の中には胸骨圧迫やAEDを使うのは初めてという方もいて、講習会後には「救急法講習会を通して教職員だけでなく生徒も含めて全員に必要な知識だと感じた。」という感想も頂きました。私達川平ATRでは「学校スポーツの安全を守る」をスローガンに掲げて活動していますが、救急法はスポーツをしている・していないに関わらず、生徒や教職員の方々全員が安全・安心に生活するためにとても大切なことです。今後こういった命を守るために正しい知識が学校に関わる人全員の共通理解となり、学校全体が一つでも多くの命を救える環境にしていきたいと思います。

2021年も今年のように油断できない日々が続くことが予想されますが、コロナ禍でも生徒一人一人が安心してスポーツを楽しめる環境づくりに励んで参ります。



# Monthly Report

SENDAI UNIV.  
PUBLIC RELATIONS  
Vol.177 / 2021.JAN  
(月1回発行)

## 2人が大学日本代表入り／軟式野球部



日本代表に選ばれた持館

軟式野球の大学日本代表に本学から持館理登（もったてりと、体育3年）が選ばされました。さらに森夏美（運動栄養3年）も主務として代表入り。2人は「日本代表チームに少しでも貢献したい」と誓っています。

持館は福島県相馬高校出身の外野手。174cm、72kgの右投げ左打ちでシャープな打撃が持ち味です。東北地区大学選抜チームにも選出された実績があります。「全国各地から選ばれた選手たちとプレーできる。学べるものは多いし成長したい」と意気込んでいます。

全日本大学軟式野球連盟が選んだ代表選手は総勢23人。東北地区からは持館のほかに2大学から合わせて3人が入りました。森は軟式野球部の主務としてチームを下支えしています。本年度、コロナ禍のなかで地区の独自大会開催へ向けて尽力した功績が高く評価されました。森は「とても光栄。貴重な経験であり、いろいろなことを吸収してきたい」と話しています。

日本代表チームは2月20、21の両日、静岡県伊東市内で行われる全日本大学親善試合に出場し、社会人チームと対戦する予定です。

＜報告：軟式野球部＞

主務として日本代表入りした森



## く 目 次 く

・学生2人が大学日本代表入り／軟式野球部	1
・不思議なご縁～十五年前は仙台大学に来た交換留学生でした	2
・宮城県知事に全日本体操、種目別「床」2連覇を報告／南一輝	3
・トライ！20番台オンラインミーティング！を開催	
・V1チームにアナリストとして同行／スポーツ3年倉茂さん（男子バレーボール部）	4
・「日本水泳・水中運動学会2020年次大会」において渡邊泰典講師らの研究チームが研究奨励賞を受賞	
・「佐藤実季看護師がJICAの映像教材作成に協力」～途上国の母子保健改善へ尽力～	5
・ATCとしての一歩とコロナ禍について	6
・2019年度第14回『仙台大学体育施設管理士』認定証授与式を開催	7
・芝草通信 NO. 21	8
・「高校スポーツの安全を守る」Vol. 33	9

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室

直通 0224-55-1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

# 不思議なご縁～ 十五年前は仙台大学に来た交換留学生でした

仙台大学 講師 賴羿廷

昨年の4月から仙台大学に講師として着任しました賴羿廷（ライ イティ）です。着任後お話をした学生さんや教職員の方々はまだ多くはありませんので、このコラムを通して自己紹介とご挨拶をいたします。

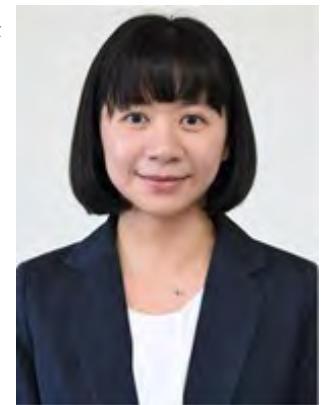
現在は大学院に所属し、院生指導のほかは、体育学における共通基礎科目の概念や身体活動全般のカリキュラム、そして教職課程認定に関連するカリキュラムなどについて研究しています。

本学への着任については不思議なご縁を感じているのですが、私は、15年前、6週間の短期交換留学生として仙台大学に学んでいます。在学中は、斎藤浩二先生の剣道の授業に参加していましたがとても印象に残っていますし、斎藤先生のお宅にホームステイした思い出は今も鮮明です。また、佐藤幹男先生（当時）が私の研究テーマに合った東北大学の研究室を紹介してくださり、東北大学大学院教育学研究科に進学する機会を得ることができました。同大学院では、博士学位論文「日本における教職員人事評価制度に関する研究」をまとめ、その後、東北大学高度教養教育・学生支援機構の助教として3年間の経験を積んで本学に着任しました。

あの時は、ほんの6週間の仙台大学留学でしたが、私の人生が大転換をする契機となりました。あれから15年の月日、一生懸命頑張ってあつという間に過ぎました。今は、日本の仙台大学で教鞭をとるようになり、その深いご縁をしみじみと感じています。これはすべて2006年の夏、仙台大学で良い先生たちに巡り会えたおかげだと信じています。

私の人生のターニングポイントを作ってくださった仙台大学！私は本学で働くようになったことを心より嬉しく思っています。微力ながら恩返しとして仙台大学の学生さんに対して、進路指導や留学案内など積極的に人生の道が拓けるような助言をさしあげたいと思います。どうぞ皆様、引き続きご指導とご協力のほどよろしくお願ひいたします。

（補足として以下の資料で簡単な経歴を紹介させていただきます） R2年度新任教員発表会資料より



**台湾での経歴 (1984-2006)**

- 台北生まれ、新竹エリア育ち。実家は桃園
- 母の影響で小学校の頃から教員を目指した  
父の影響で大学卒業後日本へ留学しました
- 2002 台東師範学校 初等教育学部入学  
(現・台東大学教育学部)
- 2006 当時台湾の教員養成制度では、師範学校の卒業生は学校現場で1年間の実習期間を経て教員になる仕組みでした。  
給料つきで5年生の担任を担当させていただきましたが、自身教員としての能力の足りなさを痛感していた一年間でした。



**日本へ留学のきっかけ (2006)**

- 台東大学交換留学生として仙台大学に短期留学（6週間）
- 当時、主に接してくださった先生方  
佐藤幹男先生  
(ホームステイ。うまい勉強に連れていいただき、人生初のすし握り体験でした)  
佐伯洋昌先生  
(セッティング・靴光、十割そばといき当時の私にとって大人の味(大人しかわらない美味しいさ)を味わわせていただきました。)
- 斎藤浩二先生  
(ホームステイ。先生の奥さまとお母さまは私たちに浴衣の着付けしてくれて、ご家族と一緒に「横浜湯」に行きました。一台湾では水着で温泉に入るのが常識ですが、そのような常識を破れた温泉体験でした！)



**仙台での留学生活 (2008-2017)**

- 仙台大学の佐藤幹男先生（当時）は私自身の興味関心に合った研究室を紹介してくださったおかげで、東北大学教育学研究科・水原亮敏先生の研究室に転勤させていただきました。
- 研究テーマ：日本の教員評価制度について  
台湾では教員の自主性と専門性が主張され、人事管理としての教員評価制度の実施が反対された。そのため、日本の教員評価制度の実態と課題について興味関心を持ち、研究しようと決めました。
- 2011年に博士課程に進学してさらに日本語、研究の壁とぶつかり、気分転換（当現実逃避）としてジム、料理教室に行くようになりました。それで運動の習慣を“自然に”身に付けさせられ。ヨガ・水泳・ゴルフ・料理・手ごねパン・和菓子(洋菓子作り)といった研究外の第二のスキルができてしましました(笑)。

**前職での経歴について (2017-2020.03)**

- 東北大学 高度教養教育・学習支援機構（高等教育開発部門 助教）  
担当授業①「現代社会における教育問題を考える」「基礎ゼミ」  
担当授業②「社会に対する学校教育の意義と役割を考察する」（基幹  
科目・社会論）
- 東北大学 学習支援センター（センター員）  
学生同士（先輩学生と後輩学生）の学び合いの力を活かして、主に学部1・2年生（全学教育段階）の学びをサポートする組織です。  
センターの専属教員として、先輩学生を指導者としての育成（分かる=教える=教られる、一方的に教えるのではなく考え方を教えること）と初年次学生に授業外の学びの機会を企画し提供することは主な業務でした。また、留学生向けの日本語学習の支援も！
- 毎日物理、数学、化学の先輩学生さん達（学部3年次からドクター2年次まで毎年約6名前後）と関わっており、文系出身の私には刺激的でいい日々でした。



## 宮城県知事に全日本体操、種目別「床」2連覇を報告／南一輝

12月10日～13日（日）群馬・高崎アリーナで行われた体操の全日本選手権で種目別・床運動で、2連覇を果たした体操競技部の南一輝（体育3年）が1月26日（火）、宮城県庁で村井嘉浩県知事に喜びの報告をしました。

東京五輪への出場を目指す南は「今は、コロナ禍で大変な状況となっていますが、自分がやるべきことは決まっているので、その目標（東京五輪）に向かって頑張ります」と更なる飛躍を誓いました。

村井県知事は「東京五輪は必ず開催すると思いますので、体調を万全にして、まずは国内選考会で勝って、オリンピックに出席してほしいと思います」と南を激励し、今後の活躍にエールを送りました。



写真左から高橋仁副学長、朴澤泰治理事長、村井嘉浩県知事、南一輝、鈴木良太監督、遠藤保雄学長

## トライ！20番台オンラインミーティング！を開催

1月22日（金）に学生支援センター主催（キャンパスライフサポートグループ）による、本学一年生を対象のコロナ禍での学生同士の仲間作りのきっかけを作ることや、オンライン上での発言に慣れる場を作ることを目的としてとしたオンラインミーティングを開催しました。

事前にGoogleフォームによるアンケート調査を行い、決定された話題TOP10を時間帯に分けて部屋を作成し（同時に3部屋同時進行）オンラインで学生同士が決められた話題について、最大30分語り合います。

例年は対面イベントを開催していたため、このようなオンラインでの取り組みは初の試みでした。しかし、イベント終了後には「今日参加してみて良かったです。」「楽しかったです。」などという声があり、今年度はコロナ禍によりオンラインでの授業が主となり、入学当初から大学生活に不安を抱える学生が多くいた中で、今回の活動はとても充実したものになり、楽しそうに対談している姿が見られ大変良かったと感じています。

参加者は以下の通り

- ・一年生 44名
- ・学生支援センター職員4名

総計 48名

＜報告：学生支援室＞



## V1チームにアナリストとして同行／スポ情3年倉茂さん（男子バレー部）

本学男子バレー部で、アナリストとして活動している倉茂涼さん（スポーツ情報マスメディア3年）が今シーズン、V.LEAGUE Division1（Vリーグ）に所属するヴィクトリーナ姫路にチームアナリストとして同行しています。

大学での活動もしっかりと行いつつ、夢実現への第一歩として週末は全国各地の試合会場でアナリスト活動、さらに平日は次週対戦予定の分析を行うハードなスケジュールです。

初めて女子チームの分析を行っていることで、これまでになかった考え方、バレー部に対する見方など、戦術に関して変化が見えてきているようです。

この経験を本学男子バレー部に還元し、チームの更なる強化と本学科の情報分析分野での発展に貢献してくれると思います。

今年も本学男子バレー部の応援をよろしくお願いします。

### ○倉茂さんからのコメント

女子バレーは戦術的な部分が男子バレーよりも当てはまる事が多く、その為、アナリストの責任も大きくなります。自分はまだまだチームの勝利には貢献出来ていないですが、自分に出来る事を精一杯頑張りたいと思います。

トップレベルで得られた経験を、本学男子バレー部に還元していきたいです。

＜報告：男子バレー部＞



## 「日本水泳・水中運動学会2020年次大会」において渡邊泰典講師らの研究チームが研究奨励賞を受賞

渡邊泰典講師らの研究チームが「日本水泳・水中運動学会2020年次大会」の発表で研究奨励賞を受賞しました。日本の水泳や水中運動に関する学術活動は活発で、国際的な評価も高いことが知られており、本学会はその中心的な学術団体です。

初のオンラインでの開催となりましたが、オリンピックメダリストやその指導者、国際的に活躍する研究者だけでなく、地域で水泳・水中運動の指導に携わる方も多数参加し、活発な情報交換と議論が繰り広げられました。

この度、受賞した研究内容は、いわゆるカナヅチの人が泳げるようになるための新たな水泳補助具を試作し、その効果を検証しました。

### 渡邊泰典講師の話

人間は元来、下肢が重いため、水中では脚（足）が下がります。泳げない人は、このことが原因でうまく前に進めないのですが、これを解決する方法として補助具の「ヘルパー」を用いるのが一般的です。従来、水泳指導で広く使用されているヘルパーは、腰部（ウエスト）に浮力体を巻き付ける仕様になっていますが、これが場合によっては下肢を更に沈ませる可能性がありました。

今回の研究では、骨盤側方から大腿側方にかけて浮力を付加する新型ヘルパーを試作し、それを着用することで、水泳が不得意な人のパフォーマンスがどのように変わるかを試行的に検証しました。

その結果、新型ヘルパー着用により、水泳不得意者は即時的に長く浮けるようになり、ゆっくりたくさん泳げるようになりました。

「泳げないから水泳きらい」を「泳げないけど水泳たのしい」へ、ひとりでも多くのひとに水の中で活動することの面白さを知ってもらえるように、今後さらに改良を進めていきます。

この研究に協力してくださった皆様に深く感謝申し上げます。

【研究奨励賞】 演題：「水泳不得意者の支援を目的とした新型ヘルパーの開発とその効果の検証」 渡邊泰典（仙台大学）、森山進一郎（東京学芸大学）、若吉浩二（大阪経済大学）

本学会は2020年11月14、15の両日、日本福祉大学（愛知県）で開かれました。  
<学術会事務室>



## 「佐藤実季看護師が JICAの映像教材作成に協力」 ～途上国の母子保健改善へ尽力～

仙台大学の健康管理センターに勤務する佐藤実季看護師は、2016年～2018年の2年間、国際協力機構（JICA）の青年海外協力隊として東アフリカのウガンダへ派遣されました。派遣先では医療関係者と共に医療環境向上を目指して活動してきました。

2021年日本でJICAによる研修会が開催される予定で、事前に母子保健について学習してもらうための映像教材作成を依頼されました。研修内容は、途上国の母子保健に関連した医療関係者・保健省行政官を対象とした「アフリカ地域 母子保健実施管理」についてです。現在の職場経験も活かしながら健康管理センターの概要、施設紹介、業務内容について英語で作成し収録しました。

「久しぶりの英語での報告のため大学の教職員にもご協力をいただきながら、英語での作成収録を終えることができ、本当に感謝しております」と佐藤さん。

佐藤さんが作成した資料には、仙台大学が日本で有数なスポーツ大学校として知られており半数の学生が部活動に励んでいること、それ故体育の授業や部活動での怪我や体調不良者が多くいること、健康管理センターは学生の健康の保持増進を支援することを目標に日々業務をおこなっていること、目標を達成するためには医療関係者、AT、臨床心理士や他教職員との連携が不可欠であることが記載されています。

佐藤さんは映像教材作成に関わったことで、改めて連携、協力が重要だと認識されたそうです。「私たちは日々健康管理センターで業務を遂行しています。自ら健康管理センターを利用する学生は、直ぐに処置に繋ぐことができます。しかし授業中や部活中に学生が怪我や体調不良を起こした場合は、現場にいた教職員が寄り添い私たちに繋げてくれます。教職員のサポートから、健康管理センターはさらに医師やAT、臨床心理士と連携しながら適切なケアに繋ぐことができています。」

また、作成資料の中には本学の新型コロナウイルス感染拡大予防の取り組みも一部紹介しています。「入構管理システムを構築し半年が経過しましたが、学生個々の健康意識が高まったように思います。現在は紹介している内容よりも更に簡便で高性能な入構管理システムへと改良されました。この入構管理システムも教職員の協力なしには作成出来ませんでした。世界的に新型コロナウイルス感染症の拡大が収まりません。途上国で医療活動をしようとすると様々な物が限られ、水でさえ入手困難です。しかし連携協力することで困難を乗り越える策は必ず見つかると思っています。」

途上国と先進国では環境が異なる部分が多くありますが、佐藤さんは途上国に2年間いた経験を活かして教材作成に挑んだことが伺えました。途上国の医療関係者・保健行政官に佐藤さんの想いが伝わることを祈っています。



## ATCとしての一歩とコロナ禍について

昨年6月にATC（米国アスレティックトレーナー資格）を取得し、それまでの道のりについて昨年6月と7月のMonthly Reportでご紹介いただいた村上泰司です。

その後、わたしはATCとして経験を積むために、米国のメインランドで学ぶことを決意し、2020年8月にオクラホマ州ノースイースタン州立大学(以下: NSU)へ移動、現在男子サッカーチーム担当のGraduate Assistant ATCとして大学院の授業をこなしつつ、働いております。今回、コロナ禍において米国で働く意味・難かしさなどに関し、お伝えできれば幸いです。



### ・コロナ禍におけるNSU体育局/ATルームの対応

NSUにおけるコロナ禍の対応計画は主にATルームのヘッドアスレティックトレーナーが担当しており、体育局長や提携している病院とコミュニケーションを取りながら作っております。その計画をもとに私たちGraduate Assistantは日々の活動を行っております。具体的には、練習前の体温チェック、アプリを通した症状のチェックなどが挙げられます。ほかにも、ATルームの使用人数を制限し、アポイントメント制とすることで選手間で広まらないような工夫もしております。

今年の春学期からは、昨年行えなかったスポーツを含め本格的なシーズンが始まります。試合開催にあたり、所属するカンファレンス(地域リーグにあたるもの)の規定に則ったコロナウィルスに向けた対応を行っております。その規定を基にATルーム側でも試合前の対応を考えております。私たちの所属するカンファレンスでは、PCR検査ではなく、その場で結果が分かる検査を採用しております。この検査は取り寄せが可能で、私たち自身で検査することが出来るので、試合があるごとにATCがこの検査を行っております。

### ・サッカーチームを担当する魅力

私が担当しているサッカーチームは国際色が豊かで、イングランド、スウェーデン、カナダ出身など国の出身によって英語の発音が異なるため、話していくとても興味深いです。

特にイングランド出身の選手は出身地のクラブに強い愛着があり、それについて話を聞くのが楽しくサッカーの話題以外にも、日本のアニメが好きな選手も多くいるため、時々、日本語を教えたりもしております。

様々な国出身の選手が集えど、国境を乗り越えて一つにしてくれるのはサッカーの一つの魅力であると日々実感しております。

### ・コロナ禍を現地で経験してみて

実際にATCとしてコロナ禍で働いて感じたことは、感染予防を発信する側とそれを受け取る側のギャップがまだあることです。多くの医療従事者が研究を重ねどれだけ良い対策を考えても、その情報を受け取る側が真剣でなければ結局意味がありません。昨年の秋学期にはオクラホマ州全体がレッドゾーンと呼ばれる感染者数が最も集中した州の一つになりました。NSUを含め多くの大学スポーツが中止になる中、地域の高校では通常通りスポーツが行われました。たまたま通りかかったソフトボールの試合を遠目に見ると、マスクを着けず密集した状態で観戦している保護者も多く、レッドゾーンになって当たり前の状況でした。加えて、昨年NSUにおいても選手間でのパーティーを行い多くの感染者を出し、対応に追われることもありました。

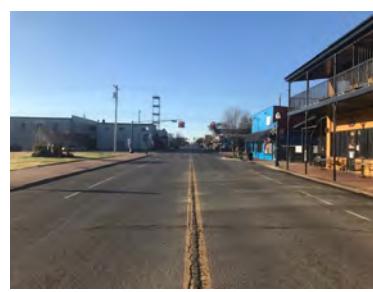
コロナ禍は選手のパフォーマンスにも影響を与えております。感染した選手の中には喘息持ちの選手もあり、途中で練習を中断し吸入器を頻繁に使用する場面も多々見受けられました。ほかのスポーツの選手では感染したことによって5キロ以上体重が減少したことに加え、ランニングさえままならない状況です。

コロナウィルスは様々な形で爪痕を残し、私が想像していた以上のものでした。新たな変異ウィルスも発見され先が見えない状況ではありますが、変えられるのは自分自身の行動だけです。もう一度、大切な家族、友人、そしてチームメートの顔を思い浮かべながら、感染予防へ向けた行動を考えていただければと思います。そして、私自身も体調管理に留意しながら今後の活動を頑張っていきたいです。



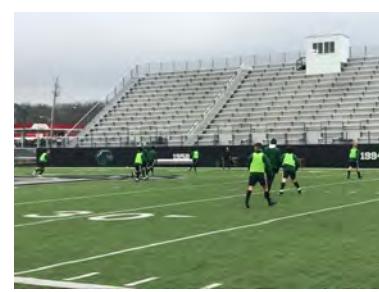
ノースイースタン州立大学のアメフトのフィールドからの風景

昼休みなどを利用して暖かい日にはフィールドのベンチで風にあたりながらリラックスしています。景色も良く、秋口には紅葉を眺めながら、久しぶりの秋を楽しんでおりました。ここでは、アメフトの練習だけでなく、サッカーの練習場としても使われます。



タレクアの街並み

飲食店が充実しており、休みの日を利用してカフェで課題をしたり、夜ご飯を時々テイクアウトして様々な味に触れております。



練習の風景

サッカーチームは朝練をメインに行い、午後にトレーニングを中心に行っています。今学期から本格的なシーズンが始まるので、選手の表情も徐々に真剣になってきました。練習における役割は、水分補給の補助と外傷の対応等です。練習前にはテーピングを巻いて練習に備えています。

## 2019年度第14回『仙台大学体育施設管理士』認定証授与式を開催

### ＜32名が資格取得＞

12月18日(金)LC棟1階において2019年度第14回『仙台大学体育施設管理士』認定証授与式が行われました。遠藤保雄学長から令和元年度に合格した32名のうち授与式に出席した4名の学生に認定証を一人一人に手渡しました。本来4月に開催していましたがコロナ禍のために延期になっており、今回やっと実現できました。

### ＜本学の授業で修得できる資格＞

体育施設管理士は体育施設の維持管理・運営に必要な知識・技能を認定する資格です。この資格に必要な科目は本学において修得することができ、科目修得後、公益財団法人 日本体育施設協会が学内で実施する資格認定試験に合格した者に『公認体育施設管理士』の資格が付与されます。日本体育施設協会は今まで64回の養成講習会(50余年間)を通してこの資格者を約11,500名認定してきました。本学は同協会の体育施設管理士認定校になって2020年度で15年目となります。累計583名の有資格者を養成し、授業を通して資格認定者の養成を継続しています。

### ＜遠藤保雄学長の講評＞

「3月に既に認定されていた資格認定証を、対面授業が開始されたことにより本日やっと皆さんへ交付することが出来、私も心より嬉しく思います。

体育・スポーツ科学を学んで、将来どの様に社会に貢献するかは、色々な道が有り、トップアスリートを目指す道、そのアスリートを育てるコーチになる道、アスリートの体調管理をするトレーナーになる道、体づくりのスポーツ栄養を支援する道を進む人もいるでしょう。体育施設はアスリートにとり、また、体育・スポーツを行う多くの国民(若い人からお年寄りまで生涯スポーツを行う人達)にとり非常に重要なインフラであると思います。そういう事に関して皆さんのがきんとした基礎的な知識を授業で得し、それをベースにして社会に貢献していくことは非常に重要な事だと思います。ただ、学校で学んだ事と現場で施設を使う方のニーズに応じてきちんと合った形で施設管理をしていく事にはちょっとズレが有ります。そこは皆さん現場のニーズを踏まえて、ニーズに即したそしてかつニーズに振り回されないで、こういった正しい使い方が有りますよと呼びかける。皆さんのが捉えた資格をベースに社会貢献して行ってくれれば良いと思います。今後色々な形でこの資格をベースにして活動していくことを強く希望しています」と述べられました。

### ＜資格認定証を授与された学生からの感想＞

Aさん：今まで私達が育ってきた学校にある体育施設などがいろいろな人たちの手によって管理とか維持されていることを授業を通して実感しましたし、維持していくための管理知識がこれ程まで膨大な物なのかを授業を通して学ぶことが出来ました。最後に資格として形に残るものを手に入れられたので大変うれしく思います。

Bさん：就職内定先は東京のホテルですが、ホテルの運営管理職に4月から就業することになっています。授業を通して学んだ施設管理がホテルの運営に生かせればよいと考えて頑張っていきます。

Cさん：この資格を大学に入ってから知ったのですが、授業を受けていくにつれて面白い内容だと感じ、資格も取りたいと思って受験しました。来年地元でこの資格を生かして仕事をしていけたらと思っています。

Dさん：グランディ・21などの大きな施設を利用することが有りますが、施設に多くの人が携わっていることを知り私もそれに興味があり、スポーツ施設管理の仕事を追求していきたいと考えています。

### ＜社会に出て資格取得のアピールを＞

感想を聞いて、皆さんは授業を通して十分に勉強した様子がわかりました。社会人になった時の対応として、世の中では『体育施設管理士』の資格を知らない方が多いので、自ら説明してください。自分は授業の中でこの様な事を学んだとアピールしてください。施設は本社の所在地にある建物その物が施設ですし、営業所や支店などもあり、スポーツ施設が無くとも色々な形で施設に関わることが有りますので、授業を通して学んだ事が十分に生かせるように活躍してください。

また、この資格を説明する時に内容が相手に伝わるよう自己表現を上手に考え、ショミレーションを30秒タイプ、1分タイプ、3分タイプといつか作成してみてはいかがでしょう？自分からこの資格を積極的にアピールし、是非社会人として頑張ってください。

### ＜資格取得卒業生の活躍＞

過去の例を挙げますと、Jリーグの正式試合会場として利用されるピッチの維持管理を担当する建設会社に就職した先輩も数名おります。スポーツに長く関わり、アスリートの事をよく理解して、体育・スポーツ科学を学んだ体育大学の卒業生が天然芝生ピッチを維持管理することは、農学を専門コースとして学んだ学生とは一味違った適性を発揮できると社会で認められるようになって欲しいと願うところです。

＜報告：体育施設管理コンサルタント 小島文雄＞



授与式の様子及び記念写真

## 芝草通信 NO. 21

担当：体育施設管理コンサルタント 小島文雄

## 2月の芝生管理について

噴水周りの高麗芝生（暖地型日本芝生）と第二グラウンドバミューダグラス（暖地型洋芝）は枯れ葉色となり生育が止まっています。第二グラウンドの寒地型洋芝（南側はトールフェスク+北側はペレニュアルライグラス）は、気温の低下と共に生育が鈍ってきます。

【参照】月間維持管理については、Monthly Report Vol. 164/2019. DEC から毎月掲載済み

## 1. 第二グラウンドの寒地型洋芝について

1月6日は下記写真の様に全面雪に覆われており根雪状態です。本来は寒風の防風対策や低温対策として養生シートで覆います。本学では初期のころは設置した時期もありました。シートの設置・格納には時間と人手がかかり、また速やかに段取り替えや準備が困難なこともあります。最近は使用しておりません。

根雪状態の芝生グラウンドの利点：厚さ5cm以上になるとシートの代わりに地温の低下を防げます。厚さ10cm以上の時は雪の上で使用・練習できます。

根雪状態の芝生グラウンドの欠点：完全に雪が溶けて芝生内の水分が低下し乾燥するまでは、表層が荒れて芝生が剥がれてしまうために使用・練習できません。

積雪の状況と芝生下層の湿潤状態により開放できる日程は変動しますが、なるべく練習日に開放をしていきたいと考えています。そのうえで現在の寒地型洋芝が全滅状態から半分程度までに壊滅したときには春先に新しい寒地型洋芝を播種します。種子からの生育を見守るより、なるべく今の休眠中の寒地型芝草を持続して、春先の気温が上昇したときに芝草の生育状態が良好になるのを待つことが良い方法です。暖地型洋芝バミューダグラスを播種する適正気温は6月下旬から7月上旬ですので、短い期間の寒地型洋芝の活用となります。

## 冬季の全国の天然芝生グラウンドとの比較

関東以西の殆どが暖地型洋芝を中心として、冬季にウィンターオーバーシーディングで寒地型洋芝に入れ替えてます。温暖な気候は寒地型も休眠せず、生育に地域差はありますが緑色になっています。同じ気温の仙台にあってもYurtecスタジアム、楽天生命パーク野球場やグランディ・21のスタジアムは緑色をしています。これらのスタジアムは試合開催の為に冬季はシート設置など十分な養生期間を取っているので、練習などは出来ません。また種子で繁殖する洋芝は、種子の散布量や施肥量を多くしています。Yurtecスタジアムと楽天生命パーク野球場は地下に地温コントロームシステムを設置しています。

参考までに、札幌スタジアムはサッカーピッチを設置しているステージごと屋内・屋外に出し入れしています。野球などで使用するときはステージごと屋外に移動しますが、しっかりと養生シートを覆い被せて保護します。移動式「ホバーリングサッカーステージ」は厚さが1m40cmで総重量は8,300t有り8台の大型ブローパーが吐き出す空気の圧力により自重の9割を支え、残りの重さをステージ内部の34個の車輪に掛けて4m/分の速度で移動させます。旋回に25分、移動に50分かかり費用は約50万円です。アンダーヒーティング装置は電熱線を使用しています。屋内に留めおくと十分な自然光が得られずに光合成が阻害されたり、自然風が見込めずに芝草が蒸れた状態になり病害が発生しやすくなったりします。そのリスクに注意しながら利用状況に合わせて、通常は4~5日間ごとに屋内・屋外に出し入れしています。



写真1 第二グラウンド、ラグビー・アメリカンフットボール場天然芝生  
2021年1月6日撮影

## 「高校スポーツの安全を守る」Vol. 33

担当：小野 勇太 助手

川平ATRがこれまで実践してきた仙台大学付属明成高等学校へのAT・S&C授業もついにオンライン授業を実施致しました（写真①～④）。オンライン手段はZoomを利用。ライブ配信で実施し、高校生達は普段とは異なる環境に興味関心を持ちつつ、AT・S&Cによる専門的な内容に対し、食らいつくように必死にメモを取る姿が印象的でした。回収したレポート用紙にはびっしりメモが書いてあり、感想として、生徒たちに有益な内容となっているコメントが多数挙げられたことは、担当している我々として喜ばしい限りです。

今回は一つの教室に生徒を集めるという形でのオンライン授業でありましたが、遠隔授業ならではのメリット・デメリットを我々スタッフ、高校教員、生徒が認識を持つことができました。このことを今後に大きく活かし、AT・S&C授業の更なる質の向上に努めていこうと思います。



①ライブ配信でのオンライン授業（S&C浅野助手）



②質問をする仙台大明成高生の様子



③ライブ配信でのオンライン授業（AT今野助手）



④積極的に授業を受ける仙台大明成高生の様子

# Monthly Report

SENDAI UNIV.  
PUBLIC RELATIONS  
Vol.178 / 2021.FEB  
(月1回発行)

## 同窓会の善意、高らか／吹奏楽・マーチングバンド部へ楽器寄贈



左から遠藤学長、石上同窓会理事、佐々木さん、三澤さん、伊野部監督、高橋副学長

本学吹奏楽部・マーチングバンド部は2月25日（木）、仙台大学同窓会よりクラリネットとサクソフォンの楽器2点を贈られました。

寄贈式は学長室で行われ、同窓会の会長代理として石上幸弘理事が「この仙台大学で躍動感ある演奏・演技を期待しています」と激励。伊野部剛史監督と共に出席した部員の佐々木梓沙さん（子ども運動教育2年）は「この楽器を大切に使いながら練習に励む」と話し、三澤彩乃さん（体育2年）は「さまざまな大会や式典で演奏できるようにたくさん練習を積んでいきたい」と喜びの声を伝えました。

また、遠藤保雄学長は「同窓生約1万5000人の方々からご寄贈いただいたことに心より御礼申し上げます」と感謝の言葉を述べました。

吹奏楽部・マーチングバンド部は本年度創設され、部員は現在8人。練習の日々を送っています。



石上理事より寄贈受ける三澤さん



喜びの声を伝える佐々木さん

## く 目 次 く

同窓会の善意、高らか／吹奏楽・マーチングバンド部へ楽器寄贈	1
「これまでの歩みとこれから創っていくもの～人生のセカンドステージに立った今～」	2
東北リーグに宮城代表として出場／男子バレー部活動報告	3
留学生が日本の豆まきを体験／学生支援センター 社会福祉士を目指す／社会福祉施設現場実習	4
仙台89ERSを侧面支援 選手の体調管理 「見える化」へ：私立大学研究プランディング事業／第3弾	5
第15回健康福祉研究会（報告と御礼）	6
・	7
・ 芝草通信 NO. 22	8
・ 「高校スポーツの安全を守る」 Vol. 34	9

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室

直通 0224-55-1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

# 「これまでの歩みとこれから創っていきたいもの～人生のセカンドステージに立った今～」

## 【自己紹介】

名前：片岡 悠妃（かたおか はるひ）

所属：コーチングコース

専門領域：コーチング、トレーニング、バレーボール

4月から仙台大学の教員として着任しました片岡悠妃です。教員としても指導者としてもまだ未熟者ですが、「自分を導いてくれた全ての人への恩返し（学生へ還元）」という思いで、現在、自分の責務を全うしている最中です。自分の生きた過程を振り返り、自己紹介とさせていただきます。



## ◎幼少期の思い出

私の小さい頃からの夢は、体育の先生になることでした。保育園時代に出会った「けんちゃん先生」が行う体操の時間が大好きで、小さい頃からじっとしていられない活発な女の子でした。小学4年生から母親の影響でバレーボールをはじめ、1回戦敗退がお決まりの弱小チームでしたが、ランドセルを放置して、友達とボールを追っかける事に熱中していました。当時の少年団（週4日）では、バレーボールの練習は1日の1割程度で、ほとんどが、ドッヂボールや追っかけっこ、ボールを使ったリレーやゲームをして遊んでいました。試合のユニフォームは、黄色と緑のブラジルカラー（当時はこんな派手なユニフォームのチームはいなかったためとても恥ずかしかったです）で、整列したら「楽しくプレーしよ～」とみんなで叫ぶ、何とも可笑しな集団でした。こんな幼少期を過ごしてきましたが、振り返ると、発達段階に応じた教育が受けられていたことや、バレーボールを通してスポーツの楽しさを味わわせてもらい、大事な事を学んでいたと感じています。

## ◎大学時代の学びと主体的に活動する経験

身体を動かすことやスポーツが大好きなまま、私はすくすく成長し、幼少期からの夢を叶えるべく、大学は、地元の国立大学教育学部保健体育科に進学しました。教員免許取得に向けて勉強や実習に励むと共に、バレーボールにも継続して打ち込んできました。大学のレベルはトップレベルではありませんが、現場を指導する大人がいなかったため、主将と監督を兼任し、普段の練習内容からチーム作り、大会運営など、学生同士で主体的に活動してきました。この経験がきっかけでコーチングに興味をもち、また、体育・スポーツについてはずっと学びたかったことでもありましたので、大学院へ進学しました（ゼミの先生の影響あり）。

## ◎大学院時代に味わった初めての挫折

大学院では、コーチング・トレーニングを理論的に学びながら、女子バレーボール部の学生コーチとして、指導経験を積んできました。コーチとしての立ち居振る舞いからボールの扱い方まで知らない事ばかりで、全ての事が勉強で、毎日刺激的でした。練習に初めて参加したときには、想像以上にレベルが高く、初めて見る世界に圧倒され、体育館の壁際に立ったまま呆然と立ち尽くしていたのを今でも覚えています。コーチ1年目は、球出しをさせてもらうこともベンチに座ることもできずに、ボール拾いの毎日でした。選手とも、距離感を保つことが難しく、変に上からになってしまったり、逆に何も言えずに無責任な関わりになっていたり、コミュニケーションのとり方に苦戦しました。先輩コーチの見よう見まねで、練習後の自主練習から球出しの練習をするも、初めはうまくできずに、「私がここにいるのは場違いなんじゃないか」「体育館に行きたくない」と思うようになり（特にこれまでバレーボールを含めて運動ができる方の立場だったので）、圧倒的に敵わない人がいる環境の中で挫折の連続でした。そんな思い悩むことも多くありながら、その時には必ず、大学院に進学した意味や、何を学びにここに来ているのか、と自分に問いただし、失敗やカッコ悪さを恐れずに食らいつくしかありませんでした。2年目になると、私は1人しかコーチがいなかったため、また違う大変さがありました。監督や選手と密にコミュニケーションを取りながら、徐々に自分らしく組織にいられるようになり、この上ない喜びや感動、悔しさを味わうことができました。大学院を振り返ると、修行の毎日でしたが、失敗できる環境を提供し導いてくれた監督や、当時の選手には感謝しかありません。

## 大学院時代に行った学会発表



## ◎仙台大学でのこれから成長計画

大学院を修了し、運よく大学の期限付き教員に採用され、5年間大学教員の経験を積んできました。その傍らで女子バレー部のコーチも任せてもらい、5年間の期間の中で、数回の優勝、準優勝、上位を経験できました。5年間の貴重な経験を経て、今年度より仙台大学の教員として着任しました。私の専門は、コーチング学、トレーニング学、バレー部です。コーチング学とは、指導者に必要な知識・方法論を理論的に学ぶ学問で、トレーニング学とは、競技力向上のための知識・方法論を理論的に学ぶ学問です。スポーツ現場・学校教育における体育指導現場で活躍できるリーダーを養成できるよう、授業を通して、正しい知識・方法論、大切な事を伝えたいと思います。また、私自身、現役指導者として、仙台大学女子バレー部が3つ目の顔となります。これまでの指導経験から、結局は本人が自ら気付き行動（意思決定）していくかなければ変わらないことを実感したので、気付きが与えられる環境整備に努めながら、毎日、女子バレー部の学生達と直向きにバレー部に向き合っています。自分自身の立場が、コーチから監督に代わり、「監督」ならではの仕事や苦悩を初体験し、学生への愛情の強さや責任の重みを噛み締めています。学生の強烈なエネルギーを感じながら「この子たちがどうか報われてほしい（強く優しい大人になってほしい）」という一心で、時には（毎日？）厳しく学生達に向き合い、学生の成長を願い続けています。学生からの信用・信頼を裏切ることがないように、自分自身、これからも学び続けていきたいと思います。今後ともどうぞ宜しくお願ひ申し上げます。



大学院時代のコーチ現場  
(関東大学女子バレー部1部リーグ戦)



現在のコーチング現場  
(仙台大学女子バレー部第5体育館での活動の様子)

## 東北リーグに宮城代表として出場／男子バレー部 活動報告

本学男子バレー部は2月13、14の両日、岩手県紫波町で行われた「東北バレー部リーグ」に宮城県代表「wolfies宮城」として出場しました。

新体制に変わってから初の公式戦となり、結果は1勝2敗で4チーム中3位という結果になりました。

大会は初開催で東北各県の男子選抜チームが総当たり制で戦いました（秋田県、山形県不参加）。学生と社会人が対戦するめったにない機会だけに、本学OBも多数出場しており、双方に刺激を受けました。



スコアは次の通り

第1試合 wolfies宮城 0 ( 23-25、 21-25) 2 VC青森

第2試合 wolfies宮城 2 ( 25-16、 26-24) 0 AS福島

第3試合 wolfies宮城 0 ( 21-25、 28-30) 2 Owls 岩手



今後は、春リーグに向けて練習に励んでいきます。2021年も本学男子バレー部の応援をよろしくお願ひいたします。

なお、この試合映像は、岩手めんこいテレビYouTube公式チャンネルで視聴することができます。

<男子バレー部>

## 留学生が日本の豆まきを体験／学生支援センター



2月2日(金)に学生支援センター主催(インターナショナルラーニングサポート)による、本学の留学生を対象に豆まき体験をしました。この活動は、日本文化へ興味関心を持たせると共に、理解を深めてもらうことを目的としています。

初めに節分について説明し、参加したボランティア学生や教職員と一緒に豆まきを行い、楽しく交流しました。

参加した、莊 博文さん(台湾)は「去年の2月は台湾に帰省していたため、節分を日本で過ごすのは初めてでした。最近はコロナウイルスの関係で色々な活動が中止になっていましたが、みんなで一緒に節分のイベントがでけて、すごく楽しかったです」や王 子豪さん(中国)は「日本に来て初めて節分の行事に参加しました。みんなと一緒に遊べて本当に楽しかったです！次回のイベントを楽しみにしています」など、初体験の留学生にとって、今回のイベントはとても新鮮なもので良い思い出になったようです。

コロナ禍ではありますが、感染防止対策をしっかりととりつつ、今後も留学生に楽しんでもらえるイベントを企画していきます。

今回の豆まき体験には15名が参加しました。(留学生 7名、学生ボランティア 1名、教職員 7名)

<報告：学生支援室>

## 社会福祉士を目指す/社会福祉施設現場実習

健康福祉学科の11名が2月から3月にかけ、社会福祉士受験資格を得るために「社会福祉施設現場実習」をしています。社会福祉の世界に貢献できるよう研鑽を積む日々です。

その一人、遠藤直輝さんが、河北新報(2月20日付29面「共に歩もう」)で紹介されました。

遠藤さんは現在、東日本大震災に被災した南三陸町社会福祉協議会で実習をしています。社会福祉協議会は、たとえば、各種の福祉サービスや相談活動、ボランティアや市民活動の支援など、全国的な取り組みから地域の特性に応じた活動まで、さまざまな場面で地域の福祉増進に取り組んでいます。



写真は、南三陸町の「結いの里」で2月に行われた”みんな食堂”という行事の様子です。”みんな食堂”では、こどもから大人まで、みんなで集まって料理したり持ち寄ったりして、一緒に食事を楽しめます。職員の住民への接し方など、福祉の現場で多くを学び、充実した有意義な実習となっているようです。



<報告：健康福祉学科>

## 仙台89ERS を側面支援 選手の体調管理「見える化」へ：私立大学研究プランディング事業／第3弾

本学は現在、男子バスケットボール、Bリーグに所属する仙台89ERSの選手たちの体調管理面に関しサポートしています。データをクラウド化しチームで共有できるソフト「ONE TAP SPORTS」を導入。随分と役立っている様子で、今回の報告は第3弾です。昨年11月から2月までの様子を紹介します。選手たちのコメントもとっちやいました。

### 【11月】

臼井選手（右）と西廣ATがパソコン内のデータを見ながら何やらヒソヒソ話。シーズン開幕から約2カ月経て、出場の機会やプレータイムの変化を、体重の推移データとすり合わせながら話しているんです。どのような体の状態がベストなのか、会話は真剣そのもの。こうした話し合いが基になって、今度は専門性の高い管理栄養士へつながっていきます。

#### ●臼井選手のコメント

試合を通して、自身がチームに必要なプレーを継続して行えるようにチームの状況に合わせてコントロールしていくかなければいけない。管理栄養士の下で、今までよりも体重管理の必要性を意識していきたい。



### 【12月】



ある日の笹倉選手（右）です。寒さが厳しくなってきたので、まずは体温の変化をチェック。

西廣ATは体温にばらつきが出ていたため、事情を尋ねています。説明によると、笹倉選手は非接触型の体温計による数値を入力していたようです。このタイプは機械の種類や外気温にさらされている場所に置くと正確な体温が測れません。早速、接触式の体温計で測定するように勧めました。たかが体温、されど体温です。

#### ●笹倉選手のコメント

さまざまな種類の体温計が多く出てきた中で、正確な体温を測らなければいけないなど知りました。

実際に自身の体温のコントロールもしやすくなりました。

### 【1月】

ナッシュ選手（手前）は「睡眠」をテーマに西廣ATと意見交換しています。チームと合流後、睡眠時間が不規則になりやすい傾向にあるようなのでアドバイスを受けていました。選手個々のデータがすぐに分かるので大助かりです。

#### ●ナッシュ選手のコメント

母国の家族とよく連絡をとっている。そのため不規則になりがちで、まとまった睡眠時間を確保できませんでした。現在は、まとまった睡眠時間を取りように心掛けており、いまは体の調子が良くなっています。



### 【2月】



片岡選手（右）がシーズン後半戦に向けて、睡眠の質や疲労感の確認・アドバイスを受けています。

シーズン後半戦に向けて、夏からの変化や体のキレ、疲労感の推移について話し合っていました。

西廣ATは、怪我のリハビリ明けでの傾向について気づいた点を伝えていました。

#### ●片岡選手のコメント

家族やチームの助けがあって、怪我明けも試合への万全の準備ができます。支えてくださる皆さんに感謝の気持ちを伝えながら、目標に向かって全力でプレーして恩返しをしていきます。

#### ●本学から

「ONE TAP SPORTS」を使用して、選手とアスレティックトレーナー、管理栄養士、そして、コーチングスタッフとの横断的なコミュニケーションを生み出しています。仙台大学も仙台89ERSの横断的な活動をバックアップし、共にBリーグを戦います。

この取り組みは「私立大学研究プランディング事業」の一環です。本学はここで得た知見を地域のスポーツ振興に積極的に還元していく計画です。活動の様子はこれからもシリーズで報告していきます。

## 第15回 健康福祉研究会(報告と御礼)

テーマ「教員として働く卒業生から在校生へのメッセージ」

2021年2月11日(木)にコロナ禍でのリモート開催でしたが、在校生・卒業生・高校生合計59名の参加と、教員21名の参加をいただき健康福祉研究会を実施いたしました。

お忙しい中、遠方よりおいでいただきました4名の講師(卒業生)の皆様には心より感謝申し上げます。学生のみならず、教員も改めて教育の魅力ややりがいを伝えていただきました。4名の先生方の教育への情熱に心が熱くなる、有意義な2時間半を過ごすことができました。

### 特別支援教諭 及川千夏さん(H28卒)

宮城県立船岡支援学校



経験に勝る財産なし。  
学生にしかできない経験をしてください。

心がけていることは、  
周囲の先生方や保護者  
の皆さんとの関係づく  
り。保健体育の楽しさ  
を感じてもらうこと。

### 養護教諭 天野貴文さん(H22卒)

宮城県立気仙沼支援学校



男性養護教諭で困ったことはあまりない。  
男でも女でも大事なのは人間性。

養護教諭で大事なことは「みたて」ができるこ  
とそして、新しい情報を学校全体へ伝えること。

### 保健体育教諭 結城健太さん(H24卒)

宮城県農業高等学校



講師時代に学んだこと  
・生徒の実態に合わせた指導  
・保護者との協力体制  
・生徒との信頼関係  
講師時代は毎日3~4時間仕事の後勉強した。

教育の仕事でフットワークの軽  
さは大切な要素。  
学生時代の経験は、必ず生きて  
くる。

### 福祉科教諭 四釜千尋さん(H27卒)

宮城県登米総合産業高校



介護福祉士になりたいと思っていたが、介護福  
祉士を育てたいと思うようになった。

人生に無駄なことなんか何もない。  
時間は平等です。一日を大切に過ごしてほしい。

## 寄せられた感想

### 高校生 Kさん

「いろいろな話を聞くことができ、多くの職業について知ることができました。ありがとうございました。仙台大学で学ぶことを楽しみにしています。」

### 卒業生 Sさん

「私自身複数体制で養護教諭の講師をしていますが、天野先生が話されていたお互いが気持ちよく仕事でできる距離感、物事への対応するスピードが大事ということなど納得する事がたくさんありました。また、特別支援の指導内容は初めて聞くことばかりで勉強になりました。私も講師時代の経験を財産にできるよう学ぶ姿勢を忘れずに頑張ろうと思いました。」

### 3年生 M君

「今回の研究会に出席して印象に残っている事は、保健体育教師の先生と養護教諭の先生の話です。保健体育の先生の話で、合格した年の勉強に使ったノートの数です。20冊以上あり、一日3時間から4時間を毎日継続したらこれくらいの数になると言っていて自分も勉強を始めていますが、もっと合格するために勉強しなければならないと感じました。また、疑問に思っていた実技の練習についてですが、大学時代は専門の先生にお願いして行っていたことがわかりました。講師時代は学校が終わってから、体育館等を借り、工夫しながら行っていたことがわかりました。まずは一次の筆記の勉強が優先ですが二次試験に進んだ際は参考にして専門の先生に聞きに行きたいと思いました。」

次に、養護教諭の先生の話を聞いて感じた事は男性だからと養護教諭になれないわけではないということです。実際に現場で働いている人の話を聞いて、男性養護教諭だからこそできる事もありますし、女性の養護教諭の方と協力して生徒と接することが重要だということがわかりました。疑問に思っていた「なぜ、男性なのに養護教諭を目指したのか」という問い合わせも、男性養護教諭の存在を知り、なりたいと思ったからと聞くことができ、意思の強さが重要だと思いました。

実際に働いている現場の声を聞くことができ今後に生かせる内容ばかりで参加して良かったと思いました。先生方も言っていたように大学生の時は一番時間があるので、時間を無駄にせずこれから頑張っていきたいと思います。」



司会もカメラもビデオも4年生の補助で実施

コロナ感染予防のため会場で参加人数は最小にして実施



## 3月の芝生管理について

噴水周りの高麗芝生（暖地型日本芝生）と第二グラウンドバミューダグラス（暖地型洋芝）は枯れ葉色となり生育が止まっています。第二グラウンドの寒地型洋芝（南側はトールフェスク+北側はペレニュアルライグラス）は、気温の低下と共に冬季衰退期に入っています。競技場の寒地型洋芝は気候に関し様々な対策を探っているので冬でも緑色をしています。

第二グラウンドは4月になれば少しずつ緑色になります。噴水周りはそれより遅れて5月のゴールデンウイーク明けころから緑色になります。

【参照】月間維持管理については、Monthly Report Vol.164/2019. DEC から毎月掲載済み

今回は芝生の作り方を説明しますので、皆さんも庭の片隅や玄関前の隙間にふかふかとした芝生を作りませんか？

### 1. 芝生とは？

丈が短く、細かい葉を密生させるイネ科植物が集まり、ある程度まとまった広がりで地面を被覆し、そのため土壤の表層部分がそれらの芝草の根や匍匐茎で満たされ、全体が緻密になった土表面部分を指す。

（詳細はバックナンバーMonthly Report Vol. 158/2019. Jun 芝草通信 No3に記載）

### 2. 芝生のさまざまの機能

緑の絨毯の芝生を見ると、心が何となく癒されます。裸足で芝生の上を歩いたときの感触、寝転んだ時の解放感はたまりません。子供の安全な遊び場所になり、砂埃が立ったり雑草が発生するのを抑制し、地温を保って夏涼しく冬暖かくしてくれます。見た目の美しさだけでなく、けがの心配をせずに思いきった動きが出来ます。

### 3. 芝生つくりを楽しもう

せっかく張っても途中でハゲてしまう、伸びすぎたのを刈り込んだら枯れてしまったなど、芝生つくりに悩みはつきものです。でも芝草という植物のもともとの性質を知って、コツさえつかんてしまえば、きれいな芝生の維持は、難しい事ではありません。寒地型洋芝が週2から3回程度の草刈りが必要なことと比べれば、噴水周りの暖地型日本芝の高麗芝生は生育がおう盛な時期でも、週1回程度の刈り込みで済みます。大変なように見えても考えようによってはとても贅沢な時間だと思いませんか？刈り込んだばかりのフカフカした芝生の上でお茶を飲むことは優雅な楽しみです。この春には芝生を利用した庭造りにチャレンジしてみてください。

### 4. 芝張りの床造成の仕方

#### 1) 雜草除去

芝草を張る場所の雑草を取り除きます。スギナ、ハマスゲ、チガヤなどの雑草は、地上部だけを取り除いても地下茎や根は生きていますので、芝張り後から芝草の隙間から出てきます。地面を掘り起こし、地下茎や根を取り除きます。地面が固いところでは、根まで枯らすことのできる非選択性除草剤を雑草の茎葉部に散布し、枯らしてから取り除くと良いです。

#### 2) 整地

地面をレーキなどで深さ3~5cm程度耕し平らにします。この時、土の塊や石ころ（ゴルフボールくらいの大きさは芝生表面の凹凸に影響する）、あるいは雑草の根を取り除きます。地面があまりにも硬い場合、あるいは凹凸が激しい場合は、砂を3~5cm敷いて平らにします。敷くのは黒ぼく土と呼ばれる火山灰土でもよいが、雑草の種子が多く混入している場合があるので注意します。また、粘土の塊が多く含まれているものは使用しないようにします。土壤が粘土質で多湿気味の場合は、水はけを良くするために適量の洗砂、あるいは土壤改良資材を混合します。



雑草をよく取り除いたら、レーキなどで深さ3~5cm耕す。土の塊や小石も取り除く

<写真1. 整地手順1>



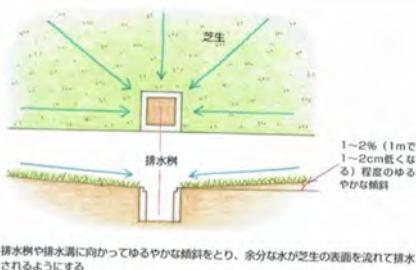
地面が固かったり、凹凸が激しいときは、砂などを敷いて平らにする

<写真2. 整地手順2>

### 3) 排水対策

排水は、原則として表面排水とします。盛土したり切土したりして、排水枠や排水溝に向かって1~2%（1mで1~2cmの落差）程度の勾配を付けます。一度芝張りをしますと凹凸を補正するのに大変な時間と労力を要します。庭の大小にかかわらず、表面の水の流れを十分に考慮して整地します。勾配がきつ過ぎると表面の土壌が流れ落ちます。ゆる過ぎると排水が滞り水溜まりができます。その時は地下に暗渠排水が必要になります。

#### 排水対策



<写真3、排水対策（勾配）>

### 4) 芝草の選び方

噴水周りと同じ暖地型日本芝生高麗芝が良いと考えます。丈夫で病害も少ない、耐暑性、耐寒性に優れ、草刈り回数も少なく、密度も濃い芝草です。野芝は葉幅が広くさらに丈夫ですが、密度が薄い。姫高麗芝草は葉幅狭く柔らかですが、高麗芝草に比べると弱く、擦り切れにも弱いです。4月中旬～5月になるとD I Yの店舗に出回るので、その時に購入する心積もりをしましょう。

写真・参考文献：NHK趣味の園芸

次回は芝草の張り方を説明します。

（2月28日記）



## 「高校スポーツの安全を守る」Vol. 34

担当： 浅野 勝成 助手

“If you want run faster and jump higher, get STRONG!!”

アメリカ留学時のインターンでお世話になったヘッドS&CコーチのRyan Johnson（当時Southeast Missouri State University）が良く言っていた言葉です。訳すと、“ダッシュのスピードを高めたい、ジャンプ力を高くしたい、そう思うならまずは強くなれ！”ということです。「強い=高い筋力」という意味で、筋力が高ければパワー（＝瞬発力）も向上する可能性が大きくなります（パワー=力×速度なので、力を大きくすることでパワーが高まる）。また、トレーニング初心者が瞬発力を向上したい場合、速度向上に特化したスピード系種目を行うよりも、筋力向上に特化したトレーニングを行う方が結果として瞬発力の向上に大きく貢献する可能性が示唆されています（Cormie, 2010）。従って、Coach Johnsonの言葉はシンプルですが深く、特にトレーニング初心者が多い高校生相手にトレーニング指導を行う私はとても重宝しているものです。

その言葉を改めて「やっぱ深いな～」と思わせてくれる場面が最近多々あります。ある男子選手が体重の1.5倍程度の重量でのスクワットを5回3セットで行えるようになったり、別の男子選手は背中に25kg載せた状態での腕立て伏せを10回2セット出来たり、ある女子チームの半数が懸垂（逆手）を補助なしで1回でき（1セット最高回数は6回）、そして数名は体重の1.3倍以上の重量でスクワットを6回3セット行えたり、別の女子選手は体重の1.87倍の重量のスクワットを1回挙上できたりなど、各部活動の選手で筋力が着実に向上している様子が伺えます。扱う重量が顕著に増えてきた選手には、投擲の飛距離が伸びた者、バスケットボードをタッチできるまでジャンプ力が上がったことを実感する者などがいます。また、「強くなる=挙上重量が上がる」という達成感から自信がついてきたことでリーダーシップを取れるようになってきたという者、器具や施設の整理・清掃を率先して行う者、周りの選手へ鼓舞することが多くなった者など、身体以外でも好印象があり成長を感じさせてくれる場面が多いです。

トレーニングを通して心身の成長を導くアプローチはまだまだ模索中ではありますが、今後も継続して良い方向への成長に繋がるようにトレーニング指導に従事していきたいと思います。

# Monthly Report

SENDAI UNIV.  
PUBLIC RELATIONS  
Vol.179 / 2021.MAR  
(月1回発行)

## 588名の学生が旅立ち/令和2年度卒業式/コロナ禍で 予防対策徹底



体育学科総代・加藤遙さん

「令和2年度第51回卒業証書・学位記授与式並びに第22回大学院学位授与式」は3月13日（土）、学内の第5体育館で行われ、体育学部578名（うち、体育学科292名、健康福祉学科99名、運動栄養学科85名、スポーツ情報マスマディア学科43名、現代武道学科45名、子ども運動教育学科14名）の卒業生と大学院10名の修了生が本学を巣立しました。

式はコロナウイルス感染予防の対策から、学生と関係教職員のみで執り行いました。会場は換気に十分気を遣い、進行面でも例年の式次第を大幅に見直し所要時間45分間と短縮しました。表彰関係は理事長特別賞に、第23回デフリンピック（トルコ・サムスン大会）水泳男子日本代表の星泰雅さん（体育4年）と、ボートの全日本インカレで男子エイトを制した漕艇部のエイトクルーが輝きました。

式典のもよは仙台大学公式YouTubeチャンネルでLIVE配信されました（約1週間の配信予定）。

〈学長式辞要約・遠藤保雄〉

日本は少子高齢化の時代を迎え、子どもの数が少なくなる中、皆さんを含め日本国民の平均寿命は百歳に達する時代に入りつつあり、これから社会の荒波に乗り出そうとする皆さんにとって、80年間にも及ぶ活躍と多くの課題に取り組むことが待ち受けており、そこで求められるのは「挑戦」である。

ここで、「遅咲きの力士」の挑戦の話に触れておきたい。2017年に誕生した第72代横綱は「稀勢の里」である。「稀勢の里」関の横綱への道のりは歴代の横綱と異なり、苦難の連続であった。力士としての初めての優勝は初土俵を踏んでから実に89場所、20年余を費やした。2011年に大関に昇進した後の横綱への挑戦も6年間という永きに亘った。だから、人呼んで「遅咲きの力士」

### 〈 目 次 〉

• 588名の学生が旅立ち/令和2年度卒業式/コロナ禍で予防対策徹底	1 • 2
• 2020→2021 ~VUCAの時代を生きる私たち~	3
• 日本幼児体育学会第16回大会を終えて	4
• 聖和学園高校とタッグ/スポーツで人材育成 • 学生たち学会発表続々／林研究室	5
• スポーツと福祉スクラム／体育大学で学ぶ魅力 • オンラインでも運動指導できばき／学生たち実習に取り組む	6
• 「令和2年度 介護実習・社会福祉援助技術現場実習 教育懇談会」を開催しました • 「日本コーチング学会」において、片岡悠紀講師らの研究チームが令和2年度日本コーチング学会奨励賞を受賞	7
• 仙台大学クリケットプロジェクト・2021練習会を開催	8
• 芝草通信 NO. 23	9
• 「高校スポーツの安全を守る」 Vol. 35 • 令和2年度「最終講義」を開催	10 ～ 14

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室

直通 0224-55-1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

といわれた。ただし、この遅咲きの時に、彼が挑んだ言葉を引用しよう。「横綱を目指す上で、まず骨格と筋肉を研究した」また相撲を取る時には「相手の呼吸や気を読むことや場をつかむ研究」をした。「考えることが相撲には必要」「何度も考えて、考え抜いて、横綱」に挑んだ。

入門後、厳しく肉体の限界が求められる日々の稽古の中で、彼は本能的に、まず、相撲という身体活動の土台となる体の構造をスポーツ科学の視点から学ぶことに挑み、次に、相撲という競技スポーツに臨む際、スポーツ心理学的な目で相手を分析し戦いに臨んだ。そこにあったのは「挑戦」という不屈の取り組みではないか。

今、横綱稀勢の里は、荒磯親方として小さな相撲部屋を持ち後進を育てる傍ら、相撲協会の広報も担当している。そんな親方が、また、新たな言葉を口にした。「自分を高めるため大学院に入学した」、「研究する、考えつづける力が、自分を支えてきた」とサラリと新たな「挑戦」の弁を述べている。

スポーツが好きで体育・スポーツ健康科学を学び、これから社会への旅立とうとしている皆さんと「挑戦」について一緒に考える機会になればと思う。

〈謝辞・廣谷姫奈さん、現代武道4年〉

春から進む道は、それぞれ違いますが各所で新たな道を切り開きます。楽しいことや嬉しいことばかりではなく、悩むこともあるかと思いますが、本学で過ごした時間や学んだことを思い出し、一歩ずつ進んでいきたいと思います。



## 2020→2021 ~VUCAの時代を生きる私たち~

体育学部体育学科コーチングコース 助教 加畠 碧

昨年4月より助教として着任しました加畠碧です。新体操とスポーツ心理学を専門としています。大学院を修了してすぐに着任させていただいたので、特に授業に関して私にできるだろうかと不安を抱えながら、目の前のこと精一杯取り組んできた1年間でした。授業前は非常に緊張していたことが懐かしく感じます。おそらく来年度も緊張します…。

2020年は例年に比べかなりストレスの多い1年間だったのではないかでしょうか。2021年も、2019年のような生活に戻るとは考えにくく、多少「新しい生活様式」に慣れはあるものの心や身体にとっては気付かぬうちにもストレスが多くかかることが予測されます。それではどのようにこのストレスをうまくマネジメントできるでしょうか。少し話はそれますが、私の修士論文のテーマは「スポーツ選手の主体的な取り組みを促進させる映像フィードバックと練習日誌の活用」でした。競技スポーツをやっている方は、自分の動画を見たり、練習日誌を記入していましたか？この修士論文は、特に練習日誌の記入が「思考の外化」を促し、客観的に自分の状況を捉えることで、現在の課題の把握や次の練習での目標設定などが可能になるという内容でした。

この内容は日常生活にも活かすことができると思います。日記に現在のストレスや自分の気持ちを記入することで、今の自分にとって何が起きていているのかを客観的に見ることができるようになり、何が問題でどうすれば良いかの方法を考える手助けになります。そうすることで、ストレスフルな状況にもうまく対応することができていくようになっていくと思います。もちろん、日記が全てを解決してくれるわけではないですが…皆さんもよかったです、試してみてくださいね！



みなさんにとって(私にとっても)2020年は、記憶に残る一年間だったと思います。私にとっては、社会人として、そして仙台大学の教員としてのスタートの1年だったというだけでも鮮烈ですが、コロナ禍という特殊で異様な雰囲気の中で過ごした春から初夏がやはり強く印象に残っています。大変なことももちろん多くありましたが、それ以上に、授業を通してどんなことを伝えようか？とか、どうしたらこの概念は皆に伝わるだろうか？とか色々試行錯誤しながらも取り組んだことはとても楽しく、有意義でした。また、途中自粛期間などもあり、イレギュラーではありましたが、1年間、新体操競技部のコーチとして部活動に関わり、目標に向かって努力する部員と過ごした時間もとても貴重なものでした。新しいコーチとして何もわからなかつた時から、部を率いてくれた4年生の門出を見送ることはとても感慨深いです。

1年間を振り返って、仙台大学で過ごしたこの1年は、とてもエネルギーで楽しかったなと思います。山あり谷ありながらも、このような環境で仕事をさせていただけていますにただただ感謝しております。

さて、2021年度が始まろうとしています。引き続き先行きの見えない世の中ですが、どのような一年になるでしょうか。そのなかで私たちはどのように過ごしていくことができるでしょうか。

とにもかくにも心身ともに健康に過ごしていきたいところですね！



仙台大学新体操演技発表会



全日本新体操選手権大会（右端）

# 日本幼児体育学会第16回大会を終えて

大会長 原田 健次 教授  
(同学会5期会長)

3月6・7日仙台大学において、日本幼児体育学会第16回大会が開催されました。本学会は、幼児体育に関する科学的な理論と実践の両立を目指すことにより、国際的・学際的ならびに学術的研究の進歩と発展を基に、理論的裏付けによる実践的指導の普及・振興を図ることを目的として設立され、今回の学会大会で16回目を迎えます。

本大会は当初、昨年8月に仙台大学において行われる予定でしたが、昨今の新型コロナウイルス感染症の拡大を受け、国内の蔓延防止や安全確保の観点から、延期にさせていただいていただきました。そして、より多くの幼児体育研究者および幼児体育指導者、保育・教育関係者の方々を東北に招いて、研究成果のご発表や話題提供、有益な教育・研究の情報交換と親睦の場の提供をと準備を進めていましたが、残念ながらオンライン開催となりました。

大会のテーマは「運動あそびを通して、すべての子どもに幸せを届けよう！」です。基調講演は「今一度、幼児体育について考える」と題して馬場桂一郎先生(大阪信愛学院短期大学名誉教授)、特別講演は「体育系大学に、なぜ、就学前児童を対象とする人材を育成する学科を設立したか」と題して朴澤泰治理事長、東北発信の講話及びシンポジウムでは、東日本大震災から10年目の節目を迎える「東北からの発信」として、皆様と共に、すべての子どもに幸せを届ける「子ども支援」について考究することができました。

また、研究発表は22題、幼児体育研究者・実践者から子ども支援に関わる多くの方から発表をいただきました。参加者は90人の登録をいただき参加していただきました。オンライン開催のため、盛んな質疑応答はなかなかできませんでしたが、参加者の方々に、すべての子どもに幸せを届けるための良き知恵や研究知見を提供できたのではないかと考えます。

今回は、緊急避難的にオンラインによる学会の開催を行いましたが、実際に行ってみるとメリットもあるかと思いました。今後は従来の学会運営やオンライン開催の両方のメリットを取り入れながら行われる新しいかたちの学会が模索されていくのではないかと考えます。

最後になりましたが本大会の開催にあたっては宮城県教育委員会、一般社団法人宮城県保育協議会からの後援をいただき、多くの協賛企業や関係団体からご支援・ご協力をいただきましたこと、心より感謝申し上げます。



## 聖和学園高校とタッグ/スポーツで人材育成

本学は聖和学園高等学校と高大連携協定を結びました。

締結式は3月5日（金）、仙台市若林区の聖和学園高等学校薬師堂キャンパスで行われました。本学側からは学校法人朴澤学園理事長である朴澤泰治学事顧問と遠藤保雄学長が出席。遠藤学長は「（この協定によって高校時の）早くから体育・スポーツ健康科学を学んでいただき、本学と合わせた7年教育で優秀な人材が育ってほしい」と呼び掛けました。朴澤理事長は「お互いに良いところを共有しあって、一人でも多くの良い人材を育成できる大きなチャンスである」とタッグを組む意義を強調しました。

一方、聖和学園側の鈴木繁雄理事長は「早くから高度なスポーツ教育の一端を知ることができることは生徒にとって大きな成長につながります」、庄子英利校長も「将来を見据えた子どもたちを高校の段階から協力を得て育てていきたい」と語り、共に本学への期待感をにじませました。

この協定は学校教育の振興並びに地域社会の発展と人材育成に寄与することを目的としています。



左から本学側の朴澤理事長・学事顧問と遠藤学長、聖和学園側の庄子校長と鈴木理事長

## 学生たち学会発表続々／林研究室



林直樹研究室（准教授、コーチング・スポーツバイオメカニクスなど）で学ぶゼミ生たちの学会発表が相次ぎました。

4年生1人、3年生7人のほかに、林先生がバドミントン部監督でもあることからバドミントン部アーチスト2人（スポーツ情報サポート研究会所属）は3月6、7の両日、日本バドミントン学会、日本スポーツリハビリテーション学会に参加し、オンライン形式で研究成果を発表しました。

発表は10分間。その後には3分間の質疑応答もあり、全員そつなくこなしました。林研究室では、3年時に共同研究での学会発表、4年時で作成した卒業論文の学会発表を必須としています。

学会と発表者・テーマは次の通り。

3月6日（土） 日本バドミントン学会

「バドミントン・男子ダブルスにおけるレシーブの重要性」

塩沼直希、山口将史、玉手郁奈、本間雄大（体育3年）

「バドミントン・左利き選手が決められているコースを探る」

館田悠汰、前田陽向、武藤大地（体育3年）

「バドミントン競技における攻撃・守備のスタッツ考案」

須田翔大（スポーツ情報マスマディア2年）

「仙台大学バドミントン部専属アナライジングチーム活動報告」

佐藤美咲（スポーツ情報マスマディア1年）

3月7日（日） 日本スポーツリハビリテーション学会

「大学軟式野球におけるスイングと打球飛距離の関係性～軟式野球に「フライボール革命」が応用できるかの検証～」

梅津和真（体育4年）

＜報告：林直樹准教授＞

## スポーツと福祉スクラム／体育大学で学ぶ魅力

スポーツと福祉？ 大いに関係あります。

健康福祉学科は、スポーツ、レクリエーションといった身体的な機能を福祉にどう活かすことが可能かを教えてくれます。もちろん福祉の専門性についても学べます。体育系大学ならではの福祉へのアプローチができるので、とてもユニーク。また、部活動が活発ですので人間力も磨かれます。つまり体育で培う力を福祉に生かしていくわけです。

現在、学生たち（健康福祉学科3年生）は社会福祉施設で現場実習中。仙台大学での学びについて聞いてみました。

「部活での経験を生かして粘り強く頑張りたい」（山田琉成さん）

「現場での実習の中で知識と技術が身についているため、この経験を実習後にも活かせるようにしていきたい」（遠藤裕里さん）

「実習先は知的障害のある人達が利用されている。レクリエーション部に所属しているため、利用者の特性にあったレクリエーションを提供したい」（倉本遼太さん）

「コロナ禍という状況下での困りごとやニーズについても理解を深めていきたい」（西村岳さん）

「地元の福祉政策や歴史について聞き込み調査やプレゼンションを通して以前より理解を深めることができた。この体験を実習後にも活かせるようにしていきたい」（滝野虎白さん）

＜報告：健康福祉学科＞



現場実習先の福島県内の病院で、社会福祉士からケースの説明を直に受ける



退院援助に向け、看護師、社会福祉士と共にカンファレンスに参加し今後の方向性を確認する

## オンラインでも運動指導できぱき／学生たち実習に取り組む



レクリエーション指導



筋力トレーニング指導



ストレッチ指導

本学が取り組む健康づくり運動サポーター事業の一環で、健康づくり運動支援班は令和3年2月15日（月）、オンライン形式による運動指導実習を行いました。本年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため活動先が大幅に減少。大学と柴田町の集会所を繋ぎ、町民に対して運動指導をおこなう機会も奪われてしまいました。

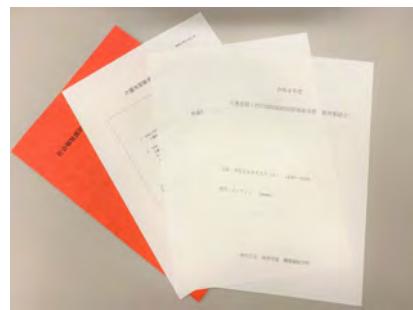
しかし、本学内で養成担当の教職員が「参加者」役となり実施。実習に参加した2人の学生は画面に映し出された「参加者」に健康づくりに向けたいいろいろな運動を丁寧に指導しました。長谷川麗央さん（健康福祉3年）は「オンライン運動指導をやってみて参加者への声かけなど新たな発見がたくさんあった。今後の指導に活かしていきたい」、國分恵理さん（運動栄養3年）は「高齢者はオンラインを繋ぐ難しさもあるが、そういった面も含め改善し健康づくり運動を発信していきたい」と話してくれました。

指導した小池和幸教授は「オンライン運動指導では、声の大きさや話すスピードなどより意識する必要がある。よりよい運動教室実施のため積極的にチャレンジしてほしい」と総括しアドバイスを送りました。

新年度の実習はオンラインと現場を併用する計画です。運動指導者養成と人々の健康づくりに貢献できる人材を養成してまいります。

＜報告：健康づくり運動支援班＞

## 「令和2年度 介護実習・社会福祉援助技術現場実習 教育懇談会」を開催しました



3月3日（水）14時30分より、オンラインにて、「令和2年度 介護実習・社会福祉援助技術現場実習 教育懇談会」を開催しました。

この教育懇談会は、介護福祉士養成のための介護実習と社会福祉士養成のための社会福祉援助技術現場実習の実習施設指導者へ、今年度の介護実習と社会福祉援助技術現場実習の実習結果及び学生の学びについて報告し、次年度の実習計画に關し提案させていただきながら、施設実習指導者より実習への意見を伺い、次年度の実習に對してご理解とご協力をいただくことを目的としています。

今回、社会福祉援助技術現場実習施設の実習指導者10名、介護実習の指導者9名、教職員15名の参加をいただきました。今年度は、新型コロナウィルス感染症感染予防のため、福祉施設での実習が困難な状況もございましたが、実習施設の皆様のご協力をいただき、ICTを活用するなどの創意工夫で実習を行うことができました。初めての試みも多く、受け入れていただいた実習施設指導者様のご意見、新型コロナウィルス感染症禍にどのようにしたら施設実習ができるのかなど、次年度以降の実習の在り方を検討する多くのご意見をいただきました。その中で、今後、実習とICTオンラインを用いてのハイブリッド型実習の可能性についても提案がありました。

仙台大学では、スポーツを続けながら、介護福祉士国家試験受験資格や社会福祉士国家試験受験資格の他、養護教諭、保健体育教諭、特別支援学校教諭、福祉科教諭を目指す学生が多く学んでおります。様々な年代の人々に教育・医療・保健・福祉の各分野で健康にかかわる指導者を育成し地域の人々の健康に貢献できる人材育成を目指しています。学生が大学で学んだ仙台大学の強みや特徴を、ポストコロナの新しい時代に実習でも発揮できるよう支援していきたいと考えております。

＜報告：健康福祉学科＞

## 「日本コーチング学会」において、片岡悠妃講師らの研究チームが令和2年度日本コーチング学会奨励賞を受賞

この度、3月7日（日）に行われた日本コーチング学会にて、片岡悠妃講師らの研究チームによる「大学女子バレーボールチームの体力トレーニングにおけるコーチングの省察的実践」の論文が、令和2年度日本コーチング学会奨励賞を受賞しました。

＜片岡悠妃講師より＞

コーチング学領域では、コーチや選手の学びに役立つ実践知を明らかにする研究が推進されているものの、これまでに、現場のリアリティーが反映される研究成果、いわば、指導者のコーチング活動そのものを科学的に研究した論文はありませんでした。この研究は、上記のような問題関心を捉えた筆者が、実際にコーチとして実践してきた参与観察記録に基づいて、コーチングの現場で発動する実践知を省察的に検討したものです。コーチが実際に実践してきたコーチング行動や思考とその変遷過程、現場において起きた出来事を詳細に記録したコーチング日誌の記載内容を定性的記述データとして質的に省察することで、初心者コーチが習得する、もしくは所持しておくことが望ましい知見、技能、能力や適切な行動の一端を、明らかにすることことができました。

本研究が形にできたのも、共同研究の先生方、査読の先生方、研究に協力して下さったチームの皆様のおかげです。この場を借りて、心より感謝申し上げます。

奨励賞を受賞し、私自身、一層身が引き締まる思いとなりました。まだまだ未熟者ですが、将来スポーツ指導現場で活躍したいとワクワクしている学生と共に、コーチングについて共に考え、学び、指導者養成に還元していきたいと思います。



# 仙台大学クリケットプロジェクト・2021練習会を開催

主催：仙台大学、日本クリケット協会

令和3年2月28日・3月1日の二日間、協会が契約したオーストラリア人のサイモン氏（日本代表ヘッドコーチ）並びに宮地氏（ジュニア普及コーディネーター）による練習会を実施しました。

男女を問わず現在の1・2・3年生に参加募集したところ、女子クリケット部員5名に加え女子1名・男子3名が参加しました。初日は午前ハンドボールコート・午後陸上グランドで、二日目はラグビー場で実施しました。運良く両日とも晴天で絶好のコンディションの中、極めて内容の濃い充実した練習会となりました。部員達のレベルアップは目を見張るものがありましたし、クリケット初体験の男子たちも大いに興味を持ってくれたようでした。今回の練習会を契機に、本学のクリケット部の発展につなげたいと願っています。教員は仲野・パランギが全体をサポートし、高橋副学長も見学に来られました。また、二日目は撮影協力を依頼していたスポーツ情報マスマディア研究会の学生3名による部のPR動画撮影をしていただきました（感謝いたします）。

## ＜学内の学生たちへ、参加募集のご案内＞

クリケットプロジェクトを通じて国際大会で活躍するクリケット選手を目指しませんか？

日本クリケット代表を選考する一般社団法人日本クリケット協会と仙台大学が協働しクリケットプロジェクトを2年前に立ち上げ、世界で活躍する日本代表などトップアスリートを育成しております。つきましては、今年新たに日本代表の選手及び仙台大学クリケット部の拡充を図るために練習会を仙台大学で開催します。クリケット歴がない又は少ない方も対象となりますので、希望する方は仲野研究室までご連絡ください。

2021年のシーズンは、クリケット女子日本代表が国際クリケット評議会主催W杯予選サモア大会と東アジアカップ香港大会の2大会に出場します。代表選考基準はクリケットの技術はもちろん基礎体力などのアスリートとしての力が試されます、女子代表には比較的競技歴が少ない方も選ばれることもあり、ご自身の体力やクリケット以外での競技経験をもとにクリケットのスキルアップできます。男子代表では、ジュニア層の充実に伴い競争率が年々高くなっておりますが、ご自身のその他競技経験を活かすことが女子代表と同様に可能です。

仙台大学クリケットプロジェクトでは、日本代表選手を発掘し育成すること及びチャレンジを通じてトップアスリートの他、スポーツマネジメントや指導者のキャリア形成を支援する機会の提供を行っております。

＜女子クリケット部・部長 仲野隆士＞



練習会に参加した全員



陸上グランドでの指導場面



ハンドボールコート（テニスボール使用）



ラグビー場に専用マットを設置して



サイモン氏による技術指導場面



テニスボールを用いたバッティング練習

## 4月の芝生管理について

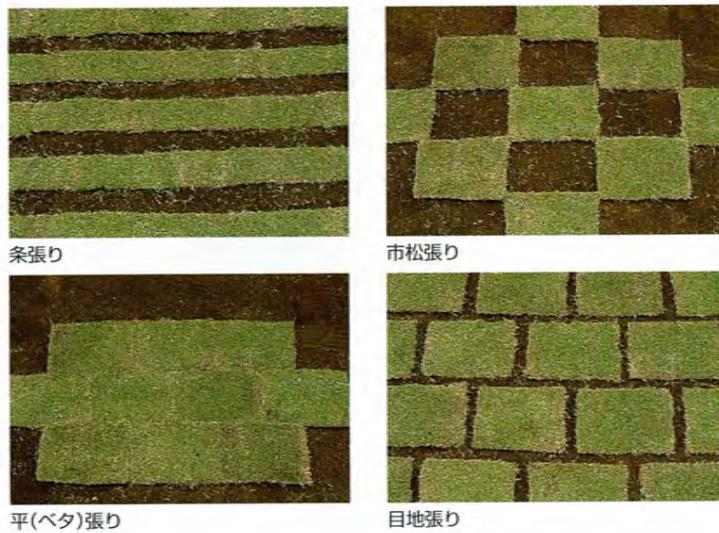
気温がまだ低いので、噴水周りの高麗芝生（暖地型日本芝生）と第二グラウンドバミューダグラス（暖地型洋芝）は枯れ葉色となり生育が止まっています。第二グラウンドは4月になれば少しづつ緑色になります。噴水周りはそれより遅れて5月のゴールデンウイーク明けころから緑色になります。

【参照】月間維持管理については、Monthly Report Vol. 164/2019. DEC から毎月掲載済み

春を迎える今回は家庭で楽しめる芝草の張り方を説明します。

### 1. 芝張りの仕方

芝張りの境界部分に白い4mm程度のポリプロピレンのひもを張ると直ぐに植え付けることが出来ます。境界がはっきりして美しく仕上げられます。



#### 1) 市松張り（いちまつぱり）

一枚おきに市松模様に張ります。4月に張れば10月までには匍匐茎が芝生のない裸地の部分に伸びて行って、節目から下に根を張り上には直立茎が伸びて芝生を造ります。また、地下で匍匐茎が絡み合うので、踏圧や擦り切れに強い芝生を形成します。

#### 2) 目地張り（めじぱり）

芝生と芝生の間に3~5cmの隙間を開けてレンが積み模様にします。4月に張れば8月ころには全面が芝生で埋まります。

#### 3) 条張り（すじぱり）

芝生を5~10cm幅に芝生を任意の長さに切り、5cm程度の隙間をあけて張ります。4月に張れば10月までには全面に芝生を形成します。

#### 4) 平張り（ひらぱり）

隙間なく全面に張ります。ベタ張り、詰め張りとも言います。芝生の間に隙間があると、目土や床土が雨で流れたり、雑草が発生します。予算の都合もあるでしょうが、できれば平張りをお勧めします。

## 2. 目土と水やり

芝生を張ったら、目地（苗と苗の間の隙間）を埋め、また芝生に適度な水分を維持させるために目土をします。目土の量は、水やり後、芝生の葉が見える程度です。目土を行った後は、足で踏んで転圧し、それから水やりし、水がいったん浸み込んだら再び水やりして水浸しになるまで繰り返します。水やりによって目土を芝生の根や茎の間に落して葉を出してあげます。

## 3. 芝張り後の維持管理

芝生が根を出し地面に定着するまでの約1か月間が注意の必要な養生期間です。その間に芝生が乾かないように頻繁に水やりをします。また、植え付け1週間後に化成肥料（N-P-K=10-10-10）などを40g/m<sup>2</sup>程度施します。

写真・参考文献：NHK趣味の園芸  
(3月26日記)

## 「高校スポーツの安全を守る」Vol. 35

担当： 今野 桜 助手

仙台大学附属明成高校では3月3日に卒業式が行われ、私達川平ATRでもサポートしてきた多くの生徒達が卒業していました。今年の卒業生にとって高校生活最後の1年間はコロナウイルスの影響で多くの学校行事が中止になり、部活動も今まで通りの練習や大会ができない状態が続き、悔しい思いをした生徒が沢山いると思います。それでも部活動の時間になると仲間と共に励ましあいながらスポーツを楽しんでいて、そんな彼らの姿を見ていて自分の方が勇気づけられた気がします。卒業後の進路はそれぞれ違っていますが、高校生活で学んだこと、経験したことを存分に活かして将来立派な大人になってほしいと思います。卒業生を送り出すと同時に、川平ATRでは新入生を迎える準備を進めています。まずは新入生対象のフィジカルチェック「Freshman Entrance Screening(FES)」を通して一人一人の体の特徴を把握し、その結果をもとに起こりやすい怪我の予防や今後のトレーニングを行っていきます。年度初めは1年生の怪我が特に多く発生します。その中には、自分の体を知った上で普段から弱点克服のためのストレッチやトレーニングなどをすれば防げた怪我も沢山あります。川平ATRではそういう怪我が少しでも減り、仙台大学附属明成高校の生徒たちが楽しく安全に充実した3年間を送れるように新学期からも活動してまいります。

### 令和2年度「最終講義」を開催



令和3年3月16日14:00～LC棟1階において令和2年度「最終講義」を開催しました。新型コロナ感染防止の観点から、対面方式での開催のほかオンライン（Google Meet）配信も同時並行で実施し学生・教職員80名が聴講しました。

最終講義は、本学で永きに亘り勤務された教員が定年退職する際行う講義で、退職教員への敬意を表し功績を称える記念行事として先生方のご意向を伺ったうえで実施しています。今年度は、遠藤保雄学長と学術会代表幹事の柴原茂樹教授による最終講義を行いました。

朴澤理事長・学事顧問による開会のご挨拶後、講師紹介として最終講義を行うお二人の先生方の、これまでのご経験とご功績等を高崎健康福祉学科長と高橋仁副学長から紹介いただきました。

柴原教授の「新型コロナウイルスからのメッセージ：知は力なり！」と題した最終講義では、ウイルス、遺伝情報の伝達のしくみ、新型コロナウイルスワクチンの特性など、酸素に魅了され生体色素が彩るストレス応答の研究に従事された柴原先生ならではの視点からユーモアを交え新型コロナウイルスとの共存を図るためのポイントなどが語されました。次に遠藤学長の「スポーツ経済の解剖学『スポーツ経済学』」と題した最終講義では、スポーツ経済学研究の新しい流れ、ビジネスに影響されるスポーツ、国民経済とスポーツ経済など、経済学の枠組みをいかにスポーツ経済に当てはめ分析していくか等を熱く語ってくださいました。

最終講義の終了後には花束贈呈が行われ、柴原教授には学生代表としてゼミ生の沖田さんと教職員代表の大山教授から、遠藤学長には学生代表として大学院生の高橋さんと教職員代表の山梨講師から、これまでのご指導や大学でのエピソードなど感謝の言葉が述べられ花束が手渡されました。その後写真撮影が行われ、和やかな雰囲気に包まれた最終講義となりました。



学生代表花束贈呈 (柴原ゼミ: 沖田さん、院生: 高橋さん)

教職員代表花束贈呈 (大山教授、山梨講師)

なお、退職なさる先生方から温かなメッセージをお寄せいただきましたので以下のとおりご紹介します。

## 「在職中の思い出」

副学長 青沼 一民

平成26年4月～令和3年3月までの7年間、仙台大学で勤務できましたこと大変うれしく思いますとともに感謝申し上げます。

昨年からコロナ禍での対応に追われる状況の中で、新たな生活様式が求められましたが、在職中の思い出として、教員養成に携わる機会をいただいたこと、また、国際交流の一環として中国、瀋陽師範大学と本大学との海外武道実習及び協定10周年記念行事として瀋陽師範大学での式典行事に参加したこと等、とても印象深く心に残っています。



私は、毎年「教職を志す」学生と接し、学生の大半が教職を目指して入学していますが、その動機に小・中・高校時代の教員の影響を強く受けたこと、教員の家庭で育てられ親の背中を見て影響を受けたこと、近隣の小・中学校等での学校支援ボランティア活動を通して児童生徒と接する中で影響を受けたこと等、実際に様々な形で「志」を育んでいる学生と接してきました。

これまで「教員」としての素養、知識・技能、モチベーションアップのために自ら学修に取り組む姿から、現役で教員採用合格及び過卒2年以内に合格する学生は、「志」を強く持って迷うことなく2年生後半～3年生前半までに積極的に学修に取り組み、毎日

コツコツと自分のペースで生活している学生と接し、このような学生こそ教員になって欲しいと願うと同時に、実現できて旅経つ姿を見送るのも嬉しい限りです。

合否の時期には、親のようにドキドキですが「合格」の結果を手に入れた瞬間に学生とともに努力が報われたものとして喜びを分かち合ったものです。これから学校現場で「教員」として働く重要性と資質を十分に身についているのかふと不安になりますが、そこは、本学の強みである体育系学生として集団行動、部活動で鍛えた組織的活動として十分身に付いているので大いに期待できるところで心配ないと思いました。

2018年9月23日～30日の間、中国瀋陽師範大学と本学との協定10周年記念式典に参加してまいりました。特に、10周年記念、陸上競技大会にゲストとして出席しましたが、驚きの連続で、本格的な観覧席も含めた陸上競技場の大きさに圧倒されました。開会行事が早朝7時には開始、各専門領域別学院の学生約1万人が入場行進を行い2日間の日程で各種競技に分かれて参加、競技中に体育主任の粋な計らいで理事長がスターとして、私が入賞者のプレゼンターとして大役を仰せつかり貴重な体験をしました。更に、本学の実習学生やOBの留学生が参加した100m, 100m×4リレーで見事優勝し、多くの留学生から熱烈歓迎を受けていました。

瀋陽市を訪れて感じたことは、広大で起伏のない平坦な土地に高層住宅が乱立している状況から700万人が生活する大都市空間のスケールの大きさに驚くばかりでした。

最後になりますが、在職中大変お世話になりましたこと改めて御礼申し上げますとともに、今後、仙台大学の益々のご発展をご祈念申し上げ御礼の言葉といたします。



## 「東日本大震災から新型コロナ禍」まで

教授 大内 悅夫

私がこの大学に勤務するようになったのは、平成23年4月。あの東日本大震災が発生した日から20日後でした。研究室は前任者の荷物を運び出すことが出来ず、4月いっぱいは自宅待機という状態から始まりました。

この年は5月から講義が始まりましたが、講義以外に当時の学生は、私も引率しましたが、毎日、被災地の支援ボランティアに行って、様々な仕事をしていたのが印象的でした。

その後は、子ども学科の新設、創立50周年記念事業、本学の認証評価に対応することなど、今まで経験したことのない仕事を担当することが出来ました。

また、講義では、「教職実践演習」の立ち上げ、「教養数学」の新設が思い出に残ります。大学での仕事では、教育企画部長を7年務めさせて貰いましたが、現委員長の田中先生、平良先生をはじめ、歴代の委員長、委員の方々、そして最も仕事をして貰いました教育企画室の皆さんのおかげで何とか仕事ができたと思っており、この間、関係された皆様には心から感謝申し上げます。本学の組織は、一般的な組織とは異なり、その対応を誤ると部員そして教育企画室に迷惑をかけることになるので、それはないようにしたつもりですが、配慮が不足した点はご容赦願います。

退職が近づいた令和2年3月からは、新型コロナの影響により6月までの休講、そしてオンライン授業の実施となり、今までの教員生活では想像もしていなかった講義方法が導入されました。これには私のような年配の者にとって全く知識のない状態であったので、本当に参りましたと言うしかありません。

いずれに致しましても、本学での私の人生は、震災に始まってコロナで終わるということになりました。こんなこともあるんですね。

終わりに、仙台大学の益々のご発展と皆様のご健勝をお祈りし、挨拶と致します。



## 「仙南の春よ、永遠なれ」

教授 大宮 勇雄

雪の蔵王に映える満開の桜。仙南の春はなんと美しいのでしょうか。

地球が存続の危機にある今、この豊かな自然と穏やかな生活を次代に引き継いでいくことが私たちの務めだと、見るたびに思います。

話は変わりますが、イタリア・レッジョエミリア市は、世界の幼児教育のトップランナーとして著名です。その原点は何かと問われて、当時（1960年代）のボナッティ市長は、第二次世界大戦時のファシズム=戦争への痛切な反省であるとして、こう語りました。

「迎合し、従順に従う人々は危険であること、新しい社会を構築するにあたって、子どもたちにその教訓を伝えることと、子どもは自ら考え行動することができるという子ども観を育み、維持していくことが必要不可欠なのだと、ファシストの経験が教えてくれた」と。

「迎合する従順」とは、今はやりの「忖度」のことでしょう。自己保身のために権力におもねり、他者を踏みにじっても恥じることがないということです。そしてそれがはびこると、豊かな自然や暮らしが壊される、これが歴史の教訓です。

大学が「研究という特権」を与えられているのはなぜでしょう。「忖度」以外の生き方があるんだよ、「既成」以外の社会がありえるんだよという「心のあそび」がなくては、人類は行き詰ってしまうという知恵から、ではないでしょうか。

仙台大学が「人間と身体に関わる知の府」として、いっそう輝き発展されることを心より祈念しております。

## 「5年間、お世話になりました」

教授 紀野國 宏明

私が仙台大学にお世話になったのは、ちょうど5年前です。それまで警察社会で生きてきた私が突如、大学の教師になりました。早いものであれからもう5年が経ちました。当時を少し振返ってみると、本当に周囲の皆様のご指導やご協力のお陰で、どうにか仕事らしいことができたと改めて思います。この間、苦労したこと、また、とても嬉しいことも数えきれないほどありました。その中のいくつかを皆さんに紹介したいと思います。何より大変だったのは、やはり長年にわたり警察社会しか知らないで生きてきた私にとって新しい教育社会、取り分け大学という社会の文化を知り、これに馴染むということが大変でした。仕事の進め方やそのシステムの違いに戸惑うばかりで、その日その日を過ごすのがやっとの思いでした。一つ例を挙げれば、周囲の皆さんが当たり前に使用している言葉の意味が分からぬのです。シラバス、導入演習等々、わからない言葉が飛び交う社会、今思えば笑い話のようですが、当時の私はまるで外国にでもきたような具合でした。

一方、嬉しかったことは、やはり、たくさんの学生と本気で触れ合うことができたことです。日々の学生との触れ合いは、時間とともに深化し、良いこともそうでないことも、どちらも絶対に忘れられない記憶となって私の中に定着しています。

正直に申し上げれば、以前の私は、やや人間に対する不信、特に若者に対する不信というようなものを持っていたように思います。そんな私が、お陰様で日々目の前で若者達が成長していく姿に触れ、それに感動する日々を送りました。今となり私は若者が大好きになりましたし、心から信頼するようになりました。学生のみんなからたくさんのこと教えられました。ありがとうございました。

このような素晴らしい5年という時間を与えてくれた仙台大学に心より感謝し、学生の皆さんへ心よりエールを送りたいと思います。



## 「今こそ、”Sports for All”」

教授 柴原 茂樹

平成28年度からの5年間、スポーツを奨励する仙台大学での教育という貴重な経験をすることができました。私は、「核」を持たない赤血球の代謝研究（ヘム分解）に従事してきましたが、「多核」の骨格筋細胞（筋細胞）にも興味を持っていました。すなわち、赤血球のヘモグロビンと筋細胞のミオグロビンはヘムを介して酸素を巧妙に取り扱います。さらに、収縮する筋肉は、種々生理活性物質（ミオカインなど）とエクソソーム（核酸とタンパク質などを含む微粒子）を分泌します。エクソソームは全身の臓器に作用し、各臓器の機能を促進します。運動が種々疾患を予防するという事実にも納得できます。

2020年3月11日、東日本大震災による犠牲者の9回目の命日に、世界保健機関（WHO）は新型コロナウイルス感染症（COVID-19）のパンデミック（世界的大流行）を宣言しました。2020年に開催されるはずであった東京オリンピック・パラリンピックは延期され、COVID-19の猛威は今も続いています。コロナ禍での退職になるため、最終講義では新型コロナウイルス（プラス鎖1本鎖RNAウイルス）の繁栄戦略、人類の防御戦略としての多様性（個体差と性差）、そして救世主たるワクチンの概要を紹介しました。

鬱々としたコロナ禍の今こそ、スポーツを介した仙台大学の社会貢献が重要になります。また、革新的なmRNAワクチンが効果を発揮するには、筋細胞における抗原（スパイクタンパク）の産生と分解、そして免疫細胞への情報伝達（抗原呈示）が必須です。まさに筋細胞が世界を救おうとしています。しかし、ウイルスもしたたかですでの、ワクチンの効果を過度に期待すべきではありません。

本学は、スポーツ科学に造詣が深い人材の育成に取り組んできました。コロナ禍の困難な状況においてこそ、仙台大学の真価が発揮されると期待しています。本学のさらなる発展を願っています。

## 「仙台大学の思い出」

准教授 武石 健哉

私は2007年に着任しました。授業、委員会活動では多くの教職員の皆様からお力添え頂きました。授業ではスポーツ実技系の先生方、コーチングコースの先生方、多くの先生方の学生へ対する熱い思いに触れることで、私も炎を燃やしておりました。この炎をさらに大きくしたこととして2019年ラグビーW杯日本開催が決まり、ラグビーを授業でも盛り上げよう、学生にラグビーの面白さを伝えようという意気込みのもと毎週水曜日は取り組み、NZからラグビーインターンシップで来ていたカンタベリー大の学生に授業へ参加してもらったことは忘れられない思い出です。

職員の皆様からサポート頂いたことで、委員会活動に取り組むことが出来ました。仕事に対する職員皆様の熱い思い、責任感に触れ、私もやらなければと何度も気を引き締め、なんとか業務を遂行出来たと感じております。

ラグビー専門の教員としてラグビー部監督も務めさせて頂きました。なかなか自分の形、やり方を見つけることが出来ずに過ごしていたように思います。学生指導で何度も自分自身の力の無さを思い知らされ、人真似では学生に伝わらないと実感しつつ、トライ＆エラーを繰り返し進んできました。部員へはいろいろ大変な思いをさせたんだろうなと思い返しています。

もうすぐ仙台大学での14年間を終えようとしています。出会った皆様、経験した出来事を自分の力にして前へ進む所存です。着任してから多くの皆様に大変お世話になりました。心より感謝申し上げます。仙台大学の益々のご発展をご祈念申し上げます。

～ご退職なさる先生方、温かなメッセージをお寄せいただきありがとうございました～

＜仙台大学学術会運営委員会＞

